宝満山遺跡群7

-第 42·43 次調査-

平成24(2012)年

太宰府市教育委員会

宝満山遺跡群7

-第 42·43 次調査-

平成24(2012)年

太宰府市教育委員会



第42次調査第2面全景(上が北)

本書は、宝満山の西麓の大字内山で行われた文化財調査報告書です。

調査地は太宰府市の北東、宝満山の西麓に位置します。宝満山は古来より信仰の山 として知られていますが、近年は絶好の展望地点として登山客で賑わっています。

今回の調査では、石組みの基壇を伴う平安時代の礎石建ち建物跡が見つかり、宝満山が全盛だった大山寺(有智山寺)の堂舎のひとつと考えられ、宝満山の歴史を知る上で貴重な所見を得ることが出来ました。現在歴史と自然が詰まった宝満山は、保存に向けた準備を進めており、今回の発見は、その動きを後押しするものとなっています。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

最後になりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました、関係各位ならび に諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

> 平成 24 年 12 月 太宰府市教育委員会 教育長 關 敏治

例言

- 1. 本書は太宰府市大字内山で行われた宝満山遺跡群の文化財調査報告書である。
- 2. 遺構の実測には、国土調査法第Ⅱ座標系を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限り G.N. (座標北)を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
- 3. 調査対象地の表土除去および埋め戻しは예松田造園土木に委託した。
- 4. 遺構の実測及び写真撮影は山村、宮崎が行った。
- 5. 遺構全体図のデジタルトレースは、瀬戸口みな子、市川晴美、中原順子、宮崎が行った。
- 6. 遺構の空中写真撮影は南空中写真企画 (代表諫山広宣) が行った。
- 7. 出土した鉄製品の保存処理は㈱タクトが行った。
- 8. 遺物の実測は、福井円、吉富千春、今岡一恵、山村、宮崎が行った。
- 9. 表入力・写真整理は瀬戸口みな子、市川晴美が行った。
- 10. 遺物の整理接合・復元作業は馬場由美、住山景子、末永亜由子が行った。
- 11. 遺物の写真撮影は예文化財写真工房(代表 岡紀久夫)が行った。
- 12. 図の浄書は、福井円、吉富千春、今岡一恵、山村、宮崎が行った。
- 13. 本書に用いた分類は以下のとおり。

須恵器 · · · · · 『宮ノ本遺跡Ⅱ 一窯跡篇-』(太宰府市の文化財第10集) 1992

陶磁器 · · · · · 『大宰府条坊跡 XV - 陶磁器分類-』(太宰府市の文化財 第49集) 2000

土器 · · · · · · 『大宰府条坊跡Ⅱ』(太宰府市の文化財第7集) 1983

瓦 ……『宝満山遺跡群 4』(太宰府市の文化財第79集) 2005

14. 執筆は第42次調査を宮崎、第43次調査を山村、編集は宮崎が担当した。

目次

Ⅰ、遺跡の位置と歴史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-1
Ⅱ、調査体制	5
Ⅲ、調査および整理方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
IV、調査報告	
1、第 42 次調査 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	7
(1) 調査に至る経過	7
(2) 基本層位	7
(3) 検出遺構	8
(4) 出土遺物	22
(5) 調査まとめ	51
2、第43次調査	68
(1) 調査に至る経過	68
(2) 基本層位	68
(3) 出土遺物	68
(4) 調査まとめ	72

写真図版 ・・・・ 主な遺構および遺物写真

付録 …… CD (遺構および遺物写真)

I、遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に脊振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な 様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。

二つの平野には弥生から古墳時代にかけての遺跡が多く存在し、その勢力に挟まれた太宰府には、弥 生から古墳時代にかけての集落や古墳が造られるものの、大規模といえるものは少ない。

古代になると大宰府政庁が置かれ、政庁の博多側には水城跡の土塁が築造されたほか、大野城・基肄城・阿志岐城などの古代山城が周囲の山々に築造されるなど、いわゆる羅城を形成していたと考えられる。大宰府政庁の前面には、いわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。その規模は南北22条、東西12坊におよび、南辺部は筑紫野市まで広がっている。

今回の調査地である宝満山は大宰府政庁の北東に位置し、標高 829 mの山頂からは福岡平野や筑後平野を一望でき、遠く雲仙岳を望むこともできる。この山は信仰の山に相応しく美しい円錐形をしていて、古くは御笠山や竈門山とも呼称された。

宝満山が最初に登場するのは天智天皇の時代で、大宰府の鬼門除けのために宝満山頂に八百万神を祀ったといわれている(『竈門山旧記』)。天武2(673)年には僧心蓮が山中で修行中に玉依姫が示現し、これに感嘆した心蓮が奏聞し、上宮を建てたとしている(『竈門山宝満宮伝記』『竈門山旧記』)。7世紀代の遺物については内山下宮地区、東院谷や辛野地区などで確認されているが、その量は僅かである。

奈良時代になると、辛野地区や山頂南東斜面、大南窟など山中各所で祭祀遺物や製塩土器がまとまって出土し始める。特に山頂の崖下からは8~9世紀の皇朝銭や奈良三彩などの祭祀遺物が出土しており、 遺唐使派遣の安全祈願などの国家的祭祀を行ったと推測される。その後も山頂付近での祭祀は出土遺物から12世紀まで行われたと考えられる。

平安時代になると、最澄が入唐する前年の延暦 22 (803) 年に竈門山寺において、遣唐使の航海の無事を祈り、薬師仏を4 躰造ったと伝えられている(『扶桑略記』『叡山大師伝』)。承平3 (933) 年には沙彌證覚が宝塔を建立し、現在その跡と推測される妙見祠礎石群が残されている(第34 次調査)。その後も多くの高僧たちが訪れることとなり宝満山は最盛期を迎え、応徳2 (1085) 年には白河上皇が「竈門山大神の社は九州総鎮守」という綸旨を下している。鎌倉時代初めの『元亨釈書』にも「有智山寺は西州の大講肆也」といわれるほど勢力を持っていた。12 世紀初頭の長治年間に、宝満山をめぐって石清水八幡宮と比叡山が争い、宝満山は比叡山の末山となった。鎌倉時代末頃には宝満山を金剛界、彦山を胎蔵界とする修験の霊場が確立したと考えられ、盛時には行者方70 坊、衆徒方300 坊、合わせて370 坊あったといわれている。平安時代後期には山中で広く遺物の散布が確認され、竈門神社下宮のところには5×7間の大型礎石建物が造られている。内山・南谷・北谷地区の山麓部での発掘調査では、12 世紀~14 世紀の石組で区画された建物遺構(第29 次調査)、礎石建物(第26 次調査)など坊跡や石垣などが見つかっている。

南北朝期から戦国時代にかけては、宝満山にあった有智山城や宝満城が戦史に登場することとなる。 建武3 (1336) 年、有智山城の留守を預かっていた少弐貞経が、菊池武敏らに攻められた際、山中の社 殿や坊舎が悉く焼失している。天文21(1552)年に高橋鑑種が宝満城の城主になってから、天正14(1586) 年に岩屋城の戦いで高橋紹運が敗れるまで、宝満山は戦乱の舞台となっている。これらの戦乱の中で、 山中は荒れ果てていった。さらに、弘治3 (1557) 年には大友宗麟が有智山、中堂、原で検地を行い、 堂舎は破壊され耕作地化することとなり、残った坊は内山・南谷・北谷の山麓から山中の西院谷や東院 谷に移っている。16世紀末、小早川隆景によって講堂や鐘楼などの社殿が再建されたが、寛永18 (1641) 年には焼失している。その後黒田長政や忠之らが神領の寄進や社殿の建立を行ったが、かつての勢いはなく、寛文5(1665)年には京都聖護院の末山となった。盛時には行者方70坊、衆徒方300坊あった坊も、寛永の頃には衆徒方も2坊にみとなり、結局行者方25坊のみが残り、俗に「宝満二十五坊」といわれる山伏となり、明治を迎えることとなる。明治になると神仏分離令や廃仏毀釈、修験道の廃止などにより、山中の堂塔や仏像など仏教色の強いものは悉く廃され、山伏たちは下山することとなった。現在では内山九重原に有智山城跡があり、山中には16世紀以降の坊跡や墓地、廃仏毀釈で破壊された石造物を見ることができる。

なお、最澄が訪れた。寺院は「竈門山寺」と記され、平安時代後期から鎌倉時代にかけての文献には「大山寺」が用いられ、12世紀以降になると「有智山寺」の名もみられ、南北朝以降は専ら「有智山寺」が用いられている。

参考文献

太宰府市『太宰府市史 考古資料編』1992

太宰府市教委『宝満山遺跡群 4』 2005

太宰府市教委『宝満山遺跡群 5』2006

太宰府市教委『宝満山遺跡群 6』2010

森弘子『宝満山歴史散歩』葦書房 2000

森弘子「大宰府の鎮山 宝満山」『都府楼 39 号』(財) 古都大宰府保存協会 2007 山村信榮「発掘調査からみた宝満山について」『都府楼 39 号』(財) 古都大宰府保存協会 2007 ↑出現. 増加. 減少

2000 24# TT

		1.0	出現. 増加.				2000. 2補訂
2年銘	AD.	大宰府土器型式	磁器区分	国産陶器型 灰釉	式 (型式の上限) 緑釉	標識磁器	準標識磁器
	700-	1 A B					
	725_	Н					
6 -	750-	III.					
	700	IV					
		y:	A A	猿投0-10 井ヶ谷1G-78	長門?・畿内	白磁	唐三彩・二彩
		長門・洛北・(洛 西)・(黒笹K-14)	差別 越州窯系青磁 [] [] 類 長沙窯系青磁 · 黄釉				
	850-	В		篠岡S-4 黒笹K-90	洛西 黑笹K-90	褐彩・褐釉	
	050	VII	A				青磁褐彩・褐軸 初期イスラム陶器
•	900- 925-	VIII					DAM 131 S - Septim
①···	950-	-IX	(A新)	虎渓山1 (折戸0-53)	近江		
1	1000-	X	A	新戸0-53		越州窯系青磁111類 白磁X1類	
	1050-	XI	В	東山H-72 (丸石2)		11 82/13/2	
2 ···	1100-	XII B	l A	丸石2 百代寺 東山H-105 篠岡S-1		白磁椀[f, Tif, VI~3, VI, XII, XIII類 皿II, JV, V, VI, VII類	初期龍泉窯系・同安窯系青磁05 耀州窯系青磁 初期高麗青磁1,11,111類 青白磁
		XIII			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		白磁鉢III類、椀XIV類
	1150_	XIV	4		1	龍泉窯系青磁椀1-1~4.6 皿1類	白磁椀VIII, V-4, 皿III類增加
	1200-	XV	D		* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	同安窯系青磁椀1~1V。皿1類	白磁椀VII, 皿VIII-1類
700		IVX	E			龍泉窯系青磁椀II-a,b類	白磁皿VIII-2類
4/	1230-	IIVX	1			龍泉窯系青磁川類	
9	1250	XVIII	F		1 1 1 2 2 4	白磁IX類	龍泉窯系青磁[1-c類 白磁器
200	1300-	XIX	, i		1 1 1 1 1 1		黒釉陶器
5	1350-	XX	Ī ₆		**************************************	龍泉窯系青磁IV類	白磁B, C類
D	1450-				6 6 1 1		安南鉄絵
8:	1500		**********	+			***************************************

紀年銘資料 ①A. D. 927 延長5年, 大宰府74次SD205A溝

(2)A. D. 1091 寛治5年, 平安京左京4条1坊SE8井戸 (3)A. D. 1224 貞応3年, 大宰府33次SD605溝

(3A, D. 1224 頁163年, 大学府35次30003清 (3A, D. 1304 嘉元2年, 大字府109.111次803200溝 (5A, D. 1330 元徳2年, 大宰府45次8X1200池

⑥A.D. 784 延暦3年.長岡京102次SD10201溝

(7A, D. 1459 · 1465 長禄3 · 寛正5年, 福岡市井相田CII · SG16池 (8A, D. 1501 文亀元年, 大宰府70次SD1805溝

⑨A. D. 1265 文永2年, 博多62次713土壙

献 ①九州歷史資料館 「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982

②田辺昭三·吉川義彦 「平安京跡発掘調査報告左京四条一坊」1975 平安京調査会

③九州歷史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975 ④九州歷史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989

⑤九州歷史資料館「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978

⑥長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1988 ⑦福岡市教育委員会「井相田C遺跡II」「福岡市埋蔵文化財調査報告書179」1988

⑧九州歷史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調查概報」1982

⑨福岡市教育委員会「博多48」「福岡市埋蔵文化財調査報告書397」1995

Fig. 1 大宰府貿易陶磁編年

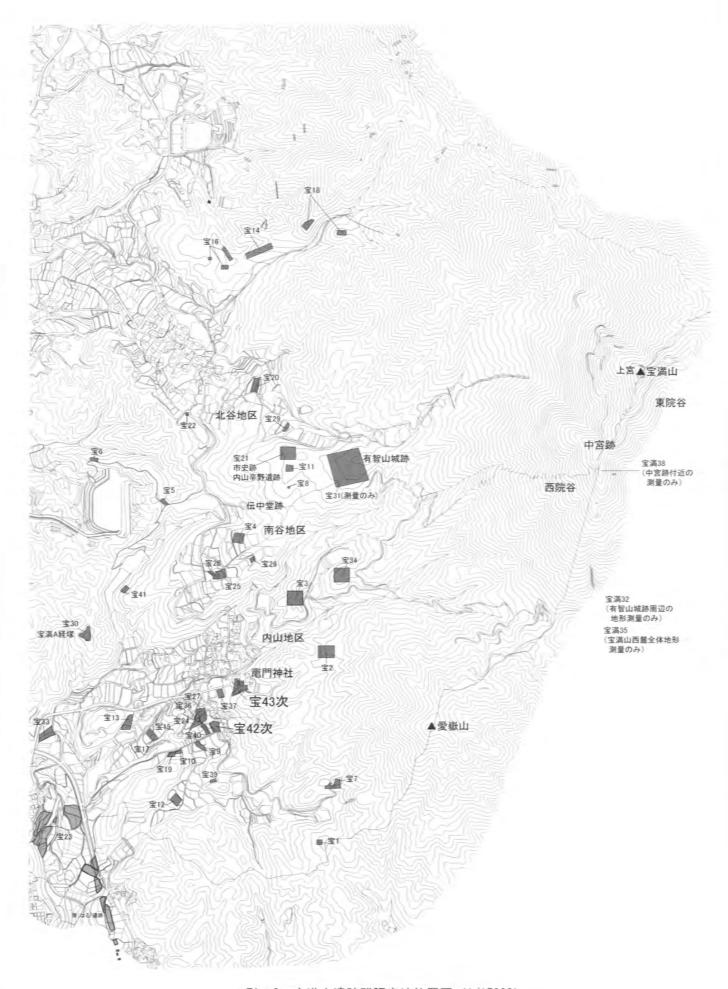


Fig. 2 宝満山遺跡群調査地位置図 (1/15000)

Ⅱ、調査体制

(平成 21 / 2009 年度)・・・第 42 次調査 教育長 総括 關敏治 山田純裕 庶務 教育部長 井上 均 文化財課長 菊武良一 保護活用係長 調査係長 池本義彦 主任主查 吉原慎一 事務主查 橋川史典 城戸康利(都市整備課併任) 調査 主任主查 山村信榮 中島恒次郎 井上信正 技術主查 高橋 学 宮崎亮一 (調査担当) 技師 遠藤 茜 白石溪冴 技師 (嘱託) (平成23/2011年度)・・・第43次調査 総括 關敏治 教育長 齋藤廣之 庶務 教育部長 井上 均 文化財課長 保護活用係長 菊武良一 調査係長 池本義彦 主任主查 橋川史典 主事 古川あや 山村信榮 (調査担当) 主任主查 調査 中島恒次郎 井上信正 高橋 学 技術主査 宫崎亮一 技師 遠藤 茜

技師 (嘱託) 白石渓冴

事務取扱 城戸康利 (景観・歴史のまち推進係長・文化財課併任)

(平成 24 / 2012 年度)・・・報告書発行

 総括
 教育長
 關 敏治

 庶務
 教育部長
 古野洋敏

文化財課長 井上 均 (~6月30日)

菊武良一(7月1日~)

文化財副課長 城戸康利 (7月1日~)

保護活用係長 菊武良一(~6月30日)

友添浩一 (7月1日~)

調査係長 山村信榮

事務主査 橋川史典

主事 古川あや

調查 主任主查 中島恒次郎 (~6月30日)

井上信正

技術主査 髙橋 学

宮崎亮一

主任技師 遠藤 茜

事務取扱 中島恒次郎 (景観・歴史のまち推進係長・文化財課併任) (7月1日~)

なお、調査に際して、次の方々から有益なご教示を得た。記して感謝いたします。(順不同・敬省略) 小田富士雄(福岡大学名誉教授)、森弘子(福岡県文化財保護審議会専門委員)、宮本雅明(故人. 都市・建築遺産保存支援機構理事長)、河上信行(河上信行建築事務所)、吉田東明(福岡県文化財保護課)、江上智恵(久山町教委)

Ⅲ、調査および整理方法

調査および整理方法については、『佐野地区遺跡群 I』(太宰府市の文化財第14集 1989)、『太宰府市 における埋蔵文化財調査指針』(太宰府市教育委員会 2001年9月改訂)に基づいている。

第42次調査では、表土剥ぎはバックホーによって行い、調査後は真砂土で埋め戻している。遺構図 や土層図は適時 1/20 等で記録し、遺構全体図は人力によって 1/20 の縮尺で実測を行い、整理段階でデ ジタルトレースを行った。

第43次調査では、バックホーによる試掘調査や工事立会調査を中心に行い、関係文化財の実測調査 や資料調査を行った。

整理報告に際し、国内からの搬入品については形状が確認できるものは極力報告することに努めたが、 整理報告作業の効率化と報告書のスリム化のため、規格性が強い輸入陶磁器については『大宰府条坊跡 XV - 陶磁器分類-』を基に分類し、出土遺物-覧表に分類と破片数を掲載したのみで、実測作業は基 本的に行っていない。しかし、未分類のものや稀な陶磁器などについては実測し報告している。よって、 遺構時期の検証については、出土遺物-覧表も同時に確認して頂きたい。

これらの調査で得られた出土遺物や実測図は太宰府市文化ふれあい館に保管している。

IV、調查報告

1、第42次調查

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市大字内山字大門 919-1、920-1、1642-2の一部で、宝満山の南西麓にある竈門神社の南方 150m に位置する。この土地については、前地権者の楠林家に昔お堂があったという伝承が残り、昭和 50 年代までは礎石が露出していたというが、その話も想像できない程の穏やかな田園風景となっており、その話も風化しつつある状況であった。

確認調査は平成 21 (2009) 年 5 月 7 日に実施し、耕作土直下で遺構が確認された。工事計画と照らし合わせ検討したところ遺構の削平は免れないと分かったため、本調査を実施することとなった。調査は平成 22 (2010) 年 4 月 8 日~ 7 月 31 日に実施した。調査は宮崎亮一が担当した。開発対象面積は980㎡、調査面積は877㎡である。

調査進行する中、基壇や礎石が検出され、遺構の重要性が増してきたため、6月21日地権者である 木本国雄氏と保存についての協議がもたれ、6月24日に木本国雄氏から保存の意向が示された。6月 25日に文化庁近江俊秀調査官が現場を視察、重要な遺跡であるとの認識を示された。7月13日井上保 廣市長に保存処置について説明し快諾される。7月16日にはマスコミ発表、翌日記事が掲載される。7 月19日に現地説明会を実施し、猛暑の中約80名の参加があった。

調査は基壇を伴う礎石建物の検出面で終了し、それより下位については、一部トレンチを設定したのみで、ほとんど調査は行っていない。また、埋め戻しについては、全面真砂土を搬入し、遺構面からおよそ 20 ~ 30cm 前後の厚さで覆い遺構を保護した。その後は地権者の意向に沿う形で、行政による遺構保存が確定するまでの間、遺構に影響ない形での利用が行われている。

(2) 基本層位

調査直前まで調査区は3段の田圃が残され、周辺住民や元地権者によると、この地形は昭和以降変わ

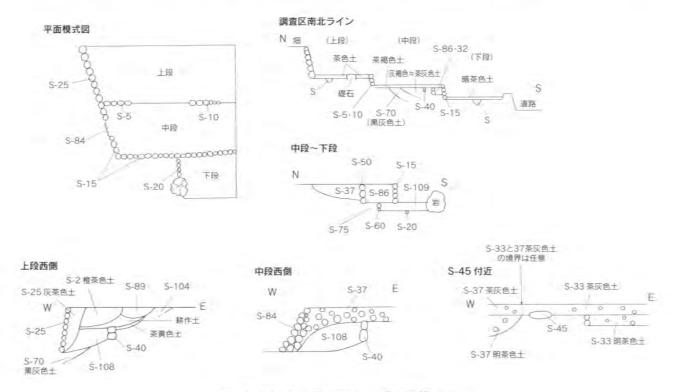


Fig. 3 第 42 次調査区および土層模式図

らないという。耕作土は調査前に地権者によって除去されていたが、上段・中段の遺構面は共に厚さ 0.3mの耕作土直下に存在するという極めて浅い状況であった。下段については 0.7m 前後とやや深い位置に遺構面が確認された。上段の田圃では、むかし大石が露出していたため、4個ほど動かしたという。1個は南側の法面に置き、他は西側の枇杷の木の所に動かしたといわれ、法面に置かれた大石は現在も残っていた。太宰府顕彰会刊行の『宝満山及び竈門神社周辺の遺跡分布調査報告書』でも礎石が 2 基あったことが報告されている。

また、石垣の近くは田圃の水が抜けて陥没することがあったため、その穴にビニールシートなどを入れ込んで塞いだことがあったらしい。それを物語るように表土めくりではテントのシートやビニールが出てきた。それだけ隙間があり流れ込みや陥没が起こる地盤状況であったということは、現代物が流れ込むことは容易であったということであり、遺物が年代決定の直接的な証拠とは必ずしもなり得ないということを感じた。

遺構面の基盤層は、土地の形状通り、北東から南西方向に向かう堆積状況が確認でき、北東端に近いほど遺構面に地山が露出している状況であった。地盤堆積層で現在確認できる最も古い土層は、9世紀中頃前後の炭混じりの堆積層 (SX070) である。地山は礫混じりの茶褐色土で安定しているが、この礫混じりの地山が調査全般にわたって、自然か人為的かで判断を惑わす結果となった。

(3) 検出遺構

建物関連遺構

建物

42SB001 (Fig. 5·6、巻頭図版)

上段で検出された礎石建物跡である。原位置を保っている礎石は3基のみである。それ以外は礎石抜き取り痕であった。礎石は大きさ $0.6 \sim 1 m$ 前後で、上面には明確な柱座などはないが、全体的に上面は平坦面を造り出しているようで、礎石 d に関しては、上面中央に径 18 c m 前後の僅かな窪みがある。礎石下には根石が僅かに確認できたが、遺構検出面には殆んど露出していなかった。礎石抜き取り痕については、埋土に現代の遺物が見られたため、当初は撹乱とみていたが、この撹乱坑が礎石と等間隔で並んでいたことと、元地権者が田畑の耕作面から頭を出していた礎石 4 個ほどを、重機で除去したという話から、この撹乱坑は礎石の抜き取り痕と推測した。よって、埋土に現代物が混入するのは当然ということになる。礎石抜き取り痕については、大きさ 1 m 前後、深さは $0.1 \sim 0.4 m$ 程の土坑で、掘り込みの浅いもの $(b \cdot c \cdot e)$ については、その中で検出した礫が根石であろうことは明らかであったが、深いもの $(f \cdot m)$ は、掘り方周囲は礫が比較的多く集まり根石のように見えるが、地山が礫層であることから、この抜き取り痕がどれだけ撹乱されずに当時の痕跡を残しているのかは確証が得にくい状況であった。また、礎石や礎石抜き取り痕がその溝状土坑の埋土上に載っているもしくは掘り込んでいる状態である。これは建物の建て替えの際に礎石を掘り返したものと推測している。よって、建て替え前の建物については同規模の可能性が高い。

以上のように上段で検出された礎石や抜き取り痕跡で推測される建物跡は、西側と南側が耕地造成により削平されているが、身舎は桁行 3 間 (12.3m 前後) ×梁行 2 間 (6.4m 前後) と推測される。現存礎石 d と j の間に礎石があった痕跡がないため中央に柱はなく、桁行の柱間は約 4.1m、梁行の柱間は約 3.2m とやや広い柱間を有していたと推測される。また、身舎の周囲には礎石抜き取り痕のような浅い土坑と集石などが 5 ヶ所確認されたため庇が巡っていたと考えられる。しかし、南側と西側が削平されているため遺構として確認できるのは東側と北側のみである。これら遺構状況から考えた場合、建物規

模は東西 5 間 (18.7m 前後)、南北 4 間以上と推測される。北西側の庇の礎石抜き取り痕 (SB001s) については、SX089 の礫敷に根石が混ざっていたことに調査中気付かず除去してしまい、現在は掘り方のみを残している。

また、建物南側の中段では大石が2個 (S-119a・b) 残されている。身舎と石段との間に10m程の空間があることから、身舎の南側正面に礼堂のような建物が取り付いていた可能性が考えられる。しかし、大石の周囲を精査したものの、根石や掘り方のようなものは確認できなかった。また、身舎の礎石の上面レベルより約0.8m低い位置に大石がある。SX035の状況から基壇の石列は存在したことは間違いないだろうから、基壇が一様に上段と同レベルだったとすると大石は完全に埋もれてしまう。少なく見積もって基壇の石積みが1段だったとしても、大石はほとんど埋もれてしまう。このことから、この大石を礎石とするのはかなり難しい。逆に0.8m前後の落差があるということは、南側に礼堂など建物が続いていた場合、それらの礎石や根石などは削平され、消失した可能性が十分考えられるということになる。

そして、建物の屋根については、瓦葺かそれ以外の有機物を用いたもの(板葺、杮葺、檜皮葺など)かについてであるが、表 4 のとおり、調査区全体で総重量 582kg の瓦が出土した。丸瓦・平瓦での分類を行っていないが、丸瓦 (2kg) で約 291 枚、平瓦 (3kg) で約 194 枚に相当する量である。その内容は横長斜格子叩きの出土が多いが、縄目叩きも比較的多いことがわかる。また、劣化が目立ち叩き目不明の瓦が全体の 46.9%を占めている。現存礎石の建物を SX030 埋没以降のものと推測している現段階では、SX030・035 から全体の約 53%の瓦が出土していることを考えると、現存礎石の建物については、一部瓦葺という可能性はあるにしても、完全な瓦葺ではなかったとするのが妥当である。これらの瓦は、建て替え前の建物に葺かれていたものか、瓦の劣化具合から、上方の建物の瓦などが流出し堆積したものである可能性が考えられる。

基壇

42SX040 (Fig. 5・7・8・巻頭図版)

礎石建物 (SB001) を囲むように検出された石積みで、北側こそ調査区外となるが、それ以外の東・南・西側で確認され、現状でコ字形を示している。南西隅は17世紀に大量の礫を投じた整地によって分断されている。

基壇の規模は東西 24.3m、南北 22m以上で、基壇の石積みには、長さ $0.3 \sim 0.5$ m、高さ 0.2m 程の花崗岩礫を使用し、現状では 3 辺とも $1 \sim 2$ 段分(高さ 40cm 前後)が残っている。西辺の基壇設置レベルが東辺より 0.4m 低いことや現存する礎石の高さなどから考え合わせると、当初基壇の高さは西側と南側で約 6 段分(1m 前後)、東側で約 4 段分(高さ 0.6m 前後)ほどであったと推測される。西辺については石積みが崩落したような痕跡は確認できなかったが、東辺では 10 以下は 10 以下は 10 以下は 10 以下に基壇と同様の礫が埋没している状況が確認された。また、基壇の正面と両側面それぞれに階段状の石列(12 12 13 以 13 以 14 以 13 以 14 以 15 以 15 以 15 以 15 以 16 以 17 以 17 以 18 以 19 以 11 以 19 以

西側の石列付近で、炭混じりの堆積層 (SX070) が確認され、その直上に石列が造られている。この 堆積層から出土する遺物は9世紀中頃前後のものである。また、北側は畑地の高石垣で埋没しているが、 遺構は残っているものと推測される。

階段状遺構

42SX045 (Fig. 8)

基壇 (SX040) の南辺の中間に横長の花崗岩礫が並んで検出されたため、基壇に伴う石段と考えられ、 その位置からも正面の階段と考えられる。西側を近世〜近代の削平を受けているが、幅は約4.3mで、

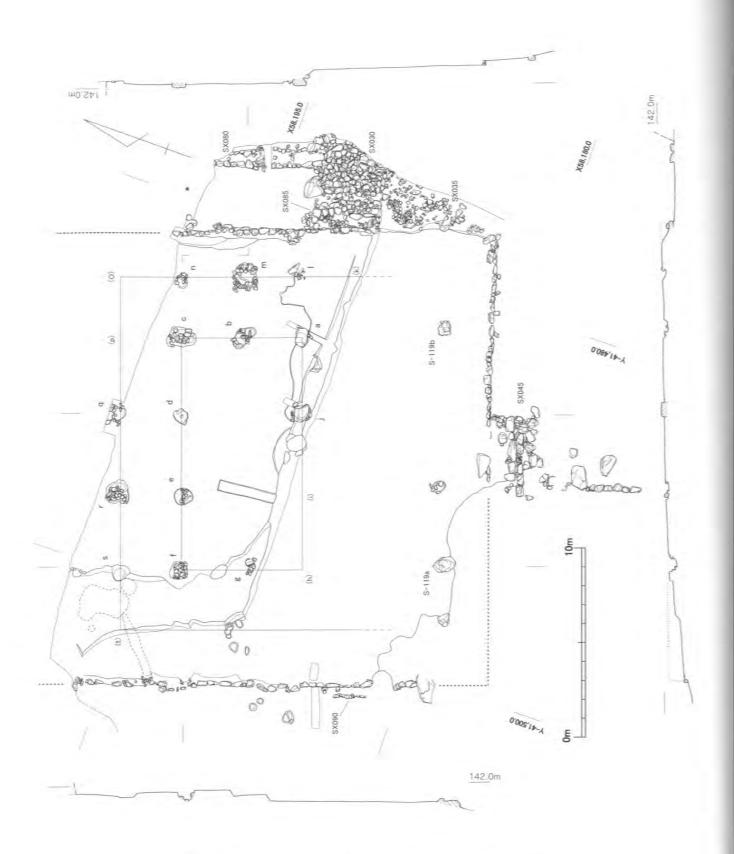


Fig. 5 第 42 次調査第 2 面 (42SB001) 遺構実測図 (1/200)

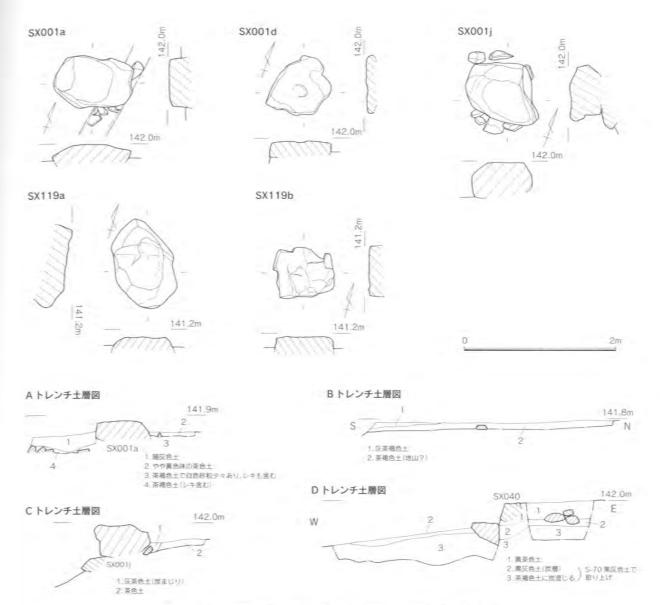


Fig. 6 42SB001 礎石およびトレンチ土層実測図 (1/50)

現存する高さは約0.4mで、確実なものとして2段分は確認できる。不安定要素ではあるが、残存している大石の状況から、さらに南側に2段程石段があった可能性が考えられる。また、最上段の石列東端と基壇との間には、0.2~0.3mほどの礫を並べる。石段と平行して基壇の石列も確認できるため、基壇の施工後に石段が施工されたと考えられる。ちなみに石段上面と現存礎石周囲の地盤との高低差は約0.8mである。

その石段南側付近には同じような大きな礫が多く検出された。これらは安定していなかったことと、 SX050 やSX065 の延長上にあたるため、近世以降の改変で石段の大石が移動された可能性が高い。

42SX085 (Fig. 9 · 10)

基壇 (SX040) の東辺にある SX030 の石敷に埋もれて、基壇から 1m 程離れたところに平行する石列がある。石列の長さは 3.65m で、他の石敷に一列に並べたものがなく、明らかに異なる敷き方から基壇に伴う石段と推測した。現状では 1 段分が明確だが、この上面にも礫が部分的に残っており、数段あった可能性がある。また、後述するように SX030 の石敷は 2 層あり、下層の石敷が石段のちょうど下位にあるため、同一時期の可能性が考えられる。

42SX090 (Fig. 7)

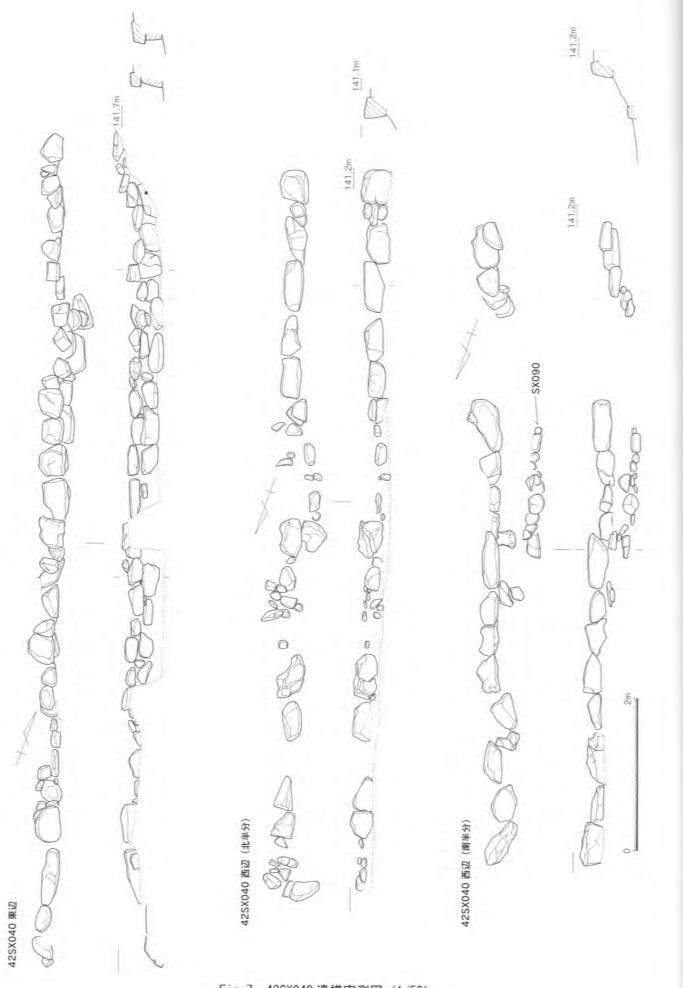


Fig. 7 42SX040 遺構実測図 (1/50)

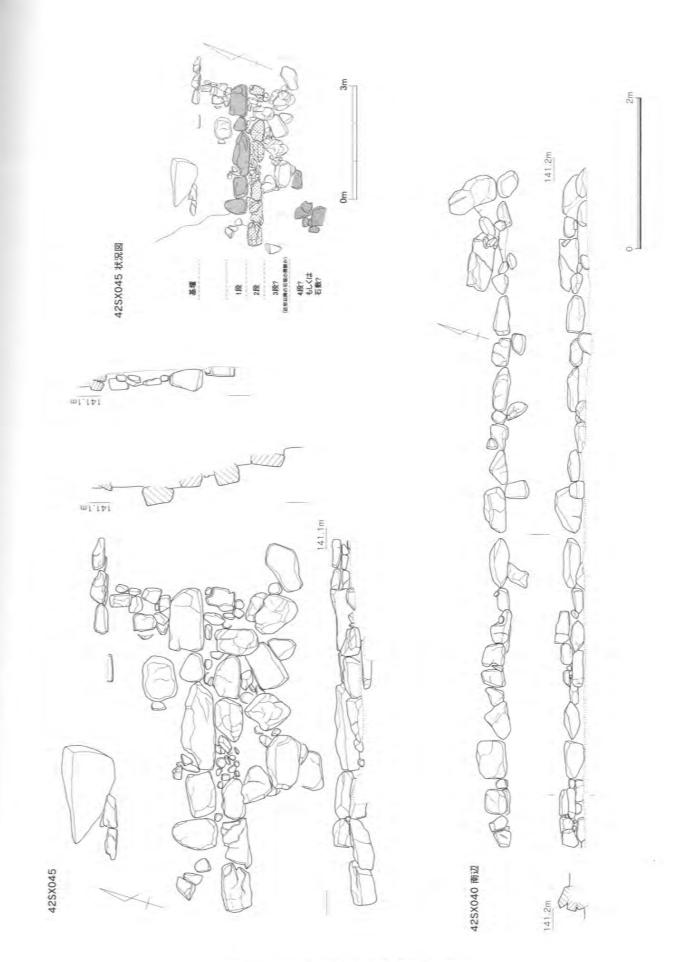


Fig. 8 42SX040·045 遺構実測図 (1/50)

基壇 (SX040) の西辺に沿って、0.5m ほど離れた所に、礫が長さ 1.7m 程並んでいる。礫の大きさは $0.1 \sim 0.3m$ とバラツキがあり、石段であったとすればその残骸となるが、これだけでは明確に石段と は言い難い。しかし、対面の東側に SX085 があることから、石段は可能性のひとつと考えたい。

基壇東側の遺構

42SX030 · 035 (Fig. 9 · 10)

基壇 (SX040) の上段部の東側で検出した一段低い土地と石敷を SX030 とし、SX030 南側の中段で検出した礫群を SX035 として調査した。現況が耕地の段差で高低差があるが、平面的には基壇の東側に直線的に続いているため同一遺構と考えた。 SX030 は幅 3.4m、長さ 4.8m以上の規模で、表土を除去した段階では、水気の多い灰色の粘質土が広がっている状況であった。これらの埋土を掘り下げると礫が検出されたが、南北で礫の状況に違いが確認された。

北半分は灰色粘土に混じって、大きさ $0.1\sim0.2$ m程の礫が広がっていて、それに混じって多量の土師器片が出土した。この礫群に人為性は見出せず、自然に堆積したものと考えた。基壇に近い所では0.3mを越える礫が検出され、基壇の石列が転落したものであることは明確であった。

南半分は大きさ 0.3 ~ 0.5m 程の花崗岩礫を使用した石敷である。検出時上面には灰色砂質土が覆っていた。石敷は南側の段差部分の観察から 2 層になっていることが分かる。上層は南北 3.1m、下層まで含めると南北 3.8m あり、さらに南側はちょうど耕地の段差で途切れているように見えるが、すぐ下の SX035 に瓦敷がある状況から、石敷の範囲は、残存範囲に近いものと推測される。石敷の下層がどのように展開するかは、上層を残しているため不明であるが、東端に並ぶ SX080 の石列と同レベルにあるため、それと繋がっているものと推測される。前述したように石段と推測される SX085 と下層の石敷は同時期の可能性が考えられるため、下層の石敷は基壇が造られた初期のものと推測される。同じ場所に石敷を造っていることから、石敷のかさ上げを行ったと推測される。この石敷の西側では一列に並ぶ石列が 2 列混ざっている。これは基壇側が石段(SX085)と考えられることは前述したとおりで、その東側に並ぶもうひとつの石列とはおよそ 0.75m の間隔があるため、北側の水が抜ける水路をなしていた可能性も考えられる。

SX035 では礫は散在していたが、目立った石敷は検出されなかったが、一部平瓦が敷かれている部分があった。SX030 の石敷下層のレベルより瓦敷が 0.2m 程低いため、元々 SX030 のような石敷はなかった可能性が高く、礫群は SX030 北側と同様に転落堆積したものと考えられる。SX035 は基壇南辺部まで続いているが、南端付近の切り合いは不明瞭で、作業上基壇屈曲部までとし、それより南は SX032 として分けた。

42SX080 (Fig. 9)

SX030の底面で検出された2列に並んだ石列。石列の幅は0.8~1.2mと一定の幅ではない。北側は調査区外に続いていく。石材はそれぞれ外側に面を合わせているようで溝とは考えがたい。しかし、溝間の埋土は暗灰色粘土で埋没時の堆積土のようでもあった。年代は不明だが石列間に樹木の根があり、埋土に木質が多くみられたことから、花壇のような植栽帯のようなものも可能性のひとつであるが、現状では不明と言わざるを得ない。

石垣 (石積み)

42SX005 (Fig. 11)

上段の耕作地南側法面の西側に造られた石垣で、検出長 5.8m、高さ 0.8m 前後である。下部に 0.6m 前後の大石を据え、その上に 0.3m 前後の礫を用いている。施工範囲が SX002 橙茶色土の範囲のみに限られているため、その整地の際に築いたものと推測される。

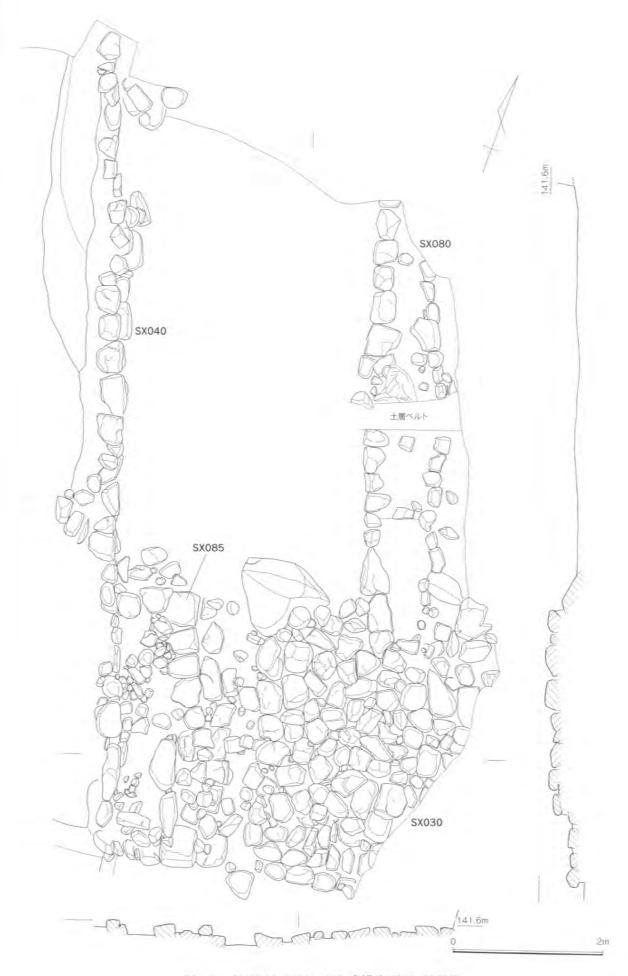


Fig. 9 42SX030·080·085 遺構実測図 (1/50)

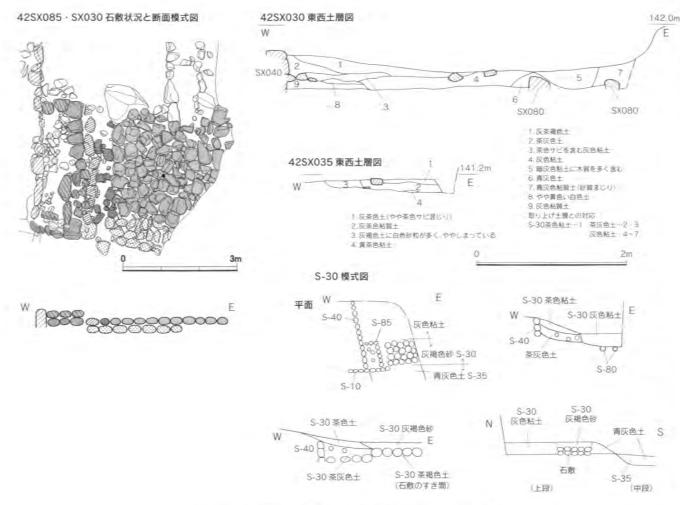


Fig. 10 42SX030・035 土層図 (1/50) および模式図

42SX010 (Fig. 11)

上段の耕作地南側法面の東側に造られた石垣である。検出長8.7m、高さ0.4m前後であるが、石垣の下端と中段面とのレベル差が0.4m前後あり、現状では石垣が浮いた状態になっている。これは中段面の耕作土上に造られたもの、もしくは石垣構築後に中段面が削平されたことによるものであろう。SX005に比べ使用している礫が小さく雑に積まれていることや設置レベルの違いなどを考えるとSX005と時期差があり、SX005より新しく積まれた可能性が高い。

42SX015 (Fig. 11)

中段の耕作地の南側と西側に造られている石垣で、全体的にやや蛇行している。南側は長さ 20.5m、高さ 0.8m 前後で、西側 5m 程は南接する田圃がさらに下段面より低いため高さが 1.2m 程ある。西側は南側の石垣が L 字状に屈曲した続きで、西隣の 2 枚の田圃を分けている畦畔部分で途切れている。長さ 7.2m、高さは 1.2m 前後で、部分的に礫が抜け落ちている。

42SX025 (Fig. 11)

上段の耕作地西側にあり、SX002の整地と一緒に造られた石垣である。検出長は約10m、高さは1.8m だが、石垣西側がスロープになって北側ほど石垣が埋まっているため石垣がどう続くかは不明瞭である。 南側については、SX084の礫露出部分が続いていて、それとの境がやや不明瞭となっている。また、中段面にかかった部分で一部石垣が追加され、かさ上げされている部分がある。

-18 -

42SX050 (Fig. 12)

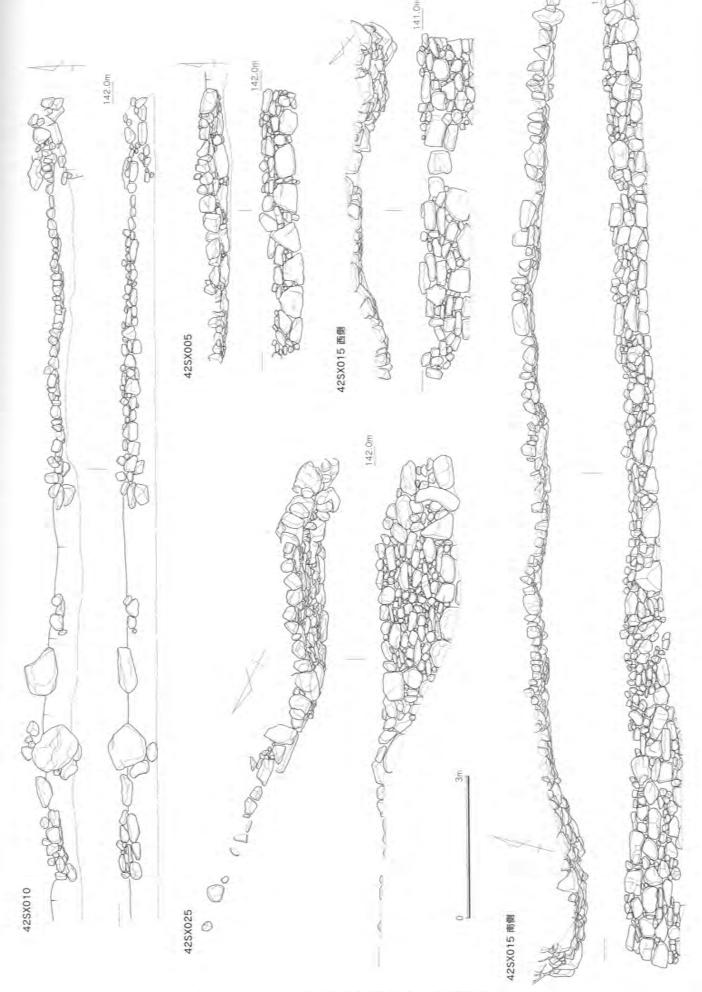


Fig. 11 42SX005 · 010 · 015 · 025 遺構実測図 (1/80)

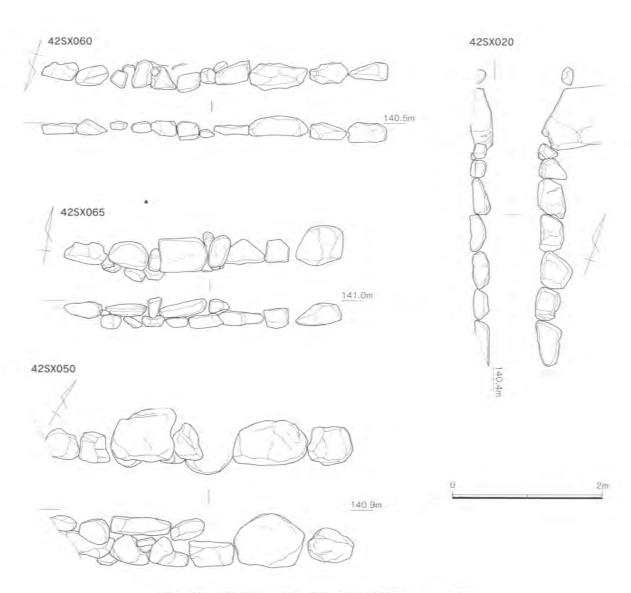


Fig. 12 42SX020 · 050 · 060 · 065 遺構実測図 (1/50)

中段南西側で検出された東西方向に積まれた南面する石垣で、SX037の整地に伴う石垣と推測される。他の石垣に比べ、0.5mを超える大きな石が用いられ、積み方も異なっている。検出長は4.1m、高さ0.7m前後で、2段分が残っている。石垣背後には大小様々な礫(SX037)が検出された。また、東側の石垣が途切れた付近には黄茶色土混じりの灰茶色土の堆積層が確認され、SX050の上面にもその堆積層が僅かに確認された。この堆積層からは近代以降の遺物が出土することから、その頃に破壊・埋没したものと考えられる。

42SX065 (Fig. 12)

検出長は3.7m、高さは0.3m前後で、2段分が残っている。SX050の延長上に位置するため同一遺構の可能性も考えられるが、使用する礫の大きさや石の積み方が異なるため、明確に言い切れない。また、基壇南辺と平行しているが、その間には大小様々な礫層(SX033)があり、17世紀の遺物が含まれているが、前面からも同時期の遺物が出土している。

石列

42SX020 (Fig. 12)

下段で検出した石列で、方位は南北方向を示し、西側に面を合わせている。北側については SX015 の

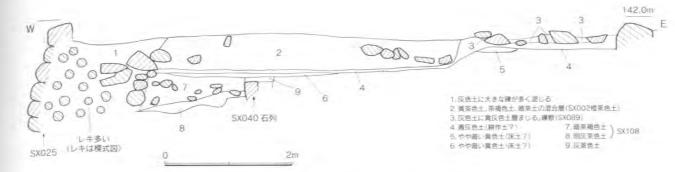


Fig. 13 42SX002 · 089 土層実測図 (1/60)

石垣の下から検出され、SX060 まで検出されなかったが、レベル的にそれより低い位置に造られている。 南側は巨石までであり、検出長は 2.95m、高さは約 0.2m で、礫 1 段分しか検出されなかった。この石 列の北側延長上には SX045 の石段があり、石列のやや南側で石敷のような礫群が検出されたため、通路 の西肩であった可能性も考えられる。しかし、現代耕作地の段差の位置に近いため、耕作地の石垣の一 部である可能性も残している。

42SX060 (Fig. 12)

SX045の南側で検出された東西方向の石列で、検出長は4.6m、高さは0.2m前後で、礫1段分しか検出されなかった。築造当初これ以上の規模であったかどうかについては不明瞭である。よって、この石列の性格が分かりづらいが、北側に石の面を合わせ、その前面には砂層が堆積していることから、SX050やSX065と対応する田圃の石垣の一部もしくは水路の一部である可能性が考えられる。

整地層

42SX002 · 089 (Fig. 13)

上段西側の耕作化の際の整地層であるが、SX002の南側のみに石垣(SX005)が造られていることや SX089が礫を敷き詰めていることから、SX002とSX089とでは時期差があることは明瞭で、SX089の方が古いと考えられる。

建物廃絶後に SB001f 近くまで削平され、耕作地として利用されていたが、その後幅約 2m 前後で礫を敷き詰め整地している (SX089)。SX089 の南側が中段との段差で途切れている状況から、礫敷 (SX089)を行った当初、中段面は一部もしくは全て上段面と同じレベルだったことを物語っている。推測の域を出ないが、礫敷 (SX089)を行った当時、身舎があった範囲については上段と同じレベルで礎石も含め残っていたのではないだろうか。しかし、礫敷の行為が何を意味するのかは明確でない。これらの整地については調査で除去し現存していない。

SX002 については、その下位で SX040 西辺石列直上に田圃の床土 (黄色土) と耕作土 (灰色土) が検 出された。耕作土の残り具合が少なかったことから、SX002 の整地前に耕作土を一旦剥ぎ取り、整地し たものと推測される。

42SX033 · 037

中段の西側と南側に広がる礫層で、大小様々の多量の礫が検出されたが、大きさ 0.5m を越えるものも多く、その中には 1m 程の大石もあった。基壇(SX040)を分断していたことと礫に混じる遺物から 17 世紀前半に行われた整地と推測した。整地の深さに関して、完掘していないため不明である。これらの整地が田圃としては良好でなかったことが、水が抜け陥没することがあったという元地権者の話が物語っている。SX045 のすぐ西側の一部で集中して近代の遺物が出土するところがある。これは SX037で取り上げたものの、その後の改変時か耕作時に生じた陥没を埋めたものと推測される。

(4) 出土遺物

建物

42SB001c 出土遺物 (Fig. 14)

瓦類

丸瓦(1) 格子叩 I-C-b に「介」の文字瓦。焼成良好で灰白色や茶褐色を呈する。

建物周辺遺構

42SX018 出土遺物 (Fig. 14)

瓦類

平瓦 (2) 格子叩 I-A-a。

丸瓦 (3、4) 2点とも格子叩 I-C-b。

鬼瓦(5) 口元の側面部で、上歯牙や周囲に径 1.7cm の珠文が残る。口元横のシワに混じって径 1.3cm 程の珠文が並んでいる。胎士は 0.3 cm 以下の白色砂粒や微細な茶色粒を多く含み、表面は暗灰色、断面は淡黄灰白色を呈する。側面や背面の調整は摩滅し不明瞭。

42SX018 灰茶色土出土遺物 (Fig. 14)

龍泉窯系青磁

椀(6) 淡緑灰色釉を厚く施し、外面には細く文様を描く。IV類。

瓦類

瓦玉 (7) 大きさは 2.8 × 2.75cm、厚さ 2.25cm。

42SX063 出土遺物 (Fig. 14)

瓦類

平瓦 (8,9) 8 は格子叩 1-C-a。凹面は布目痕が残る。胎土は黒色粒を多く含み、淡灰色を呈する。 9 は格子叩 1-C-b。胎土は白色砂粒や黒色粒を含み、淡灰色を呈する。

42SX009 出土遺物 (Fig. 14)

十師器

小皿 a $(10 \sim 14)$ 口径 $5.9 \sim 6.9$ cm、器高 $1.1 \sim 1.3$ cm、底径 $4.05 \sim 4.9$ 5 cm。底部切り離しは回転 糸切り。10 以外は口縁端部に煤が付着している。焼成良好で色調は淡黄橙色や黄白色を呈する。

42SX036 出土遺物 (Fig. 14)

土師質土器

鉢(15) 内面にヨコハケ、外面は指頭圧痕とナナメハケが残る。胎土は微細な砂粒を含み、灰色や 褐灰色を呈する。

瓦類

平瓦 (16) 格子叩 I-C-a。側面には分割の切り込みと切断面が残る。

丸瓦(17、18) 2点とも格子叩 I-C-a。17は凹面に模骨痕が残る。18は胎土に炭化物を非常に多く含む。 「介」の文字瓦。

42SX059 出土遺物 (Fig. 14)

十師器

小皿 a (19) 復元口径 8.0cm、器高 1.1em、復元底径 7.0cm。調整等は摩滅し不明。

小皿 c (20) ハ字形に開いた高台を貼付する。復元口径 9.0 cm、器高 2.85 cm、高台径 8.4 cm。胎土は 0.3 cm 以下の白色砂粒を含み、淡橙色を呈する。

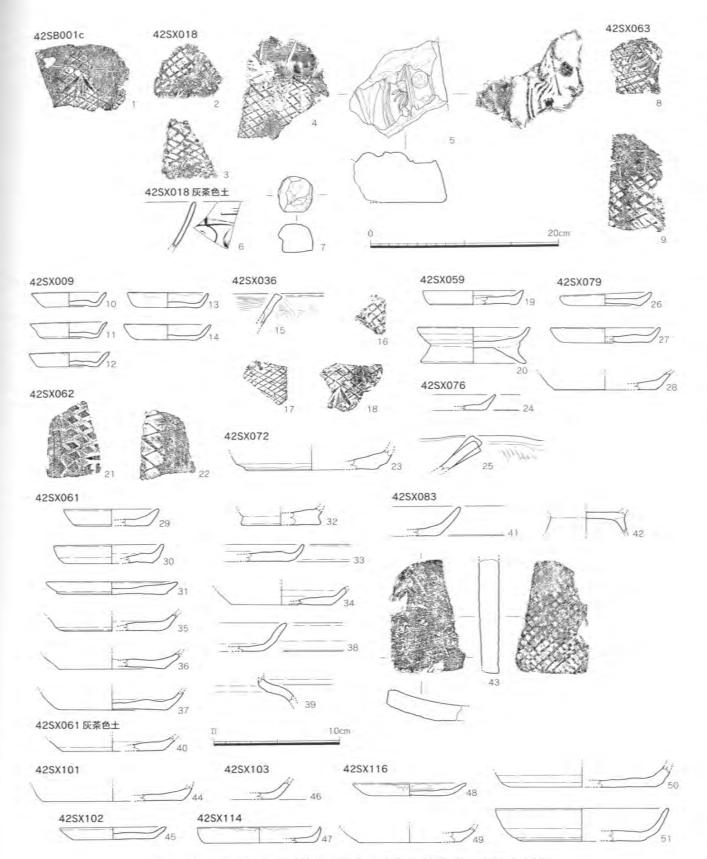


Fig. 14 42SB001 および関連遺構出土遺物実測図 (1/3、瓦は 1/4)

42SK062 出土遺物 (Fig. 14)

瓦類

平瓦 (21) 格子叩 I-F。「平井」の文字の一部が残る。

丸瓦 (22) 格子叩 1-C-c。焼成 良好で青灰色を呈する。

42SX072 出土遺物 (Fig. 14)

十師器

坏 a (23) 復元底径 10.6cm。底 部切り離しは回転糸切り。

42SX076 出土遺物 (Fig. 14)

十師器

小皿 a (24) 底部切り離しは回転糸切り。

瓦質土器

鉢 (25) 片口をなす。内外面摩 Fig. 15 第 42 次調査中段の遺構出土遺物実測図 (1/3、5 は 1/4) 滅するが、外面に僅かにハケ目と指頭圧痕が残る。色調は灰色を呈する。

42SX039

42SX079 出土遺物 (Fig. 14)

十師器

小皿 a (26、27) 2点とも底部切り離しは糸切り。26は口縁部が歪んでいるが口径 7.2cm。底部外面には板状圧痕が残る。27は復元口径 8.7cm。胎土に金雲母を多く含む。

坏 a (28) 復元底径 8.2cm。底部切り離しは回転糸切り。内面底部はナデ調整。

42SK055

42SX061 出土遺物 (Fig. 14)

土師器

小皿 a $(29 \sim 34)$ 底部切り離しは確認できるものは全て回転糸切りである。復元口径 $7.5 \sim 10.4$ cm。32 は上げ底状になっているため小皿以外の可能性もある。0.3cm 以下の白色砂粒や茶色粒を含み淡褐色を呈する。

坏 a $(35 \sim 38)$ 磨滅が目立つが、底部切り離しは確認できるものは全て回転糸切りである。胎土は 0.2 cm 前後の砂粒を含み、色調は淡橙色を呈する。

瓦質十器

小壺 (39) 外面肩部には細い沈線を施す。その他はヨコナデ。胎土は精製され外面黒灰色、内面灰色を呈する。

42SX061 灰茶色土出土遺物 (Fig. 14)

土師器

坏 a (40) 復元底径 7.9cm。底部切り離しは回転糸切り。

42SX083 出土遺物 (Fig. 14)

十師器

坏a(41) 全面磨滅し調整不明。胎土は精製され黄白色を呈する。

椀 c (42) 欠損するが高い高台を貼付する。胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒や金雲母を多く含む。内外面底部はナデ調整される。

瓦類

平瓦(43) 焼成不良で磨滅が目立つ。格子叩はバラツキがあるが I-A-a。側面はヘラ切りする。色調は黄白色を呈する。

42SX101 出土遺物 (Fig. 14)

士師器

坏 a (44) 底部切り離しは回 転糸切り。胎土は白色砂粒を多 く含み、黄灰色などを呈する。 復元底径 11.0cm。

42SX102 出土遺物 (Fig. 14)

十師器

小皿 a (45) 復元口径 8.4cm、 Fig. 16 第 42 次調査石列関連遺構出土遺物実測図 (1/3、6 は 1/4) 器高 0.95cm、復元底径 6.4cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕あり。

42SX034 灰茶色土

42SX080 東

42SX103 出土遺物 (Fig. 14)

十師器

10cm

坏 a (46) 底部切り離しは糸切りで、板状圧痕を残す。

42SX114 出土遺物 (Fig. 14)

十師器

小皿 a (47) 復元口径 9.8cm、器高 1.25cm、復元底径 8.7cm。調整等は摩滅し不明。口縁端部には煤が付着する。

42SX116 出土遺物 (Fig. 14)

十師器

小皿 a (48) 復元口径 9.0cm、器高 1.0cm、復元底径 5.85cm。底部切り離しは回転ヘラ切りで板状圧 痕残す。内面底部はナデ。口縁端部には煤が付着する。

坏 $a(49 \sim 51)$ 49 の底部は回転糸切り。50 は外面底部が回転へラ切り後ナデ調整。内面底部はナデ。その他はヨコナデ。51 はやや丸味のある体部で、復元口径 13.8cm。内面ナデ、外面ヨコナデ。

中段の遺構

42SK055 出土遺物 (Fig. 15)

土師器

小皿 a (I、2) 底部切り離しは回転ヘラ切り。摩滅が目立つが内外面ヨコナデ。I の復元口径は 9.3cm。

皿 a (3) 復元口径 14.4cm。内外面摩滅する。胎土は白色砂粒や雲母を含み、淡橙褐色を呈する。

椀(4) 口縁部を僅かに外反させる。摩滅し調整不明。胎土は 0.2cm 以下の茶色粒を多く含み、淡茶 褐色を呈す。

瓦類

軒丸瓦(5) 周縁は素文で、外区には唐草文のような痕跡が見える。

42SX039 出土遺物 (Fig. 15)

国産陶器 (肥前系陶器)

浅型椀(6) 口縁部が波形の椀で、高台は削り出し。復元口径12.7cm、器高3.9cm、高台径5.0cm。 胎土は0.1cm以下の白色砂粒を含み、やや粗い。内面底部には目跡が3ヶ所残り、高台畳付には変色している部分があり目跡を除去した部分とみられる。釉は淡茶灰色で内外面に施す。外面下半から底部にかけては露胎で、淡赤褐色を呈する。唐津焼。

石列関係

42SX034 灰茶色土出土遺物 (Fig. 16)

土師器

小皿 a (1、2) 胎土は共に白色砂粒を多く含み、淡橙色を呈する。1 は復元口径 7.8cm。底部切り離しはヘラ切りのようにみえ、板状圧痕を残す。2 の底部切り離しは回転糸切り。

42SX080 東出土遺物 (Fig. 16)

土師器

椀(3) 口縁部は外反することなく立ち上がる。胎土は白色粒や金雲母を多く含む。内外面摩滅し調整は不明。

白磁

椀 (4) IV-la類。

土製品

鞴羽口(5) 先端付近だが、摩滅し端部は残していない。胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒や金雲母を多く含み、淡黄灰色を呈する。内外面ナデ調整。

瓦類

平瓦 (6) 格子叩 I-C-c。

石敷と窪地

42SX030 出土遺物

42SX030 茶色土出土遺物 (Fig. 17)

土師器

小皿 a (1) 復元口径 10.4cm、器高 1.15cm、復元底径 7.6cm。底部切り離しは回転糸切りのようだ。 坏 a (2) 復元底径 10.2cm。底部切り離しは回転糸切り。胎土は 0.2cm 以下の白色粒を多く含む。 瓦類

瓦玉 (3, 4) 3の大きさは 3.2×3.1 cm、厚さ 2.1cm。4の大きさは 2.9×2.7 cm、厚さ 1.7cm。42SX030 茶色粘土出土遺物(Fig. 17)

士師器

小皿 a(5) 復元口径 9.8cm、器高 0.9cm、復元底径 7.6cm。底部切り離しは回転糸切り。茶褐色を呈す。 坏 a(6、7) 6は復元口径 16.2cm、7は復元口径 17.5cm。2点とも摩滅が目立つ。淡橙褐色を呈する。 瓦類

平瓦(8) 格子叩 I-A-a で、陰刻正字で「平井」がみられる。

瓦玉 (9) 大きさは 2.9 × 2.4 cm、厚さ 1.8 cm。片面に格子叩きを残す。

42SX030 灰褐色砂出土遺物 (Fig. 17)

土師器

坏a(10、11) 10は底部切り離しが回転糸切り。11は板状圧痕が残る。

瓦器

椀 (12) 復元口径 10.5cm。外面と内面上部は回転ナデ。内面下半は丁寧なナデ。内面は黒色化する。 白磁

椀 (13) VII類。

瓦類

平瓦(14) 格子叩 I-Fで、「平」の文字瓦。

42SX030 茶褐色土出土遺物 (Fig. 17)

瓦類

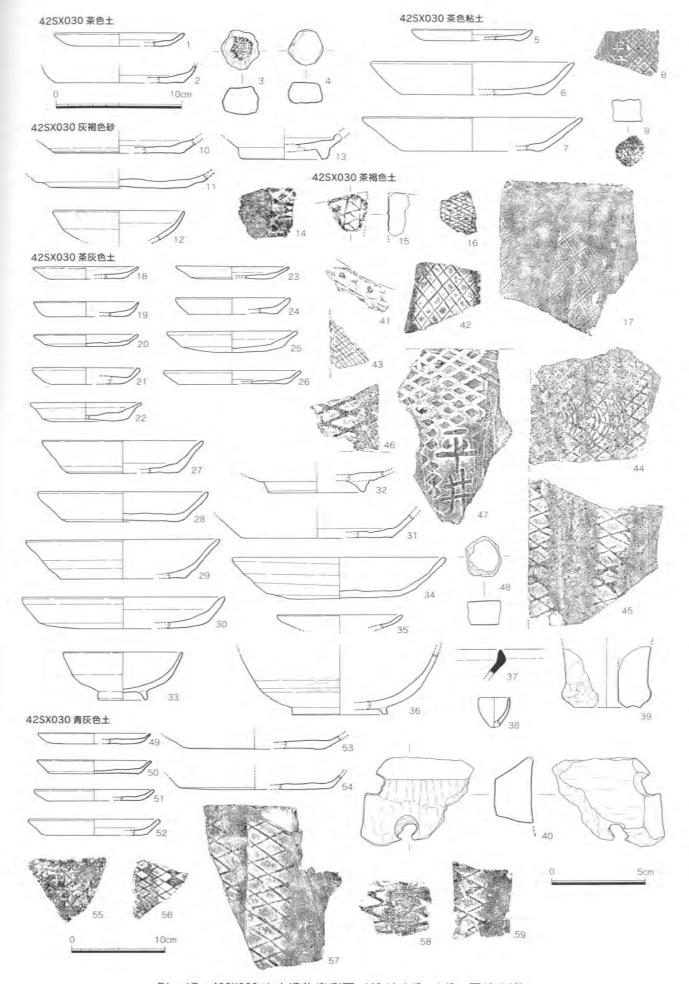


Fig. 17 42SX030 出土遺物実測図 (40 は 1/2、1/3、瓦は 1/4)

軒平瓦 (15) 端部の破片で、外区上部の珠文と凸線鋸歯文が確認できる。

平瓦 (16、17) 16 は格子叩 1-C-a。17 は格子叩 II -B。

42SX030 茶灰色土出土遺物 (Fig. 17)

士師器

小皿 $a(18 \sim 26)$ 復元口径 $8.4 \sim 10.9$ cm、器高 $1.0 \sim 1.7$ cm、復元底径 $5.6 \sim 8.4$ cm。底部切り離しは、摩滅も目立つがヘラ切りと糸切りが混在している。 $18 \cdot 23$ は口縁部に煤が付着する。

坏 a (27~31) 復元口径 12.8~16.1cm、器高 2.4~3.1cm、復元底径 9.0~13.2cm。底部切り離しは確認できるものは全て糸切りである。

椀 c × 皿 c (32) 三角形の高台を貼付し、高台復元径 7.8cm。胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒を多く含み、黄褐色を呈する。

椀 c (33) 復元口径 9.5cm、器高 3.8cm、復元底径 4.0cm。内外面とも摩滅する。胎土は精製され、 黄白色や淡橙色を呈する。

丸底坏 a (34) 復元口径 17.0 cm、器高 3.3 cm、復元底径 10.0 cm。内面はヨコナデの後ミガキを施す。 外面下部に押し出し痕があり、外面底部には板状圧痕が残る。

瓦器

小皿 a (37) 復元口径 10.0cm。内外面は摩滅するが、灰色を呈する。

椀 c (36) 復元高台径 7.6cm。体部中位に僅かに段を有する。内外面とも摩滅し、色調は黒灰色や淡黄色を呈する。

須恵質土器

鉢(37) 口縁部で、外面端部は黒灰色、その他はやや明るい灰色を呈する。胎土は砂粒を僅かに含むが精製されている。東播系。

白磁

小椀 (38) 復元口径 2.5cm、器高 2.35cm、復元底径 0.8cm。胎土は砂粒をほとんど含まず精製され、 淡灰褐色を呈する。内外面とも白青色釉を全面に施す。

士製品

鞴羽口(39) 先端部で径 6.5cm程に復元できる。端部は熱で融解し黒色化する。その他の色調は赤茶色や灰黄色を呈する。胎土は白色砂粒を多く含む。

石製品

石鍋加工品(40) 石鍋の二次加工品とみられ、石鍋製作時の縦方向のケズリ痕が残る。二次加工として断面部を2ヶ所ケズリ加工し、2ヶ所に円孔を穿っている。

瓦類

軒平瓦(41) 外区の珠文部分で、その他は欠損。焼成やや不良で土師質である。

平瓦・丸瓦 (42~47) 42 は格子叩 I-B-b、43 は格子叩 I-C-a、44 は丸瓦で格子叩 I-C-b、格子に混じって蜘蛛の巣状の格子を施す。45・46 は格子叩 I-C-c、45 は丸瓦、47 は格子叩 I-F で「平井」の文字瓦。 瓦玉 (48) 大きさは 3.2 × 2.8 cm、厚さ 1.9 cm。表裏ともナデである。

42SX030 青灰色土出土遺物 (Fig. 17)

十師器

小皿 a $(49 \sim 52)$ 復元口径 $9.0 \sim 10.5$ cm、底部切り離しは摩滅が目立ち不明瞭だが、ヘラ切りと糸切りが混在するようだ。色調は淡橙白色を呈する。

坏 a (53、54) 復元底径 11.2cm と 12.2cm。底部切り離しは回転糸切り。色調は淡橙白色を呈する。

54 は胎土に金雲母を多く含む。

瓦類

平瓦・丸瓦 (55 ~ 59) 55 は平瓦で格子叩 I-B-b に陰刻の「平井」の文字瓦、56 は丸瓦で格子叩 I-C-b、57 ~ 59 は格子叩 I-C-c で、59 のみ丸瓦。

42SX030 灰色粘土出土遺物 (Fig. 18~23)

土師器

小皿 a $(1 \sim 47)$ 復元口径 $7.8 \sim 11.0$ cm、器高 $0.85 \sim 2.05$ cm、底径 $5.7 \sim 8.8$ cm。底部切り離しは ヘラ切りと糸切りが混在し、板状圧痕を残すものもある。摩滅しているものも多いが、内外面とも回転 ナデで、内面底部はナデ調整される。

坏 a $(48 \sim 63)$ 復元 口径 $13.3 \sim 17.8$ cm、器高 $1.8 \sim 2.75$ cm、底径 $8.5 \sim 14.0$ cm。 口径の大きさは $48 \sim 51$ $と 52 \sim 57$ と大きく 2 種に分けられる。底部切り離しは回転へラ切りと回転糸切りが混在して いる。全体的に摩滅気味である。

丸底坏 a $(64 \sim 71)$ 復元口径 $15.0 \sim 16.6$ cm、器高 $2.3 \sim 3.3$ cm。全体的に摩滅が目立つが、内面に僅かにミガキ b や下半部に回転へラ切り後に底部が押し出され、僅かに指頭圧痕が確認できる。

椀 c (72、73) 72 は外にやや跳ねた高台で高台径 6.5cm。底部には板状圧痕のような痕跡が残る。 色調は淡褐色を呈する。73 は復元高台径 8.6cm。焼成不良で内外面とも摩滅している。色調は白灰色を 呈する。

大椀 c (74) 高い高台を貼付し、高台径 11.4cm。体部内外面ともナデ調整。胎土は白色砂粒・橙色粒・ 雲母を含み、色調は淡黄橙色を呈する。焼成良好。

大皿 a (75) 器高 2.9cm ほどの大皿。外面下半には板状圧痕が明瞭に残り、凸凹になっている。その他内外面は摩滅し調整不明。胎土は 0.3cm 以下の白色砂粒を含み、色調は淡褐色を呈する。

黑色 十器

椀 c (76) 高台径 4.4cm。内外面とも黒色を呈し、内面にはミガキ c が確認できる。胎土は白色粒や黒色粒を含む。B 類。

五器

椀 c (77) 方形の低い高台を貼付し、復元高台径 6.7cm。外面中位に浅い沈線状の段を有する。内面は摩滅するが、ミガキのような痕跡が確認できる。外面は摩滅するがヨコナデか。色調は内外面とも暗灰色を呈する。

白磁

椀 (78~80) 78 は V 類。79 は IV - 1a 類。80 は若干上げ底風の底部で、復元底径 5.6cm。 釉は光沢のある半透明釉を内外面に施し、高台畳付は釉を掻き取る。内面中央付近が露胎で淡橙色を呈する。

皿 (81、82) 81 はVI-1b 類。82 はVI-1 類。

中国陶器

盤(83) 口縁部を折り曲げ肥厚させる。胎土は白色砂粒を多く含み、橙褐色を呈する。内外面とも 回転ナデで、茶褐色釉が口縁部と内面に点々と残る。

壺 (84) 復元底径 9.8 cm。外面は回転ナデのあと緑灰色釉を施釉する。底部外面は回転ヘラケズリで露胎。内面は強い回転ナデで、緑灰色釉がまだらに残り、底部は露胎である。胎土は微細な白色砂粒や茶褐色粒を多く含む。

土製品

鞴羽口(85~88) 85·87·88 は端部付近で外面は被熱で黒褐色を呈し、融解している。胎土は白

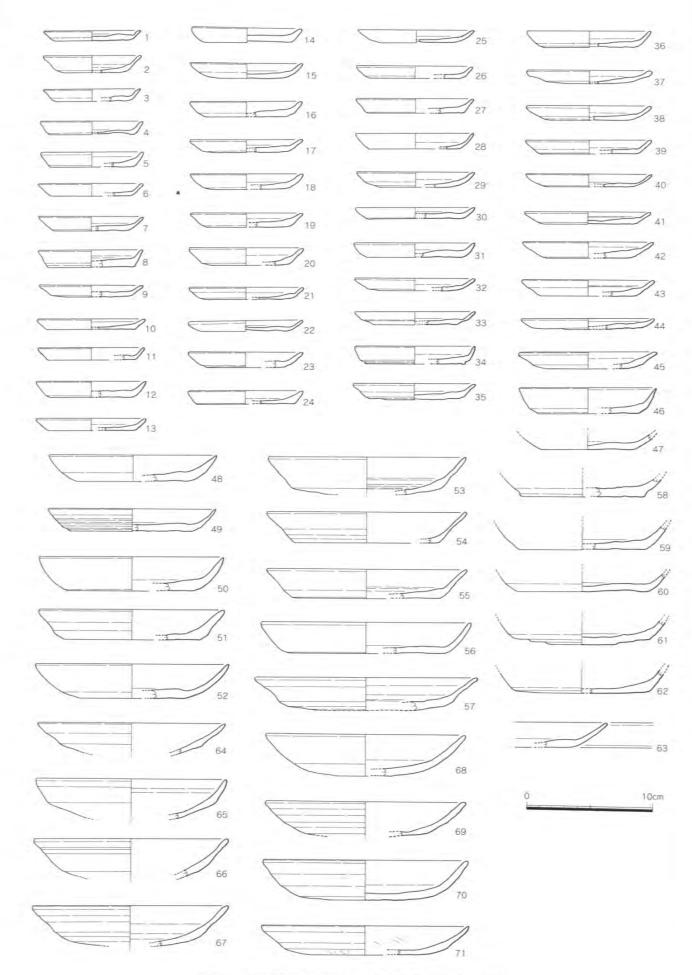


Fig. 18 42SX030 灰色粘土出土遺物実測図① (1/3)

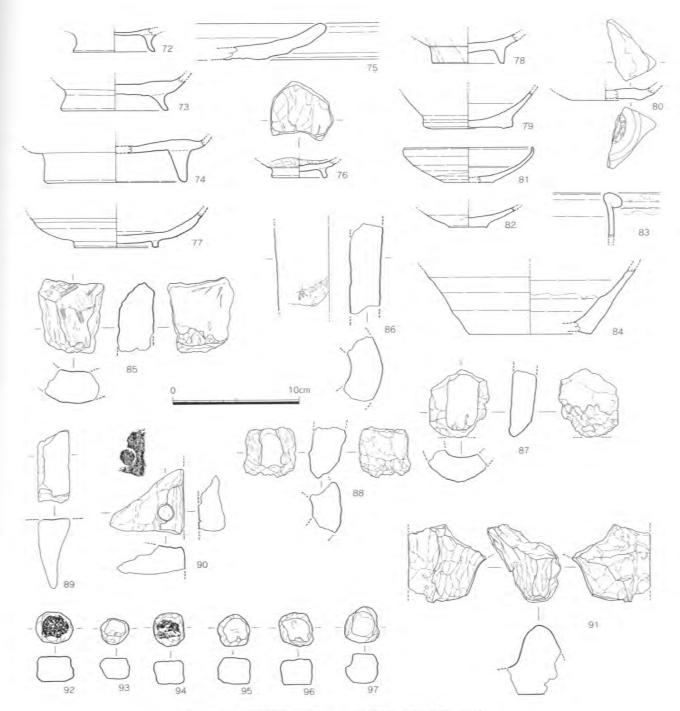


Fig. 19 42SX030 灰色粘土出土遺物実測図② (1/3)

色砂粒を多く含み、橙茶色や茶褐色を呈する。85 の胎土にはスサ痕が残る。86 は端部近くで、復元体部径8.2cmである。外面は被熱で融解し黒灰色を呈する。

瓦類

軒丸瓦 (98~104) 98・99 は中房が 1+4 で、中房と珠文の突出が目立つ。複弁状だが輪郭の消失している。100 は珠文の突出が目立つ。101 は単弁の鎬弁である。102 は複弁で、外区にやや楕円形の珠文を作り、外縁は素文である。103 は単弁で、外区に唐草文のような流雲文を施す。104 は単弁重弁で 菊花状になるとみられる。

軒平瓦 (105~111) 105 は偏行唐草文の子葉の先端が点状になる。下外区は鋸歯文、上外区は珠文を施す。106・111 は摩滅が目立ち、外区の凸鋸歯文が確認できる程度である。107 は摩滅が目立つが、

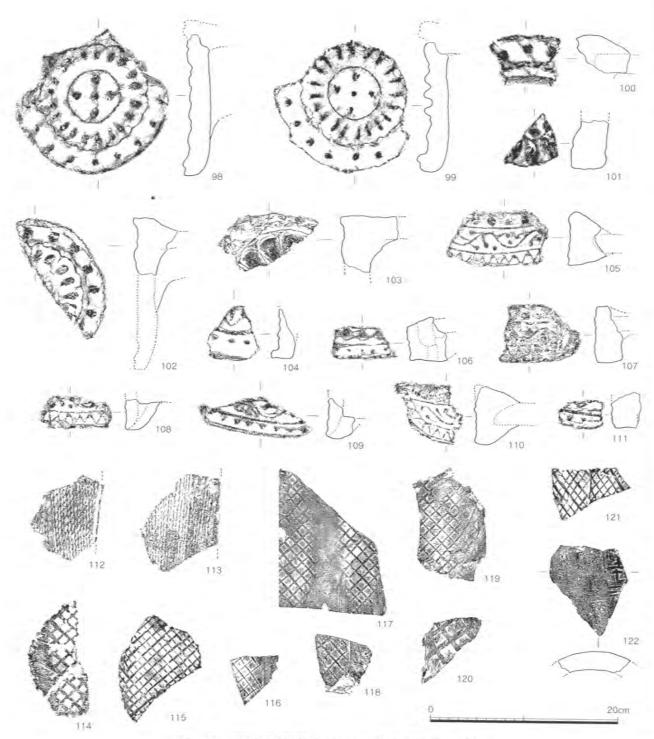


Fig. 20 42SX030 灰色粘土出土遺物実測図③ (1/4)

唐草文を施し、下外区は鋸歯文、上外区は珠文を施している。108・110 は偏行唐草文で、外区には凸線鋸歯文を施す。109 は偏行唐草文で、外区は凸鋸歯文。

平瓦・丸瓦

叩き目で分類し報告する。

縄目叩(112、113) 側面はヘラ切りし、凹面には布目痕が残る。

格子叩(114~179) I-A-a(114~116)、I-A-b(117~120)、I-B-a(121、122)、I-B-b(123~129)で、125は「賀茂」の文字瓦。I-C-a(130~138)で、132は「平井瓦」の文字瓦。135~138は格子に混じって雲文がみられる。I-C-b(139~151)で、145には「小」の文字瓦、148は蜘蛛の巣状

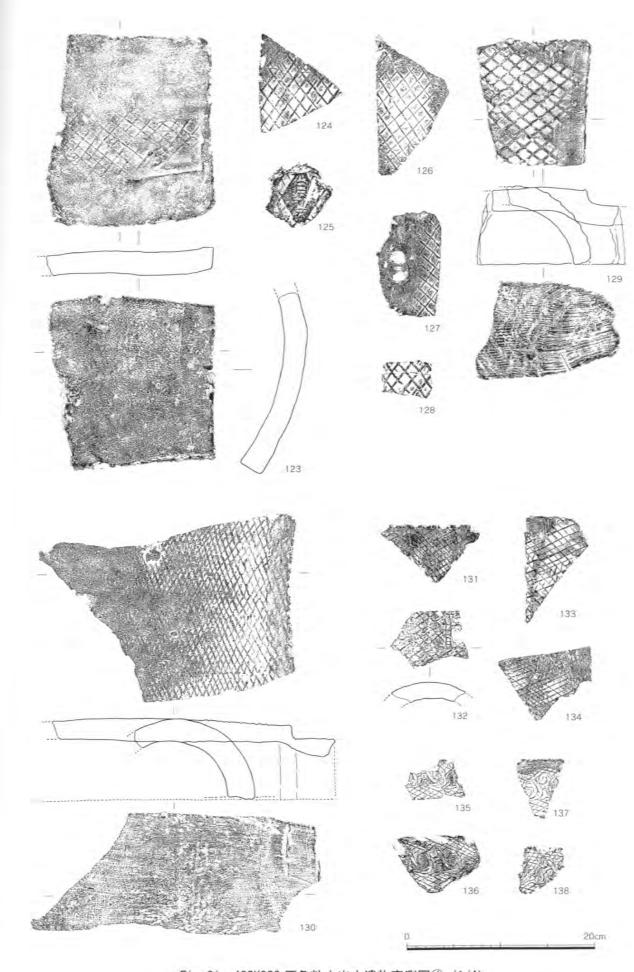


Fig. 21 42SX030 灰色粘土出土遺物実測図④ (1/4)

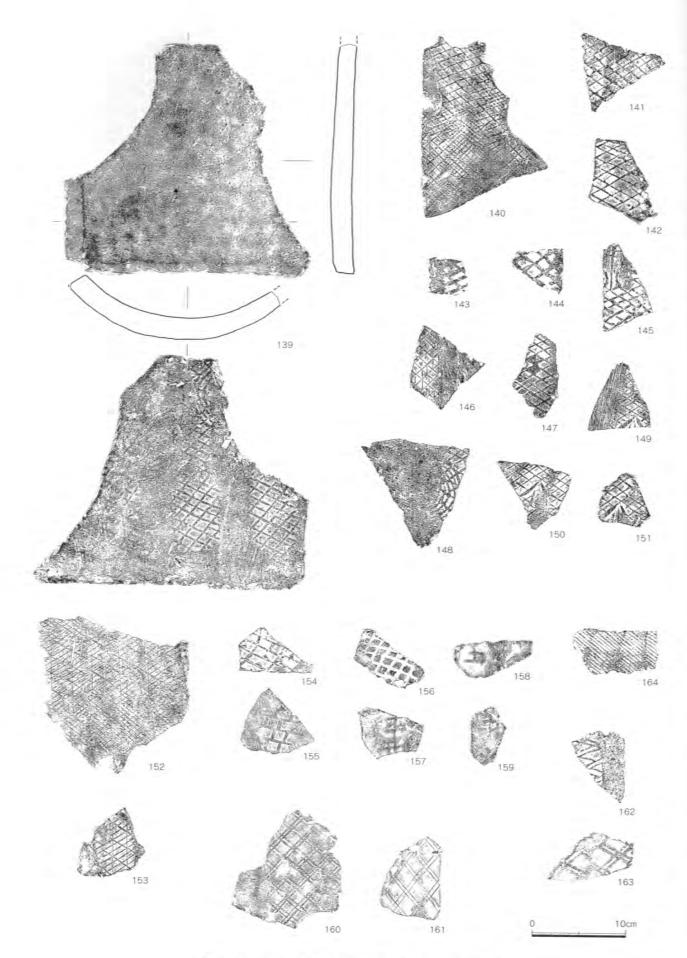


Fig. 22 42SX030 灰色粘土出土遺物実測図⑤ (1/4)

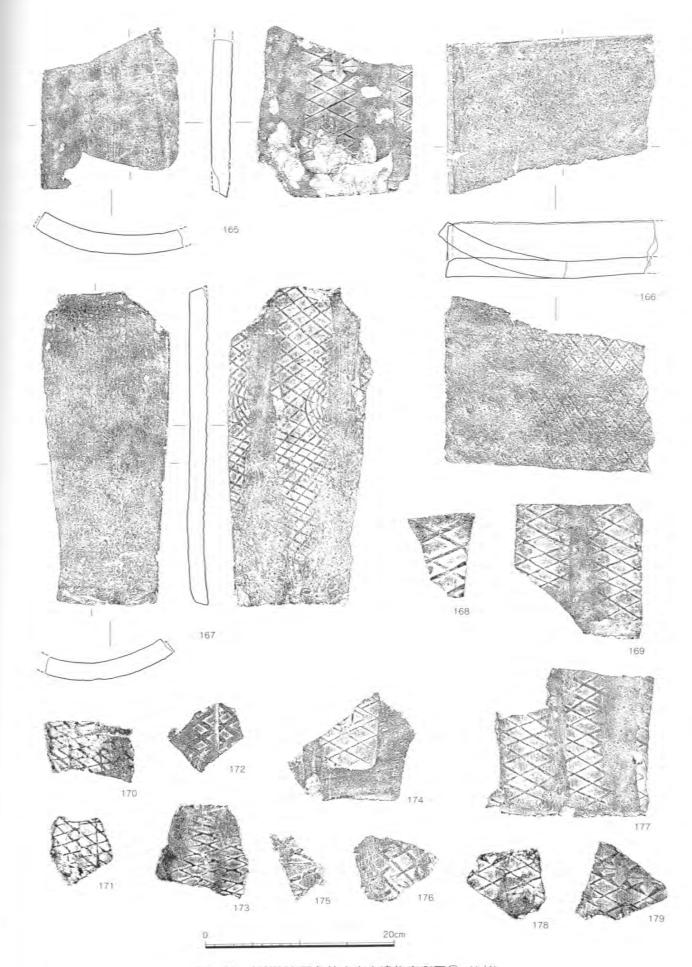


Fig. 23 42SX030 灰色粘土出土遺物実測図⑥ (1/4)

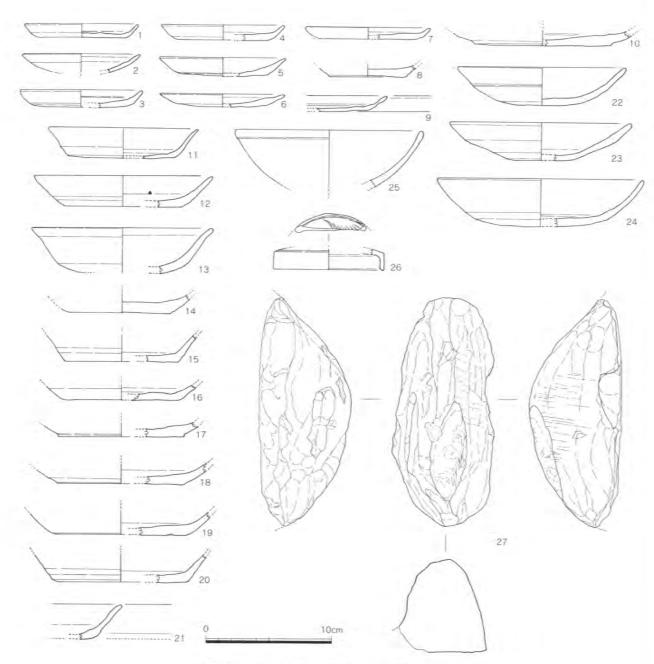


Fig. 24 42SX035 出土遺物実測図① (1/3)

の格子を施す。149~151 は「介」の文字瓦。I-C-c(165~179)で、165 には格子に混じって四葉文がある。167 には格子に混じって蜘蛛の巣状の格子を施す。I-D(152、153)、I-E(154、155)、I-F(156~159)で、157~159 は「平井」の文字瓦。Ⅱ-A(160)、Ⅱ-B(161)、Ⅱ-C(162、163)、斜行叩(164)。 塼(89) 小片で胎土は白色砂粒を多く含み、内部は黒色で外面は灰褐色を呈する。外面はナデ調整が見られる。焼成良好。

不明瓦製品 (90、91) 90 は欠損しているため、全容が掴みにくいが、鬼瓦のような瓦の一部の可能性が考えられる。表面には輪状の押し形があり、それ以外はナデ調整される。胎土は白色砂粒や黒色粒を多く含み、焼成は良好で、灰色を呈する。91 は何か鬼瓦のようなものの端部とみられる。表面と背面はナデ調整。胎土は $0.5 \, \mathrm{cm}$ 以下の白色砂粒を多く含み、黒色粒も少量含む。焼成は良好で灰色を呈す。瓦玉 $(92\sim97)$ 92 は $2.5\times3.0 \, \mathrm{cm}$ 、厚さ $2.0 \, \mathrm{cm}$ 、93 は $2.1\times2.3 \, \mathrm{cm}$ 、厚さ $1.0 \, \mathrm{cm}$ 95 は $2.5\times2.0 \, \mathrm{cm}$ 、厚さ $2.0 \, \mathrm{cm}$ 96 は $2.7\times2.0 \, \mathrm{cm}$ 、厚さ $2.0 \, \mathrm{cm}$ 97 は $2.8\times2.0 \, \mathrm{cm}$ 、厚さ $2.0 \, \mathrm{cm}$ 96 は $2.7\times2.0 \, \mathrm{cm}$ 、厚さ $2.0 \, \mathrm{cm}$ 97 は $2.8\times2.0 \, \mathrm{cm}$ 、厚さ

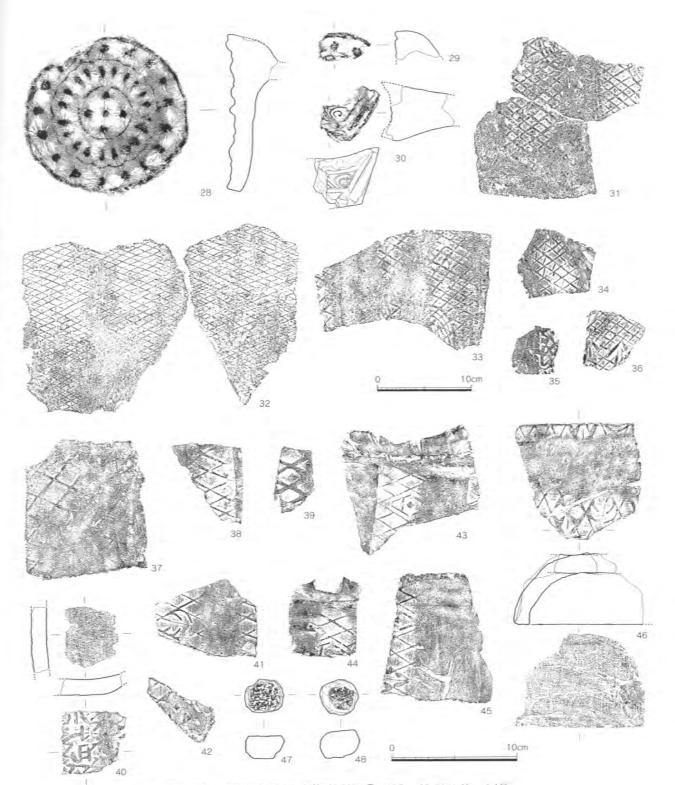


Fig. 25 42SX035 出土遺物実測図② (47・48 は 1/3、1/4)

2.4cm

42SX035 出土遺物 (Fig. 24·25)

土師器

小皿 a $(1\sim9)$ 復元口径 $9.1\sim10.0$ cm、器高 $0.95\sim1.5$ cm、復元底径 $6.3\sim8.2$ cm。底部切り離しは、8 が糸切りで、それ以外はヘラ切りである。色調は淡灰色や淡黄白色などを呈する。

皿 a (10) 復元底径 10.9cm。底部切り離しは回転糸切り。胎土は 0.2cm 以下の砂粒を含み、茶褐灰

色を呈する。内外面摩滅し調整不明。

坏 a $(11\sim21)$ 復元口径 $12.0\sim14.4$ cm、器高 $2.4\sim2.45$ cm、復元底径 $8.3\sim11.0$ cm。底部切り離しは回転糸切り。板状圧痕を残すものもある。

丸底坏 a $(22\sim24)$ 復元口径 $13.4\sim16.4$ cm、器高 $3.0\sim3.8$ cm。全体的に摩滅が目立つ。22 は体部外面中位に沈線が巡る。

緑釉陶器

蓋(26) 復元口径 8.7cm。胎土は精製され微細な砂粒を僅かに含み、薄い灰色を呈する。内外面に 薄い緑色釉を施し、細かな貫入が入る。外面上部には線刻で文様が施されている。

白磁

椀 (25) Ⅱ-1類。

十製品

不明土製品 (27) 胎土は 0.4cm 以下の白色砂粒を多く含み、焼成は良好で瓦質の淡灰色を呈する。この土製品は何かから剥落したような面を持っている。全体的にナデ調整されるが、実測図の左側の図は、剥落した面に沿う形でナデが蛇行しているため、何か波打つような本体に接合していた可能性が高い。右図はナデ調整されるが、横方向のナデのような痕跡もあり、左図に比べかなり平坦に仕上げている。瓦類

軒丸瓦 (28、29) 28 は中房が 1+4 で、複弁。色調は白灰色を呈する。29 は外区の珠文部分で、粘土の接合部分で剥落している。

軒平瓦 (30) 扁行唐草文は確認できる。周縁は素文とみられる。

平瓦・丸瓦 $(31\sim46)$ $31\sim36$ は格子叩 I-C-b で、31 と 33 は格子に蜘蛛の巣状の格子を施す。35 は陰刻の「□井瓦」の文字瓦。36 は「介」の文字のある丸瓦。 $37\sim46$ は格子叩 I-C-c で、 $44\sim46$ は丸瓦、それ以外は平瓦。40 は「小□瓦」の文字瓦。

瓦玉 (47、48) 47 は大きさ 2.2 × 3.1cm、厚さ 1.8cm。48 は大きさ 2.8 × 3.1cm、厚さ 2.1cm。

整地および堆積層

42SX093 出土遺物 (Fig. 26)

肥前系磁器

角皿(1) 一辺 5.5cm、器高 1.5cm、高台幅 3.1cm。白色の素地に光沢のある透明釉を薄く施し、内 面底部に呉須で文様を描く。近代以降。

皿(2) 復元高台径 5.1cm。白色の素地に内外面に透明釉が施され、高台畳付は釉が拭き取られている。 全体的に貫入があるが、外面の方が特に多い。内面底部には呉須で文様を描く。

42SX002 灰褐色土出土遺物 (Fig. 26)

白磁

椀(3) 体部屈曲部分で、胎土は微細な黒色粒を含み白色を呈する。内外面は白青色釉を施し、内面 にうっすら暗文のような唐草文状の文様を施す。枢府窯と推測される。

国産陶器

椀 c (4) 胎土は微細な白色砂や金雲母を含み、淡茶色を呈する。内面は黄茶色釉、外面は淡緑色釉 を施す。高台畳付は露胎である。

国産磁器

ミニチュア (5) 高台径 2.3 cm。白黄色の素地に白緑色釉を内外面に施し、高台畳付から内側は露胎。 皿 (6、7) 6 は復元口径 9.4 cm、器高 2.8 cm、復元高台径 3.4 cm。白色の素地に透明釉を施す。高台

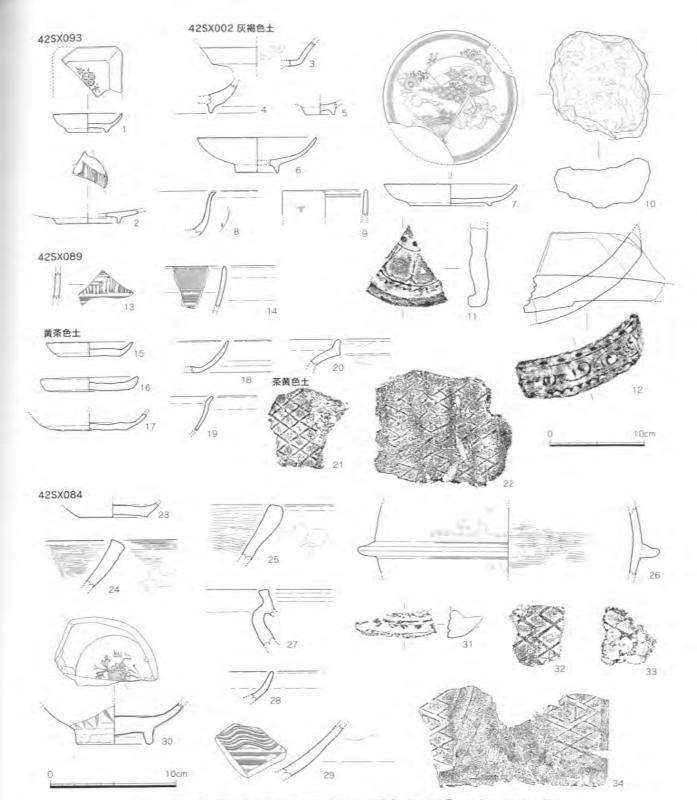


Fig. 26 第 42 次調査整地・堆積層出土遺物実測図① (1/3、瓦は 1/4)

畳付は露胎。7は口径10.6cm、器高1.7cm、高台径6.6cm。内面には主に朱色で扇子や草花が描かれ、一部に黄色や緑色を用い描いている。近代以降。

肥前系磁器

小椀 (8) 口縁部は僅かに外反させる。内外面には白色の素地に透明釉を掛け、外面に薄青色で文様を描く。

椀(9) 復元口径 6.8cm。白茶色の素地に透明釉を全面に施し、内面口縁部には暗青色釉で圏線を描く。

外面にも文様を描く。

金属製品

鉱滓 (10) いわゆる椀型滓といわれるもので、大きさは $8.5 \times 7.9 \,\mathrm{cm}$ 、厚き $3.4 \,\mathrm{cm}$ 。 茶褐色を帯びる。 瓦類

軒丸瓦(11) 単弁の素弁で、外区に唐草文状の流雲文を巡らす。外縁は素文。瓦当面以外はナデ調整。 軒平瓦(12) 均整唐草文で、上外区には楕円形の珠文、下半には凸鋸歯文を巡らす。凹面には布目痕、 凸面には縄目が残る。側面部はヘラ切り。胎土は 0.4cm 以下の白色砂粒や金雲母を多く含む。

42SX089 出土遺物 (Fig. 26)

肥前系磁器

猪口(13) 内外面に薄く透明釉を施し、外面には呉須で文様を描く。全体に貫入が入る。胎土は砂粒を僅かに含むが精製され、白色を呈する。

国産陶器

椀(14) 胎土は白色細砂粒を含み淡い褐色を呈する。内外面とも薄く施釉される。内面は化粧土で 白色文様を描き出している。

黄茶色土出土遺物 (Fig. 26)

十師器

小皿 a (15、16) 15 は復元口径 6.8cm。16 は復元口径 7.8cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏 a(17、18) 17 は内面に漆が僅かに付着する。底部切り離しは回転へラ切り。色調は淡橙色を呈す。 18 はやや丸味を帯びた体部で、外面下半が回転へラケズリ、それ以外は回転ナデ。色調は橙白色を呈す。 黒色土器

椀 (19) 口縁部を僅かに外反させる。磨滅するが内面にはミガキが残る。A 類。

灰釉陶器

壺(20) 内面には深緑色釉を施し、外面頸部は回転ナデの後薄い透明釉で一部深緑色釉が残る。胎 土は微細な黒色粒を多く含む。

茶黄色土出土遺物 (Fig. 26)

瓦類

平瓦 (21) 格子叩 I-C-c。

丸瓦 (22) 格子叩 I-C-c。

42SX084 出土遺物 (Fig. 26)

士師器

小皿 a(23) 底径 5.6cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕残る。胎土は精製され黄褐色を呈する。 瓦質土器

擂鉢(24) 内面と口縁部外面はヨコハケ、外面下半は指頭圧痕が残る。内面に摺り目が僅かに残る。 胎土は白色砂粒を少量含み、焼成やや不良で淡白褐色を呈する。

土師質土器

鉢(25) 口縁部は僅かに肥厚させる。内面ヨコハケ、口縁端部はヨコナデ、外面下半は指頭圧痕が残る。 0.2cm以下の白色砂粒をやや多く含み、内面淡橙褐色、外面暗灰色を呈する。

鍋(26) 内面には指頭圧痕に細かなヨコハケを施す。外面はうっすらとタテハケが残り、鍔より下には煤が付着する。胎土は砂粒を少量含み、淡褐色を呈する。

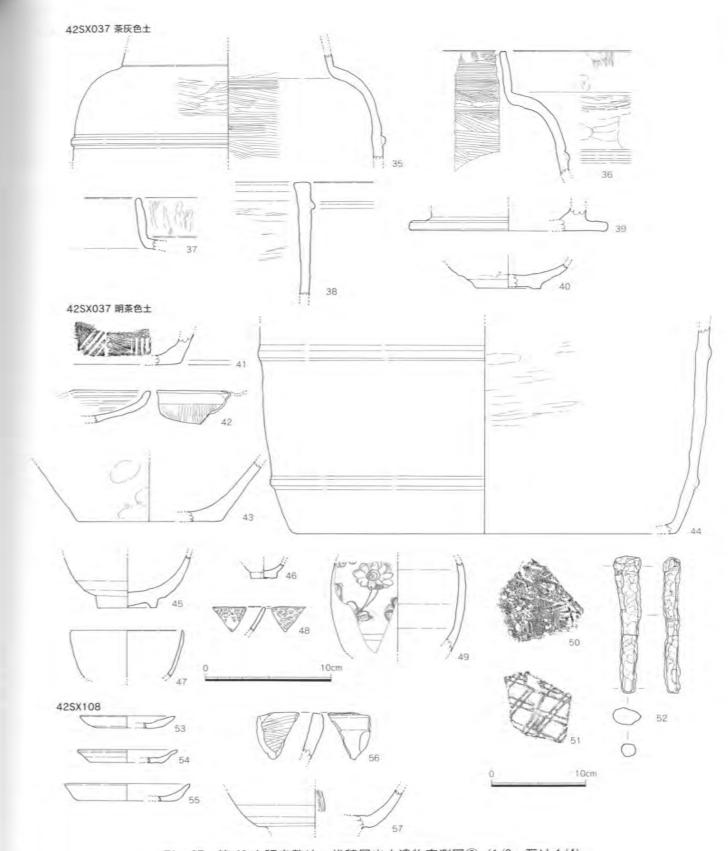


Fig. 27 第 42 次調査整地・堆積層出土遺物実測図② (1/3、瓦は 1/4)

国產陶器

甕 (27) 常滑産とみられる甕で、胎土は暗灰色を呈し、回転ナデの後内外面に茶褐色釉をかける。

皿 (28) 胎土は精製されているが、砂粒を少量含み、淡い灰色を呈する。内外面には緑灰色がかった透明釉を施す。全体に貫入が入る。口縁端部は使用によって釉が剥落する。

鉢(29) 胎土は赤褐色で、外面は回転ナデで、上半部は施釉する。内面は茶褐色釉に白色土で波状 文などを描く。外面上半部は灰茶色釉が施されている。

龍泉窯系青磁

椀(30) IVイ類。白灰色の素地にやや青味がかった緑色釉を施し、内面底部に文様、外面には蓮弁を描く。高台畳付は一部釉を拭き取り、高台内面は露胎。

瓦類

軒平瓦(31) 文様の形状は分からないが、外区の凸鋸歯文が残る。

平瓦 $(32\sim34)$ 32 は格子叩 I-C-c。砂粒を多く含み暗灰色を呈する。33 は格子叩 1-C-c で、格子に混じって四葉文がある。色調は淡褐色を呈する。34 は格子叩 I-C-c で、格子内を一部二重にする。凹面に布目痕があり、焼成良好でやや暗い青灰色を呈する。

42SX037 茶灰色土出土遺物 (Fig. 27)

瓦質土器

湯釜 $(35\sim37)$ 胎土は $0.2{\rm cm}$ 以下の砂粒を多く含み、色調は暗茶灰色や茶灰色を呈する。 35 の頸部内外面はヨコナデとナデ調整、体部の外面はミガキ c、内面はヨコハケを施す。 36 は頸部内面が細かいハケ、体部は粗いハケ調整。外面は低い突帯が巡り、ミガキ c を施す。 37 の頸部外面は縦方向のミガキ調整。内面はヨコナデ。

火鉢 (38) 内面はヨコナデで橙褐色の付着物が付く。外面は全体的に磨滅している。胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒を多く含み、黒灰色を呈する。

灯籠(39) 底部部分で、胎土は白色砂粒を多く含み、茶灰色を呈する。内外面はナデ調整される。 国産陶器 (肥前系陶器)

椀(40) 高台はケズリ出しで、復元高台径は5.2cm。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を多く含み粗い。 内外面とも緑灰色釉を施し、貫入が多く入る。外面下半は露胎である。唐津焼。

42SX037 明茶色土出土遺物 (Fig. 27)

瓦質十器

擂鉢(41) 内面に摺り目を5本づつ施す。外面は磨滅が目立つ。胎土は淡黄白色を呈する。

片口环(42) 口縁部で全形が不明だが、比較的浅いもので、口縁部が片口になっている。口縁部がヨコナデ、内面はヨコハケ、外面はタテハケで煤が付着する。胎土は 0.2cm 以下の白色砂粒を多く含み、暗灰色や暗橙茶色などを呈する。

鉢(43) 内面と底部外面はナデ、外面は磨滅するが、タテハケや指頭圧痕が残る。胎土は白色砂粒や橙色粒を含み、淡明灰色を呈する。

火鉢 (44) 復元底径 30.4cm。高さ 0.2cm 程の断面台形の突帯を巡らす。内面は黄茶褐色で、全体的に磨滅し、焼成時に器面がぷつぷつと破裂している。しかし、横方向のミガキのような痕跡を残す。外面は灰色を呈し、磨滅して調整不明瞭だが、ヨコナデのように思える。胎土は金雲母を多く含むが精製されている。

国産陶器 (肥前系陶器)

椀(45) 高台ケズリ出しで高台径 5.3cm。胎土は細かい白色砂粒を含み、茶褐色を呈する。内外面 とも緑黄茶色釉を施すが、発色が悪く、釉ムラで青白色や黄白色の部分がある。外面下半から高台内面 まで露胎である。唐津焼。

国産磁器

椀(46、47) 46 は小型の椀で、高台ケズリ出し。高台以外は乳白色の素地に淡水色釉を全面に施す。

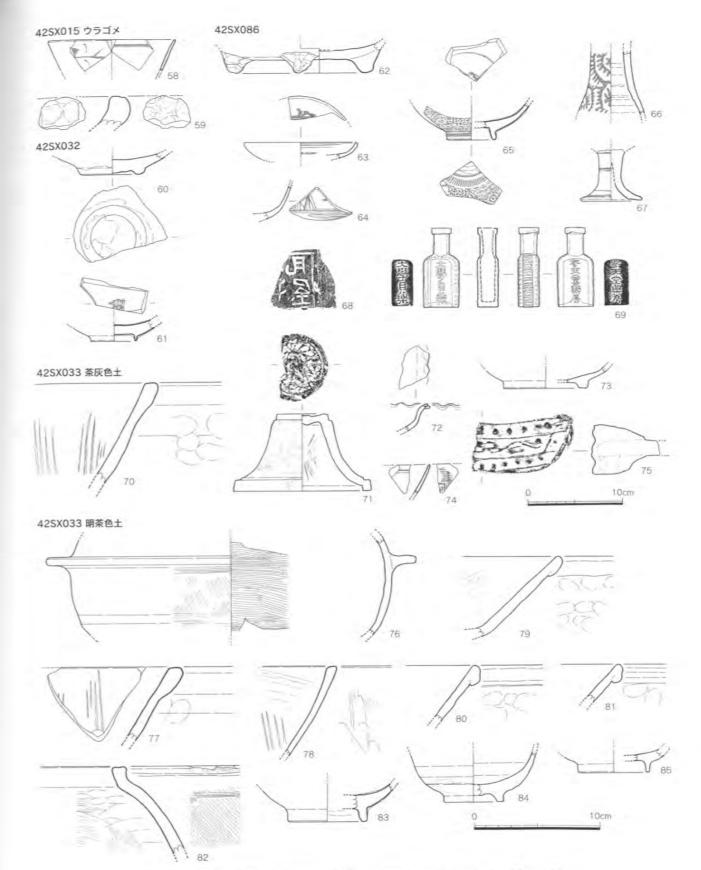


Fig. 28 第 42 次調査整地・堆積層出土遺物実測図③ (1/3、瓦は 1/4)

47 は白灰色の素地に透明釉を施す。口縁端部のみ淡茶色を呈する。

肥前系磁器

椀(48) 乳白色の素地の内外面に鮮やかな呉須で文様を施す。この遺物が出土するSX045の西隣付

近はSX037で唯一近代の遺物が多く、混入と考えられる。

瓶(49) 胎土は淡明白色を呈し、内面回転ナデで露胎、外面は呉須で草花文を描く。

瓦類

平瓦 (50、51) 50 は格子叩に「佐」の文字瓦。51 は格子叩Ⅱ-C、凹面は布目痕。

金属製品

鉄釘 (52) 縦 10.8cm、幅 2.2cm、厚さ 1.3cm 全面錆ついている。

42SX108 出土遺物 (Fig. 27)

十師器

小皿 a (53~55) 復元口径 7.6~10.0cm。底部切り離しは回転糸切りと回転ヘラ切りである。

十師質十器

鉢×鍋(56) 内面はヨコハケ、外面は煤が付着する。胎土は 0,2cm 以下の砂粒を多く含み暗橙色や茶灰色を呈する。

龍泉窯系青磁

椀 (57) I-4b 類。

42SX015 ウラゴメ出土遺物 (Fig. 28)

肥前系磁器

椀(58) 復元口径10.2 cm、白灰色の素地に、青灰色釉で内面には圏線、外面には草花文が描く。 土製品

トリベ (59) 胎土は 0.2 cm以下の白色砂粒を多く含み、淡灰色などを呈する。外面には指頭圧痕が 残り、細かな気泡を見られる。内面には橙褐色の付着物がある。

42SX032 出土遺物 (Fig. 28)

国産陶器 (肥前系陶器)

椀 (60) 高台はケズリ出しで、復元高台径 5.2cm。胎土は微細な白色砂粒や茶色粒を多く含み、淡 黄茶色を呈する。体部内外面には暗緑色釉を施し、細かい貫入が入る。高台とその内側は釉が点在する が露胎で橙褐色を呈する。唐津焼。

肥前系磁器

椀 (61) 復元高台径 3.8cm。白灰色の素地に淡水色釉を全面に施し、呉須で内面底部や高台外面に 圏線を描く。高台畳付は釉を掻き取る。

42SX086 出土遺物 (Fig. 28)

土師器

脚付皿 (62) 脚は手捏ね成形され、欠損しているが三脚と推測される。色調は淡白橙色を呈する。 全体的に磨滅する。

肥前系磁器

皿 (63) 口径 9.0cm。砂粒を含む白色の素地の内面に呉須で文様を描く。口縁端部は使用で釉が剥落する。

椀(64、65) 64 は白色の素地に透明釉を施し、外面に薄青色で文様を描く。65 は復元高台径 4.0cm。微細な白色粒を含む素地で、外面には鮮やかな呉須のスタンプで文様を施し、内面にも文様と 圏線を描き、全体にやや青味のある透明釉を施す。高台畳付は釉を拭き取る。近代以降。

花瓶 (66) 白色の素地に、外面は深紺色で蛸唐草文を施す。内面は回転ナデで露胎。

仏飯器 (67) 脚部で底径 4.9cm。内面は露胎。外面は朱色で圏線を描き透明釉を施す。近代以降か。

万箱

平瓦 (68) 「平井瓦屋」の左字の文字瓦。焼成良好で灰色を呈する。

ガラス製品

目薬瓶 (69) 高さ 6.25cm、横 2.9cm、厚さ 1.7cm。 体部に「大學目薬」「参天堂薬房」と陽刻している。 現在の参天製薬株式会社製のもので、明治 40 年から大正 2 年の間で製造されていたものという。

42SX033 茶灰色土出土遺物 (Fig. 28)

土師質土器

擂鉢 (70) 口縁部付近を肥厚させる。内面は5本/2cmの摺り目とナデ調整、外面は全体的に磨滅するが指頭圧痕を残す。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を多く含み、暗黄茶色等を呈する。

瓦質士器

仏具 (71) 裾部復元径は10.8cm。内面は回転ヘラケズリ後縦方向の工具痕を残す。外面はヨコナデ のあと黒色に塗られていたようで、部分的にその痕跡を残す。上部は欠損し接合のために施した刺突痕 が残る。胎土は微細な白色粒や茶色粒を多く含み、暗灰茶色を呈する。花立のようなものと推測される。 国産陶器 (肥前系陶器)

皿 (72) 口縁部が波形の皿で、胎土はやや粗く淡茶灰色を呈する。内外面に淡灰緑色釉を施し、全体に貫入が入る。唐津焼。

椀 (73) 復元高台径 6.8cm。胎土は精製され、淡灰色を呈する。内外面は淡緑灰色釉を施すが、白土を刷毛塗りし同心円状の文様をなす。高台畳付は露胎。釉との境目は茶褐色を呈する。朝鮮産の粉青沙器か。

肥前系磁器

椀 (74) 灰白色の素地に透明釉を施し、内外面に暗青灰色で文様を描く。

瓦類

軒平瓦 (75) 文様はかなり崩れた唐草文で、外区は上下とも珠文である。色調はやや明るい淡灰白色を呈する。

42SX033 明茶色土出土遺物 (Fig. 28)

十師質土器

湯釜 (76) 内面は細いヨコハケ、外面は鍔より下は、細かいタテハケやナナメハケを施す。胎土は 0.2cm以下の白色粒や微細な黒色粒や雲母を含み、淡灰黄色等を呈する。

擂鉢 (77、78) 77 は口縁部を肥厚させる。内面はナデのあと摺り目を施す。外面はナデ調整され、 指頭圧痕を僅かに残す。胎土は砂粒を多く含み淡黄橙色を呈する。78 は口縁部に向かって肥厚した体 部で、内面はヨコハケの後摺り目を施す。外面は指頭圧痕とタテハケを施し煤が付着する。胎土は微細 な砂粒や雲母を多く含み、暗灰茶色を呈する。

鉢 (79~81) 79・80 は口縁部を折り曲げ肥厚させる。内面は丁寧なナデ、外面は指頭圧痕が残り、全体に煤が付着する。胎土は 0.1cm 以下の白色砂粒や雲母を多く含み、淡橙灰色を呈する。80 には内面にも一部煤が付着する。81 は口縁部を折り曲げ肥厚させる。内面は丁寧なナデ、外面には指頭圧痕が残る。胎土は白色砂粒を多く含み橙色を呈する。

須恵質土器

壺 (82) 丸い体部に口縁部を短く直上させる。外面はナナメハケ、内面はヨコハケの後ナデ調整される。口縁部はヨコナデ。焼成良好で淡明白色や灰色を呈する。

龍泉窯系青磁

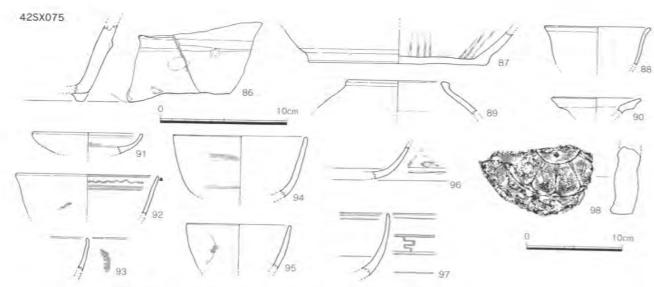


Fig. 29 第 42 次調査整地・堆積層出土遺物実測図④ (1/3、98 は 1/4)

椀 (83) IVウ類。釉は淡緑色で、高台内面の一部の釉を拭き取っている。

国産陶器

施 (84、85) 84 は高台ケズリ出しで、復元高台径 4.8cm。白色砂粒を多く含む淡橙色土の素地の内外面に淡灰茶色釉を施すが、外面下半および高台とその内面は露胎。唐津焼。85 は復元高台径 5.7cm。橙白色の素地の内外面に明茶色釉を施し、細かい貫入が入る。高台畳付は釉を掻き取っている。

42SX075 出土遺物 (Fig. 29)

瓦質十器

火鉢 (86) 底部に脚を貼付する。内面には指頭圧痕が僅かに残る。外面は磨滅し調整不明。胎土は 白色砂粒を含むが精製されている。断面黒色で、内外面とも暗黄灰色を呈する。

土師質土器

擂鉢 (87) 復元底部径 14.2 cm。外面は磨滅し調整不明。内面に 3 本 / cmで摺り目を施す。胎土は金雲母をやや多く含み、内面は茶褐色、外面は黄茶色を呈する。

国産陶器 (肥前系陶器)

椀(88) 復元口径 8.4 cm。胎土は精製され黄白色を呈する。内外面とも白色に近い黄緑色釉を施し、細かい貫入が入る。唐津焼?。

土瓶 (89) 復元口径 8.2 cm。口縁部に向かってすぼまり、口縁端部はやや肥厚させる。口縁端部上部は露胎。内面は僅かに光沢がある明茶色釉で、下半は露胎。外面はやや光沢のある暗茶色釉を施す。胎土は淡茶色を呈する。

壺 (90) 口縁部を2段に作り、復元口径7.1 cm。胎土は精製されているが金雲母を多く含む。内外面とも緑色釉を施す。

肥前系磁器

皿(91) 復元口径 8.8 cm。内外面に白青色釉を施し、内面には鮮やかな呉須で文様を施す。近代以降。 椀 (92~97) 92 は復元口径 11.2 cm。内面上部に呉須で文様を描く。93 は外面に花文を施す。94 は復元口径 10.6 cm。胎土は淡灰色を呈する。外面には淡青色で文様を施す。内外面には大きな貫入が入る。95 は復元口径 8.2 cm。全面白青色に施釉され、外面に淡青色で草花文を施す。96 は外面に淡青色で文様を施す。97 は内外面とも薄青白色釉を施し、淡青色釉で内面圏線を、外面には文様を施す。瓦類

軒丸瓦(98) 単弁素弁で、外区には唐草文状の流雲文が施される。周縁は磨滅するが素文とみられる。 地盤およびトレンチ

42SX104 出土遺物 (Fig. 30)

十師哭

椀(1) 口縁部をやや外反させる。焼成はやや不良で淡橙白色を呈する。調整は磨滅し不明。

瓦類

軒丸瓦(2) 外区に珠文があり、外縁は素文。色調は淡黄灰色や暗灰色を呈する。

丸瓦 (3) 格子叩Ⅱ-B。焼成やや不良の土師質で暗黄橙色を呈する。

灰褐色土出土遺物 (Fig. 30)

須恵器

坏 a (4) 復元底径 8.4cm。 焼成良好で淡灰色を呈する。

十師器

环 a (5) 底部は凸レンズ状になり、板状圧痕を残す。胎土は金雲母を多く含む。

脚付皿 (6) 復元口径 11.8cm。全体的に摩滅し、脚は1ヶ所残存する。胎土は金雲母を多く含み、 白黄色を呈する。

椀 c (7、8) 7 は底部端に高台を貼付し、復元高台径 8.2cm。黄白色を呈する。8 は高台径 8.6cm。やや丸い体部で暗黄色を呈する。

大椀 c (9) 復元高台径 10.5cm。摩滅するが内面は不定方向のナデのようだ。胎土は白色砂粒や金雲 母を多く含み、暗黄褐色を呈する。

瓦類

軒丸瓦(11) 単弁-重弁-複子葉弁。蓮子は1+6で、沈線で作る。表面はやや全体的に変形している。 色調は淡灰色を呈する。

平瓦 (10) 格子叩Ⅱ-Ca

42SX070 黑灰色土出土遺物 (Fig. 30)

須恵器

蓋 c (12) 外面回転ナデ、内面ナデ調整。色調は淡灰色を呈する。13 とは同一個体の可能性がある。 蓋3(13) 口縁端部を僅かに曲げている。復元口径13.8cm。外面上部はナデ調整、内面上部はナデ調整、 それ以外は回転ナデ。色調は淡灰色を呈する。

坏a(14) 復元口径13.0cm。内外面とも回転ナデ。焼成良好で色調は淡灰色を呈する。

- 坏 c (15~18) 15 は復元口径 12.9 cm。底部はヘラ切り後未調整で低い高台を貼付する。焼成良好で灰色を呈する。16 は復元口径 14.9 cm。底部端に低い高台を貼付する。底部内外面ともナデ調整、体部は回転ナデ。色調は灰色を呈する。17 は底部端に方形高台を貼付する。復元高台径 12.2 cm。18 は低い高台を貼付し復元高台径 8.0 cm。底部内外面ともナデ調整、体部は回転ナデ。色調は淡灰色を呈する。

鉢 (19) 胎土は 0.05cm 以下の白色砂粒を含むが精製され、灰褐色を呈する。内外面とも回転ナデ。 東播系。

十師器

坏 a (20、21) 2点とも磨滅し調整不明。胎土は金雲母を多く含み、色調は白黄色を呈する。

椀 c (22、23) 22 は高台径 6.8cm。色調は白黄色を呈する。内外面磨滅。23 は復元高台径 10.8cm。色調は淡橙色を呈する。

黑色土器

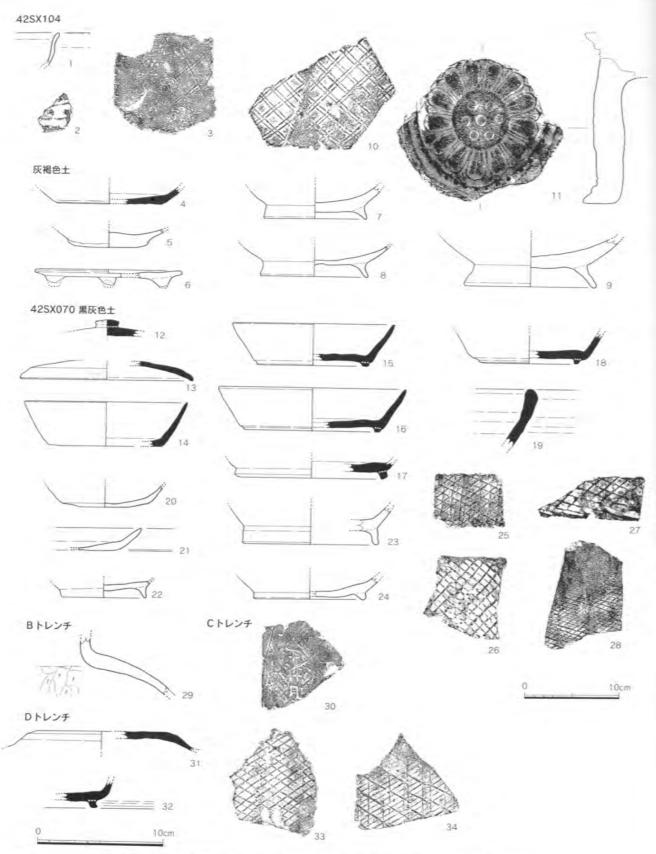


Fig. 30 第 42 次調査基盤層・トレンチ出土遺物実測図 (1/3、瓦は 1/4)

椀 c (24) 復元高台径 9.0 cm。内面にミガキ c があるが殆んど磨滅する。 万箱

平瓦 (25、26) 2点とも格子叩 I-C-b。色調は白灰色や黄白色を呈する。

丸瓦(27,28) 27 は格子叩 I-C-b。色調は灰茶色を呈する。28 は格子叩 I-C-a。色調は淡灰茶色を呈す。 Bトレンチ出土遺物 (Fig. 30)

十師器

壺(29) 体部内面はヘラケズリ、外面磨滅。頸部内外面はヨコナデ調整。胎土は 0.4cm 以下の白色 砂粒を多く含み、橙褐色を呈する。

C トレンチ出土遺物 (Fig. 30)

平瓦 (30) 格子叩 B-a に「平井瓦」を施す文字瓦。

Dトレンチ出土遺物 (Fig. 30)

須恵器

蓋(31) 外面上半部は回転ヘラ切り未調整。内面上部は不定方向のナデ、それ以外は回転ナデ。焼 成良好で色調は灰色を呈する。

坏 c (32) 若干外に跳ねた高台を貼付する。内面底部は不定方向のナデ、外面底部は回転ヘラケズ リ後ナデ、体部は回転ナデ調整。色調は灰褐色を呈する。

瓦類

平瓦 (33) 格子叩 I-C-b。色調は内外面が黄白灰色で、芯部分は黒色を呈する。

丸瓦 (34) 格子叩 I-D。色調は淡黄灰色を呈する。

遺構検出時出土遺物

茶色土出土遺物 (Fig. 31)

小皿 $a(1\sim5)$ 復元口径 $7.2\sim7.8$ cm。底部切り離しは2が不明瞭だが、それ以外は回転糸切りである。 色調は橙灰色を呈する。

 坏 $_{a}$ (6~10) 復元口径12.0~12.2cm。底部切り離しは回転糸切りである。7.8は体部に丸味を持つ。 瓦質土器

脚部 (11) 花立のような仏具の脚部と推測される。復元裾部径は9.6cm。胎土は微細な砂粒を多く 含み淡灰茶色を呈する。内外面ともヨコナデ調整。

鉢(12) 外面はヘラケズリ後ナデ、内面はヨコハケを施す。胎土は砂粒を多く含み、暗灰茶色を呈する。 龍泉窯系青磁

m (13) 白灰色の素地に淡緑色釉を施す。内面に双魚文のような文様がうっすら確認できる。IV類。

平瓦 (14、15) 14 は格子叩 I-C-c の斜格子で、「小□瓦」の文字瓦。淡灰色を呈する。15 は格子叩 I-C-c で、格子には四葉文を施している。色調は暗灰色を呈する。

瓦玉 (16、17) 16 は大きさ 2.5 × 2.9 cm、厚さ 1.9 cm。17 は大きさ 3.25 × 3.4 cm、厚さ 1.7 cm。 金属製品

飾金具 (18) 全体的に錆で緑青色を呈する。内面には何かを挟んだ抉り込みがあり、上部の突出部 には 0.4cm 程の円孔が穿たれている。縦 4.2cm、幅 4.4cm。

茶褐色土出土遺物 (Fig. 31)

土師質土器

擂鉢(19) 口縁部から内面にかけて煤が付着する。外面は指頭圧痕が残る。

火鉢×釜(20) 貧弱な突帯を貼付する。胎土は精製され、内面の一部にヨコハケがあり、それ以外

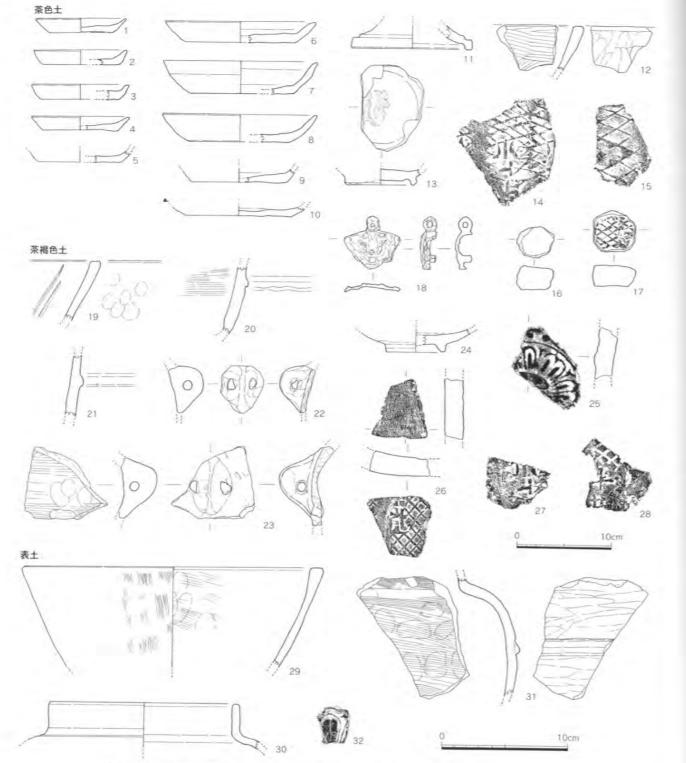


Fig. 31 第 42 次調査遺構検出土層・表土出土遺物実測図 (1/3、瓦は 1/4) はナデ調整。外面は灰黒色を呈する。

火鉢(2I) 胎土は精製され、内面ナデ、外面は磨滅する。内外面とも淡い灰色を呈する。

湯釜(22、23) 湯釜の耳部分で、22 の内面は磨滅するが耳はナデ成形され、0.7cm 程の円孔を穿つ。 茶褐色などを呈する。23 は内面指頭圧痕とヨコハケで、耳はナデ成形される。耳には 0.7cm 程の円孔 を穿つ。色調は黄灰色や灰褐色を呈する。

国産陶器

皿(24) 高台ケズリ出しで、復元高台径 4.8cm。内外面には黄白色の素地に茶褐色釉を施し、内面

底部は釉を輸状に掻き取る。高台とその内面は露胎である。

瓦類

軒丸瓦 (25) 複弁で外区には珠文を巡らす。焼成良好で暗灰色や淡灰黄色を呈する。

平瓦 (26 ~ 28) 26 は格子叩 1-B-b で、「平井瓦」の陰刻をした文字瓦。27 は「小□瓦」の文字瓦。 28 は格子叩 1-F で、「平井」の文字瓦。色調は灰黄色や茶褐色を呈する。

表土出土遺物 (Fig. 31)

十師質土器

鉢 (29) 復元口径 24.0cm。外面は細かいタテハケ、内面は指頭圧のあとナナメハケ。胎土は 0.3cm 以下の自色砂粒を多く含み淡橙色を呈する。

湯釜 (30、31) 30 は復元口径 15.2cm。焼成良好で淡黄灰色や暗灰茶色を呈する。頸部内外面はヨコナデで、頸部下に沈線を巡らす。31 は外面ミガキ c、内面は指頭圧のあとヨコハケ。頸部内面は細かいヨコハケ。焼成良好で灰茶色を呈する。

瓦類

軒丸瓦 (32) 単弁重弁の複子葉弁。焼成良好で色調は淡茶灰色を呈する。

- (5) 調査まとめ
- ⑥十地の変遷

今回の調査地の時期変遷を以下のように推測する。

- ①9世紀中頃の堆積層できる。
 - 1
- ② 11 世紀後半頃に整地し、基壇を伴う建物を建築
- ③ 12 世紀中~後半に基壇東側埋没。建物も荒廃か?
- ④その後に礎石建物を再建。
- ⑤礎石建物は13世紀中頃以降、遅くても14世紀までには廃絶
- ⑥その後基壇西側が流出もしくは削平される。
- ⑦17世紀前半に整地し耕地化。
- (8)近代に耕地の拡幅を経て現在に至る。

①については、調査区中段の基壇下層にある SX070 から 9 世紀中頃前後までの遺物が出土する。ほとんど未調査であるが、傾斜した堆積状況を示している。堆積層としたのは、調査地で 9 世紀後半~11世紀中頃の遺物がほとんど見られないことから、整地を行い、建物を建てるなど、人が活動した可能性が低いと考えたためである。炭を多く含んでいたため、9 世紀中頃に火災や焼却など大規模な事象があったものと推測される。それ以前に建物があったかどうかは不明である。

②は、確認範囲が狭いため、不明瞭の部分が多い。約2世紀にわたって活動の痕跡がなかったが、久

しぶりに活動痕跡がみられることである。中段で平安後期埋没の SK055 が検出された。これは SB001 の建物の復元範囲に入っており、平安後期には建物はなかったことを意味し、築造直前の遺構と推測される。また、基壇の南東付近で平安後期の整地層がある。この整地は基壇裏側に当たるため、この整地の時期に基壇を伴う建物が造られたと推測した。

③④については、基壇東側のSX030に多量の土師器片が埋没している。その埋没時期が12世紀中頃~後半である。また、SX030の埋土に基壇の石材と同様の大きさの石が多くみられ、基壇が崩落していたことを物語っている。現存する礎石下の溝状遺構(SX101・114・116)から、遺物量は少ないが、12世紀代の遺物が出土する。これらのことから先代の礎石を掘り返し、据え直した結果と考えている。おそらく基壇については、東側は埋没していたであろう。

⑤については、上段で検出された土坑 (SX059 など) が、建物廃絶後の土坑と推測され、それらの出土遺物が、13 世紀中頃~14 世紀であること。その後の出土遺物が少ないことなどからも、この頃以降に人の活動はほとんどなかったと推測する。

⑥は、SX037で基壇が削平されているが、その範囲が不定形であり、SX037の整地下層で耕作土などは見つかっていないため、この場所で何かを行ったというより、自然流出もしくは採土によるものと推測される。

⑦は、SX033・037 など大規模に整地が行われている。出土遺物から17世紀前半であることから、耕地化については弘治3(1557)年大友宗麟が行った検地の影響があったのかもしれない。ただ、この整地に際しては大石を含む多量の礫が投じられているのに対し、なぜか現在も残る礎石が除去されずに残されている。また、SX050 などは基壇に平行するように石垣が造られているため、SX033・037 はもちろん、SX089 を整地した頃は身舎の礎石や基壇の一部が残っていて、それが何を意味するものか理解されていて意図的に残された可能性もある。しかし、中段が現在の形状になったと推測される近代には、礎石の意味より、農地の方が重要だったのかもしれない。

⑧は、SX025やSX015の石垣を造り耕地拡大を図り、中段部の北側を拡大している。時期はその背後から出土する遺物から近代以降と推測される。特にSX005やSX010の石垣が近世の耕地と異なる方向で形作られている。それら石積みと調査区北側の高石垣が平行するため、同時に造られたか、先行して造られていたどちらかを踏襲して造られたものだろう。

◎建物について

建物については、前述のとおり 2 時期あることを想定した。よって、この地には 11 世紀後半~ 14 世紀代に建築物があったと推測されることから、文献に「大山寺」や「有智山寺」と記載されていた時期の建物とみられる。これらの建物の建築年代や規模については、未調査部分も多く、今回の報告では数少ない状況証拠から導き出した結果が多いため、先々再調査等によって、より明確な結果が得られるものと考える。

建物の用途については、当時の記録に残されていないため不明だが、江戸時代前期の『竈門山旧記』には「大塔、金堂、鐘楼、大講堂、僧房、食堂、文庫、経蔵、神社伽藍所々其跡猶存せり」と記されており、宝満山の各所に伽藍が広がっていたことがわかる。調査地が小字「大門」という所に位置するが、構造的に門でないことは明らかである。しかし、宝満山の入口で脊振山系が見渡せるこの場所を選地し、建てられた建物は重要な用途であったことは間違いないだろう。また、この地が耕地化された17世紀前半には礎石が何を意味するのか認識されていた可能性もあることから、『竈門山旧記』に記された建物のひとつであった可能性は十分考えられるだろう。

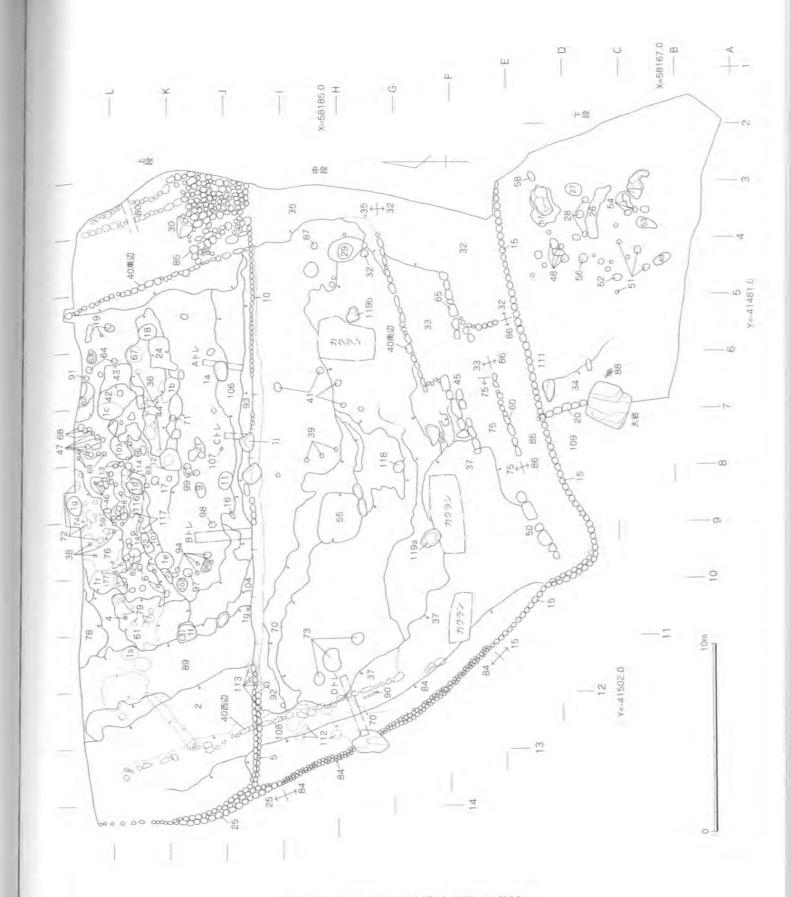


Fig. 32 第 42 次調査遺構略測図 (1/200)

表 1 第 42 次調査遺構一覧表

一番号		,	埋土ほか	施工時期	埋没時期	地
1	42SB00		現存礎石は最終建築物のもの。	12世紀中頃	14世紀頃存続	上段
.2	42SX002		上段西側の整地。S-89→2	近代		上段西側
3	42SB001		度 暗灰色士 現代の撹乱			310
4		ピット				KIO
5	42SX005	-	S-2に伴うもの	近代		111~13
6	-	ピット群				K9 - 10
7		ピット	炭混じり			K9 - 10
8		ピット群				K8.
9	42SX009	just 7.5	灰褐色土	14世紀以降		J8
10	42SX010	自地		近代		14~6
11	-	土坑	茶灰色士		近世	J8
12	+	撹乱	灰色士 (耕作士)		近現代	K7
13.	-	ピット群			1	K7 · 8
14	TO COMPANY	ピット群				K8 - 9
15	42SX015	-		近代		中段
16		ピット				18
17	Company	ピット				K8
18	42SB001n		黒灰色土入り 現代の撹乱			K5
19	(OMES)	ピット群	灰色土(耕作土)		近現代	L5
20	42SX020	石列	S-20→15	13世紀代?	近世?	C6 - D7
21		土坑	Note that the same that			J7
22		土坑	炭混じり S-101の一部か?			К9
23	-	土坑	炭混じり S-101の一部か?	4		K10
24	windstanding	撹乱	暗灰色土			K5
25	42SX025	石垣		近代		上段
26	-	溝			平安前期?	C3:
27	-	土坑			平安前期?	C3
28		ピット群			奈良時代?	C3.
29	- ADOTED GO	土坑			平安後期?	G4
10	42SX030	石敷と窪み			12世紀中頃~後半	JK3
11	3000000	ピット			中世後期	G4
3	42SX032	段落ち			17世紀代	EFG3~5
4	42SX033		碟の投げ込み	17世紀前半		F4~6
5.	42SX034		SX020の裏込め	13世紀代?		C6
6	42SX035 42SX036		S-30の南側、同一のもの		12世紀中頃~後半	HI3
7			灰色土		中世	K5~7
8	-42SX037		基壇西側削平後の整地。SX045西側で近代遺物あり。	17世紀前半		中段西側
9	1002000	ピット群				L9
	42SX039	ピット群	St. Life on control of		17世紀	H7
0	42SX040		基境の石積み	11世紀後半?	近世初期(最終埋没)	上段・中月
2		ピット群	Heritan Av. 1			H6
3			黄茶色土		近世~	K6
4			炭湿じりの暗灰色土、S-43→42			K6
5	42SX045	石段 S	-36 <i>0</i>) F			K6 • 7
3	CPUACOE	ビット群				EF6 • 7
7		ピット群				L8
3		ピット群			-	L7
1					平安	D4
,	42SX050	土坑			平安時代	B4
		石積み		近世	近代	D8 • 9
		ピット群			平安	B4
		土坑				C4.
	_					B3
-		ピット群	SAR IV 6 PRA		平安	B3
		土坑 が	で混じり、確多い-		平安後期埋没	Н9
-		L 37 F				C4:
		446				
		土坑			平安	D3
		ピット	茶色士		平安 14世紀~	D3 D2

61	42SX061	窪み	灰茶色土		13世紀後半~	JK10
62		土坑			平安前期	1.6.
63	42SB001n	礎石抜き取り痕				L6
64		ピット群	搅乱?			L6
65	42SX065	石積み	T.	17世紀前半頃?	江戸時代?	EF4 • 5
66		ピット群				K7
67		土坑	S-36の下			K6
68		ヒット群			平安~	L7
69		ピット群				L7
70	42SX070		中段の炭混じり層		9世紀中頃前後	中段
71		ピット				J7
72	42SX072	ビット群	S-590) F			L8 + 9
73	20000	土坑群	灰色士			GH11
74		土坑				L8
75	42SX075	海	砂層 S-45とS-60の間	江戸後期	近代	£6 · 7
76		土坑	喋あり、S-59の下			L9
77		礎石抜き取り痕				L10
78	42000011	土坑	産多い -			L10 - 11
79	425X079	ピット群	S-610 F		13世紀以降	K10
-	42SX079	石列	2列、S-30内	平安時代	12世紀中頃~後半	K3 - L3
80	425,0000	ピット群	S-590 F			K10
81		ピット群	3 3307			K9
82	(nevees	-	S-1dがS-83の上に載っている。S-114・116の上面		12世紀?	K8
83	42SX083	土坑		16~17世紀	10 (2.70)	GH12 • 13
84	42SX084	篠堆積層	法面に礫層露出。	平安	12世紀中頃~後半	IJ4
85	42SX085	石段?	**************************************	近代~	12 E 96 1 90 10 1	D6~9
86	42SX086	ウラゴメ	S-15のウラゴメと同一	2010	+	H4
87		ピット				06
-88	42SX088	石敷?	and the second of the second o	A TO HE WIT	_	I~L · 10~1
89	42SX089	整地	石敷、S-1削平。S-2灰褐色土でも取上げ	17世紀~		G12
90	42SX090	石段?		-		L6
91		ピット				-
92		ピット		are the		111
93	42SX093	整地	灰色土 (耕作土?)	近代~		14~8
94		ピット群				J9.
96		ピット			平安	J9
97		ピット				J9
98		ピット	灰色粘土		近世~	J9
99		ピット群			12世紀~	18
101	42SX101	土坑	溝状		12世紀	K8~10
102	42SX102	ピット			13世紀中頃前後	J10
103	42SX103	ピット			平安後期~鎌倉時代	K7.
104	42SX104	整地層?	灰色土	平安		110
106		整地層	明灰茶色土		平安?	14~9
107		ピット				J7.
108	42SX108	堆積層	S-40西辺直上の整地		16世紀	GH12
109		堆積層	S-20の西側	1	19世紀~現代	CD7
111		堆積層	S-15の下		江戸中期~	中段
112		ピット群	明灰色土			H12
113		ピット群				111
114	42SX114	-	炭混じり灰茶色土、S-83の下、S-116と同一?		12世紀?	K8
116	42SX116	1	炭混じり灰茶色土、S-83の下、S-114と同一?		12世紀~	K8
117	1630110	ピット群	AND	117	平安~	K8
		ピット	礎石抜き取り?			F7 · 8
118		_	発力扱さ収り: 礼堂の可能性のある礎石2個			F9 • G5
119		礎石?	8-89の下層。古い遺物含む。	110		上段西側
黄茶色士		整地	2 03771階。口を退物点む。	1.4	The state of the s	

土 66	器械片
R	節 破片
S-1c-	
土 師 瓦	器 环、小皿x 物 平瓦(格子)、克瓦(格子)、破片
5-14	100000000000000000000000000000000000000
R	類 破片
S-1a	
复 惠	量量, 所, 避?
	器 环、蔽片
S-2灰色化 順 憲	野 破片
土 毎	器- 梅c、 破片
国 産 B	製 製 紅胆 類 平及[格子, 筆文]
8-2灰褐色土	
領 恵	器 高3、 惠c、 坏、坏。、要、 否
生 師 銀 采 張 采	器 环, 环s, 杨c, 小组5、破片 青 庭 院:1(1)、1-2(1) - 破片(1)
B	强 传: 3 (1)、枢疗(1) . E: VI-b(1), 麦2(1), 白磁酸片(1).
灰 輪 舊 臣前 系	
田 産 降	2 2 2 3 4 5 6 5 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7
国 産 G	器 紅豊、重、小重、俺。ミニチュア 類 平瓦(縄目、格子、無文)、先瓦(格子)、軒平瓦、軒丸瓦、像()瓦
金 属 製	品 框件、鉄約
6 %	品平五石
8-2檀茶色士	
須 - 恩 上 - 新	器 責、 査災、 环、 褒、 壹 器 梅c. 夏、 破方
	上 器 体:
国産 関	器 破片 類 平瓦(剛目、格子、無文)
S-3	
領 惠	器 坏
土 師	器 坏、小型? 類 平瓦(周目、格子) 種し五
	54 (A.1860, 507) W.L.
t 65	置 怀、坏a、坏a(())、破户
T.	五 至正
-6	-
一颗	器环、破片
-ī	-
1 商	器 坏、环间分片、小量点、破片
E 調 製	類 平瓦(格子、無文) 品 鉄
- N	£ 2.5
-8	
新	器 坏a、小量a、破片
Ĺ	類 罕瓦(格子)
9 %	NO 45. A DE 2213 PAUL
- 8	器 坏a、小量a((4), 破片 類 破片
н	
55	器 杯、椀;
国海	器 破片(1)
12	
恵	器破片
剪系磁	器 碳片(現代学)
産順	器 破片 夢 平瓦(格子,無文)、燻し瓦
	· 対 2.00:部下 (電火)、端し馬
13 85	墨 坏
	類一破片
100	二 用途不明基
14	
節	星 破片
5055' /	
遊	蓋 素3、坼a、坼c、甕、毫 墨 坼、坼a、梅c、小韭a、甕
-	磁 磁片(1)
	器 能、 献 后 器 卷、 小 - 志、 破 后
差 征	器 破片
製	類 平瓦(修子、集文)、 支瓦(集文)、 億し反 品 とりべ
4-	型 构c、破片
\$6	
	DEPOSE NOT
8 1	等破片" 经破片

S-18灰新色士
至 思 荔城片 士 蓢 荔 灰、虾a、小皿a
服果塞养青癌(M=IV(I)
瓦 朝 平瓦(無文、破片)。瓦玉
\$-19
土 頭 墨 蔵片 瓦 類 平反(格子)。 凡瓦(破片)、 破片
The state of the s
多-21 主 等 器件a、梅c、小量a、蒸片
瓦 類平瓦(格子)、破片
S-22
類 恵 器 嵌片 土 額 器 环、破片
五 類 級片
8-23
土 節 磐破片
五 類 破片
S-24
土 顏 器 467、破片
是 前 系 益 器 権 瓦 期 平瓦(格子), 克瓦(格子,集文), 據し瓦
S-25版色土 土 蘇 響 坏a、碳片
元 類破片
金 属 製 品 紅津
S-25灰素色土
須 恵 器环、面a 土 姜 器环、坏a、小面a
肥 前 茶 磁 器 破片
瓦
S-26-
土 质 器 坏、坏z、獲 瓦 類 平瓦(維目)
74.174.0476
S-27 東 惠 器 蓋3、坏、坏a、环c、痩
土 頭 器 坏a、 坏c、 梢o、 隻
五 類 破片(雑目)
5-28
重
The state of the s
S-29實所色士
主 新 器破片 瓦 類 友互(格子)
土
土 第 認 磁片 五 期
土
土 第 書 統片 五 類 大五(格子) S-29系灰色土 類 惠 差 坏、蓬、壶
土 第 器 較片 5 29 英庆色土 第 惠 路 环, 潭, 壶 土 第 新 据。小震和 土 華 黄 土 器 破片
士
士
士
士
士
士
士
士
士
立
立
士
立
立
立
立
立
立
上 新
立

```
    金の書と、おの書と、「本の書」という。
    金の書と、「本の書」という。
    金の書と、「本の書」をいる。
    本の書と、「本の書」をいる。
    本の書をいる。
    本の
```

t also	№ 質 上 器 指鉢
器 被斥 器 坏、坏a、坏a(化)、丸底环a、小面a、破片	国 産 別 最後型所
類 平瓦(總目, 施子, 每文), 克瓦(格子), 破片	
	5-41 土 施 器 成片
芸 坏: 便, 破片	五 類 破片
器 坏a((), \n), 丸底虾a, 椀c, 小巨(()), 小重a(\n), 椀c×重e	
器 権心小道。	5-12 for as an major observe
土 翠 体	須 恵 器 数5、 破斤 土 萌 器 坏、坏a
羅 小型碗(!) 類 平瓦(繩目、格子、無文)、 丸瓦(格子、無文)。 夏玉	尼 族 系 就 器 小环
品 滑不加工品	瓦 類 罕瓦(剛且、権子)、破片
品 輔河口	
	(s-4)
10 Table	土 師 器 破片 瓦 類 破片(格子、無文)
器 破片 土 器 鉢、 植鉢	36 407 (10 7 7/10/00)
類 写瓦(總目), 丸瓦(格干)	8°44
	土 節 著 Fis. 藏片
and the same and t	瓦 類平瓦
器 直3、环、环c、甕、鉢、破片	5-46
嘉 坏、皖、皖。、碳片 东 青 磁 皖:Ⅱ-b(1)	重 節 器环、小量5、磁片
征 器 梅、碳片	五 類 平瓦(無文)
陶 器 椀、甕、破片	
類 平反(縄目、格子、無文)、丸瓦(核子)、瓦玉、破片	S-47 土 版 富碳片
+	瓦 新碳片/無正
五 a a a a a a a a a a a a a a a a a a a	
器环、坏鱼、榆木、小型4、破斤	5-48
土 器 鉢、捆鉢	新 恵 器 西3、坏。 土 新 器 环、环s、更、碳片
土 器 房圣、確辞、火鉢、壺	五 節 森 中, 中6、克 成八 瓦 額 平瓦(總目,無文)
 (五) (五) (五) (五) (五) (五) (五) (五) (五) (五)	
陶 藝 嵌片(2)	2-19
覆 室 破片	復 恵 蓋 甕
製 器 (6)、 変	主 節 器 环。丸並环a、榛o 瓦 類 丸瓦(核子)
期 平瓦(織目、格子)、え瓦(格子、筆文)、破片	NE ANTANGARIA
št .	8-61
器 養3、坏2、甕、破片	漢 惠 器 大圷c
器 坏、破片	上 篩 器坏、坏。
土 图 指針、破片	瓦 類平瓦
± 器 握鉢、羽釜、鉢、仏具(花立?) 磁 幅: IV-1a(1) 重: Ⅱ-1(1) 壹(2)	金属聚品的库
衡 器 破片(2)	
磁 器 桅、破片	5-52
商 器 描述、施、重	上 新 器 灰 梶 。 里
類 平瓦(總目、格子、無文)、丸瓦(格子、無文)。、軒平瓦、破片	夏 類 破片
	3-53
製 善1、蓋c、坼、坼a、坼c、高环、麦	土 斯 親杯
器 坏、环a、环c、小面a(仆)、更	
類 平足(興目、格子、無文)。 丸瓦(無文)	S-54 須 恵 器 破片
系 育 翟 杯1(1) - 級片1(1)*	領 息 器 新
職 器 截 製 品 配序	五 類破片
品则片	金 萬 製 品 供初
The same of the sa	多. 意 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
蓋 蓋3、蓋4、雙,蓋、臺b、破片 蓋 环、环a、环a((())。丸底环a、纯c、小皿a、甕、碳片	土 師 器状、状a、梅、瘊:、 E.A、堤、破片
春 /能	馬 色 土 表 从破片
陶 瑟 畫	瓦 每 平瓦(總目、格子)、九瓦(無文)、新丸瓦
避 据: II-1(1)	全 異 製 島 乾痒
類 平瓦(磯目, 格子、無文)、克瓦(格子、無文)、軒平瓦、軒克瓦、瓦玉 品 平玉石	X-56
品牌、不明品	源 惠 器 破片
and any	S-37 須 恵 暑 坏c
器 破片 器 环。 丸斑环?,破片	須 恵 器 坏c 土 新 器 坏、破片
五 序。	
B 磁 器 破片(1)	S158
類 罕瓦(織目、格子)、丸瓦(格子)、破片、瓦玉	類 患 器环
	土 箭 器 杯. 梅:
5	\$-59
5 塞环、死a、坏c、掩c、夔、蜂?、破片	類 恵 春 汚
土 基 鲜?	主 節 器 环、碗c、小面z、小面c、破片
土 碧 火鉢、灯籠、海釜	同安電系青磁梅: (-tb(1) 瓦 即平瓦(縄目、格子、無文)、丸瓦(核子、無文)
脚 器 核、鉢、破片 副 责(1)、白硒碳片(2)	AND THE PROPERTY OF THE PARTY O
相 支(1)、日報収入(2) 青 - 田 梅田?(1)	S-61
現 器 養(1)	領 惠 嘉 蓋 、 坏、 夏、 破斤
類 平瓦(縄目、悠子、無文)、 丸瓦(格子、無文)、 破片	士 等 器 坏、坏a(())、棉c、小型a、破片
E 4	五 質 注 器 少豊 五 類 平五(格子),先五(磯目、筆文)
色士 图	
新环、环a、环a(f))、环c、大环o、甕、鍋?、破片	S-61成茶色土
1 十 菱 鉢 破片	京 意 最终
土 蓄 火蘇、摧蘇、蘇、片口坏?、破片	土 師 弱环、垢((l))、破片 反 類平反(無文)
[磁 器 66、 破片 陶 器 66、 裹, 破斤	16 TH 12610A7
海 芸性、乳、気力 避 萎 梅、ミニチュア	5-62
系 界 區 梅 : I-3(I)	領 恵 器坏, 鬼
系青嶺梅: J(2), 1-2×3(1)	土 師 器 坏、坏a、小aa×坏a(())、破片 瓦 類 平瓦(格子,無文)、克瓦(格子)
系 青 最 後:1(i)	瓦 類 平瓦(格子, 無文)、丸瓦(格子)
朝 菱(1) 白磁碳片(1) 類 器 菱(1) 破片(1)	5-63
類 罕瓦(講目、核子)、丸瓦(格子)、破片	土 飾 器破片
製 是 鉄釘	五 類 平瓦(格子、無文)
以 显 学宝石	8-64
	土 師 器破片
新 器 环、破片	肥 前 系 磁 器 破片
類 平五	五额硫片
- 57	

5-66	
上 師 雾破片	S-907 須 恵 器量、蓋3、环、歩c、変
S-67	上 師 器 類a、环c、核c、解付監、抱手、破片 期 色 上 器 4 破片
正 新 器 破片 瓦 類 丸瓦	瓦 頁 土 蓄火鉢
	龍泉 臺 系 青 磁 椀:1(1), 1-2(1). 祀 前 系 磁 器 椀, 且、壺、 4 概要, 花麻、 破片
S-68 土 師 若 所	B 産 陶 B 体 破片
瓦 類 平瓦(運目、無文)	五 類 平瓦(農員、格子、無文)。 丸瓦(集文) 石 製 品 平玉石
5-69	金 属 骸 品飲到 こ の 他日秦祗
土	
	S-87 瓦 類 平瓦
S-70里灰色土 图 惠 器 83、 8c、 环、 坏a、 坏。 专 表 妹 碎片	
土 茹 器 坏s、碗c、甕 破片	S-88 項 老 器 感 破片
塞 在 土 器 A 施。 瓦 题 平瓦(繩目、格子)。 克夏(繩目、格子)、 軒丸瓦	土 新 素素片
	5-89
S-7] 土 號 最碳片	須 恵 景 蓋、蓋3、坏c、甕、破片
	上 師 器 环、环a、棉c、菱 區 色 上 器 B 椀
S-72 土 師 劉 怀a(石)、破片	自 磁 图(17(1))
瓦 颗平瓦(格子、破片)	国 産 陶 器 椀 壹 2 匙 前 系 磁 器 椀 雞口?、破片
S-73.	五 顯 平瓦(縄目、格子、無文)、 丸瓦(格子) 石 藝 品 丸石
原 恵 器 坏c. 破片 土 崎 器 破片	金 属 製 品 鉄釘
瓦 頻酸性	そ の 他 ガラス
8-74	S-91
土 師 露 呀、破片	土 師 器坏 瓦 類平瓦(無文)
瓦 類平瓦	
S-75 領 惠 器 畫、畫3、茶c、杯c、卷	S-92 車 恵 器 蓋3
土 師 器 环a、环c、碳片	主
馬 色 土 器 A破斤 土 師 賞 土 器揮鉢,鉢?	
瓦 質 土 器火鉢	S-93 項 恵 製 養3、坏。
起 前 茶 截 器 帕、破片 国 産 陶 器 意、播修、鲍、土顿	犯 南 系 磁 器 皖、皿、角皿
應 泉 高 系 青 編 婉:L(f)、'H-6(f)	国 産 陶 器破片
提安 置 系 青 避 雌 : 1-1(1) 瓦 類平瓦(雌日, 格子)、丸瓦、粉丸瓦	瓦 類 平瓦(格子), 丸瓦(格子)
土 製 品土地	3-94
S-76	類 思 器 種c、 破片 上 師 器 环a、 破片
第 惠 墨 是 土 師 器 环,小道。 破石	五 類平五(織目)
瓦 寅 土 嘉鉾	S-96
瓦 類 平瓦(格子,無文)	页 惠 图
8-77	土 師 器 何c、碳片 瓦 版 平瓦(縄日,無文)
土 新 器 坏、坏z、破片 瓦 期平瓦(破片)	S-97
\$-78	土 師 器 小皿a、破片
頁 恵 路圻、破片	国産 陶 巻 製
土 第 第 5m, 坏a(fi)、小皿a(fi)、霧台、破片 白 總 核(i)	S-98
瓦 類 平瓦(護目,格子、無文)	原 恵 器 环u 上 師 器 环
石 製 品石橋 土 製 島柳?	国 雅 陶 器 破片
5-79	瓦期破片
土 節 器 环、环a((f)、小面a((h)	S-99 土
瓦 類 罕瓦(織目,格子)	瓦. 類破片
S-80	5-101
上 解 器 死、小直a 瓦 閩 平瓦(格子,無文)	土 節 器 坪、环a、梅c
5-80章	S-102
頭 惠 器 破片	須 恵 嘉 破片 土 新 器 杯、杯。小型。
土 師 器 坏. 丸底环. 棺 在 配 梶: (V-1a(1))	上 藍 器 环、环a、小型a 瓦 類 破片
瓦 爾 平瓦(格子、無文)、 丸瓦(格子)、 軒丸瓦	S-103
土 製 温 解羽口	須 恵 藍 蔵片
S-81	土 蘇 器 环n、小型n、碳片 瓦 類 平瓦(無文)
土 師 器 坏、 炸 x 瓦 類 平瓦(格子, 無文)	
5-82	S-104 須 恵 器蓋3、环、环c、蹇
須 惠 春 威片	土 師 器坏、项a、核c、破片 器 色 土 蓋 A 破斤
五	国 産 陶 器 破片
	瓦 類 平瓦(縄目、格子)、丸瓦(格子、無文)、軒丸瓦
5-83 第	S-106
土 師 器 坏a、碗c、破片	土 師 器 No. 破片 土 師 質 土 器 推移
	中国 陶 器 破片(1)
双 恵 器 部, 坏, 坏e, 破片	54 55 55 55 55 55 55 55 55 55 55 55 55 5
土 節 器 坏、坏a、小皿a、破片	S-107 土 節 型領片
土 師 質 土 器 塩鉢、鉢、鍋 瓦 質 土 器 塩鉢	
雅 泉 室 系 青 磁 根: [-2(1), IV/(1)	S-108 類 恵 芸 菱、 藍3、 坏c、 甕、 壺
在 福利·加(1)、破片(1) 畫(1) 肥 前 系 器 器 显、破片	上 新 雪 虾、环a、乳医环a、桐c、小墨a、鳙、破片
国 産 陶 器 鼠、鉢、蔥、甕 瓦 類 平瓦(縄目、格子、無文)、 丸瓦(格子)、 軒平瓦	上 朝 賀 土 岩(鉢×縄 龍 泉 電 系 青 編 権、1-4b(j)
(C 网下A.VRA、图下、至天/)、凡民(格子/)、科平瓦	瓦 類 平瓦(總目、格子,無文)、克瓦(集文)。 瓦玉

11			
_		器 盖3、坏、坏a、夔、磁斤	
	新	墨 年、年a、小皿a、甕、破片	
	新賞士	云 描針、網	
	質士	器 火蜂	
	安服系青	遊 梶 : 1-ib(1)	
	前系磁	器 桅、破片	
_	産 陶	器 擂鉢、破片	
_	産 応	器 椀、小椈、硷片	
_	-	類 平瓦(格子、筆文)、 丸瓦(格子)	
_	英製	品 乾津	_
	90	品 砥石	
l)	13.	型 (D) (E) (E) (E) (E)	
	惠	器 直3、重c、坏、坏a、环c、壅 器 坏、坏a、丸底环、丸底环。, 观c、 甕、 破片	
-	師	音 年、 76、 人思 7、 人思 7 4、 96、 米、 W 7 証 権: W(1)	
	前系費	器 椀、皿、紅豆、破片	
	产陶	起 擂鉢	
	産産	器 裕	
		類 平瓦(縄目、格子)、 丸瓦(縄目、格子)	
	第二款	品配準、鉄釘	
	- %	品克石	
1	12		
	16	器直に	
	85	图 拖c. 破片	
Ī	州塞东青	祖 抱 : 1(1)	
		類 平瓦(格子)、丸瓦(縄目、格子)	
ij	13		
	50	器 坏、破片	
_		類破片	
	14		
Ĺ	35	B 小皿s、破片	
	16		
	新	器 环, 环a、小皿a	
_		類 平瓦(格子,無文)	
	17	= 1x 74.00	
	飾	器 坏。破片	
ov	TO.		
1	18	36 42 4F.	
	. E	語 杯。杯a	-
	99	置 坏s、纯c、便	
		類 平瓦(稿子)	
- 1	美色士		
1	JE.	器 查	
	新	器 坏、坏a、器台、酸片	
		個平瓦(織目、格子、無文)、 克瓦(格子)	
		TACAMENT IN THE PARTY OF THE PA	
ij	RE:		
		器 盖3、盖c、坏、坏a、坏z、嚏、鉢	
	師	器 坏、坏a、丸椀、槟=、皿a、羹、破片	
Ī			
Ī	色土面	B破片	
		B 破片 器 福鋒	
	色土多節買土	B 破片 器 福鋒	
	色土多節買土	B 破片 器 描終 磁 桶:Ⅱ→())	
	色 土 器 師 質 土 泉 葉 系 青	B 破片 器 植独:Ⅱ→(1) 磁 破片(1)	
	色 土 器 師 質 土 泉 葉 系 青	B 破片 器 植 : Ⅱ→(1) 磁 破 : Ⅱ→(1) 器 破片	
	色土富師買土泉繁系青	B 破片 器 櫃終 磁 碗: Ⅱ ±(1) 器 破片(1) 器 破片 類 罕瓦(縄目、格子、無文)、 丸瓦(格子、無文)、 瓦玉	
	色 土 器 質 土 青 前 菜 軽 斯 菜 軽	B 破片 器 福純: Ⅱ→(1) 磁 破片(1) 器 破片 類 罕瓦(適目、格子、無文)、 丸瓦(格子、無文)、 瓦玉 品 紅津	
	色 土 密 師 賀 土 泉 窓 系 青 前 系 磁	□ 破片 器 指幹 國 被: II → (1) 避 破片(1) 器 破片 類 罕瓦(適目、格子、無文)、 美瓦(格子、無文)、 瓦五 島 紅澤	
	色 土 器 質 土 青 前 菜 軽 斯 菜 軽	B 破片 器 福純: Ⅱ→(1) 磁 破片(1) 器 破片 類 罕瓦(適目、格子、無文)、 丸瓦(格子、無文)、 瓦玉 品 紅津	
	色 土 器 質 土	□ 破片 器 指幹 國 被: II → (1) 避 破片(1) 器 破片 類 罕瓦(適目、格子、無文)、 美瓦(格子、無文)、 瓦五 島 紅澤	
	色 土 器 土 市 賢 土 市 賢 系	 	
14	色 土 四 土 田 新 賈 土 青 斯 賈 土 青 斯 賈 来 醛 斯 系 醛 斯 英 巴土 斯	□ 破片 器 標幹 磁 N : II → (1) 磁 破片(1) 器 破片(1) 器 以广 類 平瓦(補目、格子、無文)、 丸瓦(格子、無文)、 瓦玉 品 紅澤 器 大瓦(無文) 器 表系(無文)	
1	色 士 器 質 士 器 質 士 器 質 士 器 質 士 報 銀 系 費 斯 系 碰 属 製 医色土 断 医	B 接片 器 指除 器 施; (II -b(1)) 器 破片(1) 器 破片 第 平瓦(適目, 格子、無文)、 丸瓦(格子、無文)、 瓦玉 品 紅澤 器 類c 器 丸瓦(無文) 器 あ, 坏。 続, 小瓜»、 蹇	
	色 士 器 士 型 士 型 新 聚 基 整 斯 基 整 斯 基 整 斯 基 整 斯 基 数 第 5 章 数	 	
13	色 士 四 土 四 土 四 土 四 斯	 	
	色 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 斯 斯 斯 斯	B 接片 B 接接 日 も(1) 日 も(1) 日 も(1) 日 も(1) 日 毎 接片 (1) 日 年 五 (博日、格子、無文)、 東王 日 年 五 (博田、格子、無文)、 東王 田 年 五 (東文) 日 日 日 日 日 日 日 日 日	
	色 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 斯 斯 斯 斯	政政庁 日本(1) 日本(1	
	色 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 士 四 斯 斯 斯 斯	B 接片 B 接接 日 も(1) 日 も(1) 日 も(1) 日 も(1) 日 毎 接片 (1) 日 年 五 (博日、格子、無文)、 東王 日 年 五 (博田、格子、無文)、 東王 田 年 五 (東文) 日 日 日 日 日 日 日 日 日	
13	色 士 四土 市	政政庁 日本(1) 日本(1	
	色 士 富土 富土 富土 富	政政庁 日本(1) 日本(1	
	色 世 五 土 南 土 西 土 西 土 西 土 西 土 西 土 西 土 西 土 西 斯 斯 斯 斯	 	
	色 士 富土 富土 富土 富	B 旅庁 11 (1) (1) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	
	色 士 富士 富 士 富 士 富 士 富 士 富 士 富 士 惠 斯 医色士 惠 斯 医色士 惠 斯 医色士 惠 斯 西 西 西 西 西 西 西 西 西 西 西 西 西 西 西 西 西 西	京成片 日本(1) 日本(1	
	色 世 五 土 南 土 西 土 西 土 西 土 西 土 西 土 西 土 西 土 西 斯 斯 斯 斯	B 旅庁 11 (1) (1) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	

灰褐色砂			
領 世	器	练、甕	
		42 / / 13	
5. 86	50	焚(());	
肥斯系術		破片	
A	额	平瓦(總	
基色士			
須 恵	思		
1: 35	봈	环、场。	
图 色 土 图		破片	
黑色土器		輸	
土更質土	28	鉢	
下 名 出 丁			
PL 94	됨		
領惠買士	25		
趙州蛮系青		香炉?(
龍泉富工青			
É	畚	梅:IV	
中国際	됢	破片	
便用系質	25	拖, 磁	
国意画	恶	協	
	10	平瓦(維	
凡.			
全 異 製	107	紅厚	
茶褐色土			
· 图	25	图, 图3	
土 新	器		
里色土素		施c	
土箭質土	老		
L SERI			
五 質 士	25	火体、3	
越州塞系青		梅:10	
龍泉盗玉青		班空(1)	
ét.	60	三碳片	
中国高	36	張片(1)	
尼前五星	8	極. 破)	
国產階	25	水注?,	
	_	概。小	
	35		ì
	慧	平五 漢	
全 異 製	10	平瓦(講 鉱澤	
110	11 40		
金属製	10		
金属製	48 (40)	石炭	
金属製	(Jr. 110	石炭 蓋以 直	
金 賞 製 そ の 表土 質 恵 土 師	(3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	石炭 壺、 直 坼、 坼。	
金 萬 製 老 の 表土 項 恵 土 師 賈 土	the test (de lite	石炭 壺、 面 坏、 场 鉢、 源	
金 萬 製 老 小 表土 原	US USE DIT DATE OF THE STATE OF	石炭 蓋以 重 环、坼。 蘇、 縣、 縣、 縣、	
金 萬 製 老 の 表土 項 恵 土 師 賈 土	US USE DIT DATE OF THE STATE OF	石炭 雪八 雪 环、坑 绿 、 高 、	
金属 製 さ の 表土	14 TEC 855 SER	石炭 雪瓜 雪 环、坼。 雪、 雪、 香、 坼。 雨。 上、	
金属 製 そ の 表土 類 恵 土 師 質 土 直 産 エ 系 同 安 産 系 別	14 TEC 855 SER	石炭 雪瓜 雪 环、坼。 雪、 雪、 香、 坼。 雨。 上、	
金 萬 製 七 の 表土 原 生 原 工 原 土 原 工 工 原 土 龍 質 土 龍 景 エ 系 別 四 安 憲 系 青 白	14 TEC 855 SER	石炭 雪瓜 雪 环、坼。 雪、 雪、 香、 坼。 雨。 上、	
金 銭 製 を の	14 TEC 855 SER	石炭 雪瓜 雪 环、 坼。 雪 溪 水 、 源。 雪 溪 、 河 。 南 溪 、 河 。 南 溪 、 河 。 南 溪 、 河 。 河 。 河 。 河 。 河 。 河 。 河 。 河 。 河 。 河	
を	中 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40	石炭 整、 重 が、 源 経 に が に に が に に に が に に に に に に に に に に に に に	
を を を を を を を を を を を を を を	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	石炭 整、 重 が、 源 経 に が に に が に に に が に に に に に に に に に に に に に	
を	中 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40	石炭 雪坏、添、排、添、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1	
を 義 製 を さ の の を か か か か か か か か か か か か か か か か か	THE REAL DAY THE WEST THE REST BATH THAT THE THE THE THE THE THE THE THE THE TH	石炭 素水、添添、 基本 素体、添添、 基本 素体、 基本 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工工 工	
を 素土 類 息 土 師 賞 土 産 業 産 主 職 賞 土 産 業 産 中 国 職 配 用 系 関 配 用 系 関 に 関 産 配	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	石炭 重水、添 体、添 体、添 体、 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	
を を を を を を を を を を を を を を	中	石炭 素以、重 系、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
を 変 を を を を を を を を を を を を を	品 報 報 報 報 報 報 報 報 報 報 報	石炭 素水、香油 素水、香油 ・ 11・11 ・	
を を を を を を を を を を を を を を	中	石炭 素水、香油 素水、香油 ・ 11・11 ・	
全 賞 契 を を を を か を か か か か か か か か か か か か か	49. 49. 49. 49. 49. 49. 49. 49. 49. 49.	石炭 素5、重5 素5、10 素5、10 がは、	
全 賞 契 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	石炭 素水、添添、水 体、添添、土 は、水 が、水 が、水 が、水 が、水 が、水 が、水 が、水 が	
全 賞 契 を を を を か を か か か か か か か か か か か か か	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	石炭 素5、重5 素5、10 素5、10 がは、	
全 賞 契 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	48. 40. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 1	石炭 素水、添添、水 体、添添、土 は、水 が、水 が、水 が、水 が、水 が、水 が、水 が、水 が	
全 賞 契 を	48. 40. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 1	石炭 素外、添添、 体の が、 体の が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、	
全 義 契 を 表土	44. 40	石炭 - 重水、新高(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、(1)、	
全 賞 契 を	43.40 國際協議等發發發發動 即 品別 弱弱類	石炭 素外、添添、 体の が、 体の が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、	
全 義 契 を 表土	品於	石炭 重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重	
全 義 教 製 を まま	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	石炭 重3、重5、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、	
全 義 教 製 を 表土	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	石炭 重3、重5、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、10、	
全 義 契 を 表土	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	石炭 重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重5、重	
を	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	石炭 重水、蒸蒸土、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
を	4. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	石炭 重水、蒸蒸土、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
全 義 教	43.40 网络阿拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉	石炭、重水、蒸油、100mm。 100mm。	
を	43.40 网络阿拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉拉	石炭 重次 (新達) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	

E 89	各 序(4);一环和(2)。九既对3、小国8
肥前茶種	器 破片
A -	類 平瓦(總目,格子,無文)。丸瓦(格子,無文)、軒丸瓦、瓦玉
茶色士	
	唇 查、 查3、 坏、 坏c、 甕、 查、 参)。
1: 55	器 环、圻a、小重a、坏c、元运环a、梅c、甕、蔵片
图 色 土 器	A破片
馬色土器	B梅
土頭質土	思鉢
瓦質土	器 花兰?、韩
領惠賈士	五 体
趙州靈系青	@ 香炉?(1)
龍泉家王青	磁 梅:II-b(2) 直:IV(1) 磁片1(1)
	益 拖:IV(1)、VI(1)、小椀(1) 白硼酸片(1)
Ė	
中国際	器 破片
肥用系面	器 掩, 磁片
田 高 周	器 袘
A.	類 罕瓦(韓目、格子、舞文)、丸瓦(韓目、格子、無文)、健し五、五五
全 禹 製	品 紅厚、飾金具、鉄釘、鉄塊
茶褐色土	
表	器 置、图3、 直c、环、环a、环c、甕、鉢、壶、磁片
土 領	器 西、坏、坏s、丸签环a、棉c、甕、破片
	1 40 -
里色土素	A 模c
土箭買土	器 鉢、擂鉢、肥手
五黄土	器·火鉢、湯釜、火絲×釜、破片
植州塞系青	最 梅:103
	截 坏?(1)
龍原遊至者	
ěf.	磁 直破片(I)。 白磁胺片(I)、 区复系(I)
中国高	藝 碳片(1)
尼前王星	器 桩、破片
国産階	器 水注?, 图、磁片
	部
田産屋	芸能、小箱、煎
AL.	是 平瓦(縄目,格子、無文)、丸瓦(格子、無文)、軒丸豆
金 萬 製	品 鉱澤
€ 0	他 石炭
de a	
表土	
頁 惠	置 数3、直c、坏、坏a、标c、且a
土 類	器 坏、坏x((), 勺)、兔笼坏a、小皿a(())、把手、破片
土 筋 背 十	器 鉢、源釜、破片
五貫士	器 测釜、描鉢、破片
	群 施: I-2(2) 蔵片(1)
	症 検: I-lb(l)
iï	在 [V(1), V(1), V-2a(1) 藏片(1)
中国陶	器 破片(1)
医前系膜	器械、磁片
AL DE ST. SE	
三 産 製	器 梅、甕、擂鉢、瓶、豆、人形
国 差 些	器械、磁片
	田田/田田 株式 集会/ 5 日/株工 集会/ 新田下 都会下
H	類 機し瓦、瓦玉
5 00 W	
鱼 属 製	品鉱港
÷ 01	他 が ラス
またひつチ	
m B	墨环
土 節	器 破片
五	類破片
et tout	
Bトレンデ	
士 舞	器 坏。 雙、臺、破片
てトレンチ	
	10 pr I m 1933
土 鲜	器 坪a×小里a、磁片
自	碳酸疗(1)
瓦	類 平瓦(格子)、破片

表 3 第 42 次調査 須恵器・土師器・黒色土器・瓦器供膳具計測表

種別	- 25	TR	運物香	· 図番号	1145	器高	底径	- 1	1
土師器	小型a	141			_		-	_	
	-			Fig. 14-11	_	_	4, 15	_	-
土的岩	小里#	11	R-002	Fig. 14-13	6, 45	1.15	4.95	- 0	
土節器	→ Ha	1 1 k	R-003	Fig. 14-12	6.3	1, 1	4.5		
土師基	小胆n	14.4	R-004	Fig. 14-14	6.9	1, 25	4.8	- 0	
土師器	つか Ha	11	R-005	Fig. 14-10	5.9	1.15	4.05	0	đ
5-30青灰色	B±								
種別	35	預	遺物皆利	国番号	口径	25.5	送径	l à	Т
上新器	小型a		R-901	Fig. 17-51			_		Н
土葬器	小面a	105	_				(7.4)		-
		100	R-002	Fig. 17-50	-	1.1	17.0	_	4
土新掘	小量a		R-005	Fig. 17-49	-	0.9	(6.6)		
土奶酱	小量の	4. b?		Fig. 17-52	(10.5)	1.3	(8, 4)	0	
土新器	IF a	3f-1:	R-003	Fig. 17-54	-	£.15±	a (12.2	0,0	2
十節器	#Fra	3.15	R-004	Fig. 17-53	-	1.15+	a (11.2		-
30灰褐色	B)								
種別	器	RE.	遺物香号	因番号	口径	器高	高径	Tot	Т
土師器	1Ka		R-001	_	20.75				H
土師器	15 a	11		Fig. 17-11	-	1.2+8		_	
	+	7.5	R-002	Fig. 17-10	700 0	1.2+6		0	9
瓦器	施		B-003	Fig. 17-12	(10.5)	2.4+6	4 -		1
5-30茶色 1									
種別	- 16	Fil	適物面号	図番号	口径	装高	章程	A	T
土新器	小田a	4 3.7		Fig. 17-1	.(10:4)		(7.6)	-	t
土師器	坪a		R-003	Fig. 17-2	Anto 47	1. 15+		_	7
2.00	21.0	1	W. 1963	198.31-2		In the s	(10.2)	130	1
76 T A 45	L.								
30茶色粘		-	Lamber -					_	
種別	25	100	遺物香号		口径	器高	底径	A	ı
土箭器	小型a	1.5	8-003	Fig. 17-5	(9.8)	0.9	(7.6)	0	T
土新器	Ifa .	-	R-001	Fig. 17-6	(16, 2)	2.65	(11.4)		Ť
土务器	IF a		R-002	Fig. 17-7	(17.5)		(11:0)	_	Ť
									-
30高灰色	+								
種別	50	種	遺物委号	THE P.	- 10	102-01	Evenor	1	-
		_			口些	器高	底径	A	1
土節器	ウ田a	-3.7	R-003	Fig. 17-20	(8.4)	1.0	(6.7)	-0	E
土角器	小型a	-	R-004	Fig. 17-22	(8, 9)	1.5	(6,8)	103	I
土師器	小型a	-	R-005	Fig. 17-24	(9.1)	1.3	(7.0)	-	Т
土師器	小宝。	0.52	R-018	Fig. 17-25	10.4	7.7	8.0	1 -	t
上新器	小面a	41	R-019	Fig. 17-21	(8.6)	1.35	(5, 6)	:03	t
土師器	小型a		R-020	Fig. [7-2]	-		_		
					(9.0)	1.0	(6, 7)	-	÷
土斯器	小型a	-	R-021	Fig. 17-19	(8.4)	1.2	(6.6)	-	Ш
土師器	中風a	-	R=022	Fig. 17-18	(8:4)	1.0	(6.0)	-	
土新器	小皿a	1 K	8-024	Fig. 17-26	(10.9)	171	(8.4)	-	Т
士師器	坏化	-	R-002	Fig. 17-30	(16.1)	2,5	[13, 2]	02	t
士師器	坏a	48	R-006	Fig. 17-29	(15.4)	3.1	(10.0)	_	t
上師器	拆在	4.1	R-007	Fig. 17-31	(440.4)				H
		_			77.0.01	1.9+ a		-	н
上新器	1Ka	48	R-008	Fig. 17-27	(12.8)	2.6	(9,0)	10	L
上師器	35%	45	R-023	Fig. 17-28	(13, 6)	2.4	(9.8)	02	L
土飾器	R:		E-016	Fig. 17-34	(9.5)	-3.8	(4:0)		H
土等器	稀cX量c		8-017	Fig. 17-33	-	L6+ a	(7.8)		П
士等器	丸島坏ョ	-	R-001	Fig. 17-34	17.0	3.3	10.0	02	T
瓦器	小臣。		R-010	Fig. 17-35	(10:0)	1.1+ a		-	H
瓦器	梅c		R-009	Fig. 17-36	149.90	-	[9:21	100	F
	1/2/		Jr. 1945	LTR: 1(-30		4.9+ a	(7.6)	0	
DEFA.									
以灰紫色」		est.	i mer	to a					_
種別	若	惟	遺物香号	図番号	口径	器高	底径	:A	L
		11.	R-001	Fig. 16-2		$0.9 \pm \alpha$	(7.0)	0	ľ
土師器	小量a					2.00	(6, 4)	175	ſ
土師器	小量a	×57?	R-002	Fig. 16-1	(7, 8)	0.95		12	_
		×52	R-002	Fig. 16-1	(7, 8)	0.95		10	
		×5?	R-002	Fig. 16-1	(7, 8)	0.95		10	
土師器		ベラ?.	R-002 遺物番号	Fig. 16-1 図番号			陈年		
上師器 S-15 種別	小量a		遺物番号	図番号	口径	潜高	底径 (7.1)	A	
土師器 S-25 種別 土師器	小田a 本田a	स् ।	遺物番号 R-001	図番号 Fig. 24-4	口径 (9.8)	習高	(7.1)	A	
上師器 S-35 種別 上師器 上師器	小田a 宏 小田a	種 - ペラ	邀物番号 R-001 R-002	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7	口径 (9.8) (10.0)	器高 1.2 0.95	(7.1)	A .O.	
上師器 S-55 種別 上商器 上師器	少量a 本型a 小型a 小型a 小型a 小型a	स् ।	遺物番号 R-001 R-002 R-003	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6	口径 (9.8) (10.0) (10.0)	器高 1.2 0.95 1.05	(7.1) (7.8) (7.2)	A O	
上師器 S-15 種別 土師器 上師器 上師器 上師器	小田a 小田a 小田a 小田a 小田a	種 - ヘラ ヘラ	遺物番号 R-001 R-002 R-003 R-024	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6 Fig. 24-3	口径 (9.8) (10.0)	器高 1.2 0.95 1.65	(7.1)	A .O.	
上師器 S-15 種別 上師器 上師器 上師器 上師器	小田a 小田a 小田a 小田a 小田a 小田a 小田a	種 - ヘラ ヘラ - ヘラ	遺物番号 R-001 R-002 R-003	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6	口径 (9.8) (10.0) (10.0)	器高 1.2 0.95 1.05	(7.1) (7.8) (7.2)	A O	
上師器 S-15 種別 上師器 上師器 上師器 上師器	小田a 小田a 小田a 小田a 小田a	種 - ヘラ ヘラ	遺物番号 R-001 R-002 R-003 R-024	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6 Fig. 24-3 Fig. 24-2	口径 (9,8) (10,0) (10,0) (9,8)	器高 1.2 0.95 1.65	(7.1) (7.8) (7.2) (8.2)	A 0 0 0 0 0	
上師器 S-15 種別 上師器 上師器 上師器 上師器	小田a 小田a 小田a 小田a 小田a 小田a 小田a	種 - ヘラ ヘラ - ヘラ	進物番号 R-001 R-002 R-003 R-024 R-025 R-025	図番号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6 Fig. 24-3 Fig. 24-2 Fig. 24-2	口径 (9,8) (10,0) (10,0) (9,8)	器高 1.2 0.95 1.05 1.4 1.4+a 1.0+a	(7, 1) (7, 8) (7, 2) (8, 2) (8, 2)	A 0 0 0 0 0 0	
上師器 S-15 種別 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器	小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名	種 - ペラ ペラ - ペラ イト ペラ	邀物番号 R-001 R-002 R-003 R-024 R-025 R-026 8-027	図番号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6 Fig. 24-3 Fig. 24-2 Rig. 24-8 Fig. 24-9	口径 (9.8) (10.0) (10.0) (9.8) (9.4)	器高 1.2 0.95 1.05 1.4 1.4+ a 1.0+ a 1.25	(7, 1) (7, 8) (7, 2) (8, 2) (8, 2) (6, 3)	A 0 0 0 0 0 0	
土師器 S-15 種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	本面名 本面名 本面名 本面名 本面名 本面名 小面名 小面名 小面名 小面名 小面名	種 - ペラ ヘラ - ペラ イト ヘラ ペラ	遺物番号 R-001 R-002 R-003 R-024 R-025 R-025 R-027 R-028	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6 Fig. 24-3 Fig. 24-8 Fig. 24-9 Fig. 24-9	(9.8) (10.0) (10.0) (9.8) (9.4)	器高 1.2 0.95 1.05 1.4 1.4+α 1.0+α 1.25 1.1	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3)	A 0 0 0 0 0 0	
土師器 S-15. 種別 土師器	小田名 本田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名	種 - ペラ ペラ - ペラ イト ペラ	遺物番号 R-001 R-002 R-003 R-024 R-025 R-026 8-927 R-028 R-029	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6 Fig. 24-3 Fig. 24-9 Fig. 24-9 Fig. 24-9 Fig. 24-5	口径 (9.8) (10.0) (10.0) (9.8) (9.4)	器高 1. Z 0. 95 1. 05 1. 4 1. 4 + α 1. 0 + α 1. 25 1. 1 1. 5	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3	A 0 0 0 0 0 0	
土師器 S-15 種別 土師器	小田名 本田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名	種 - ペラ へラ - ッラ イト ヘラ ヘラ? ヘラ?	康物番号 R-001 R-002 R-003 R-024 R-025 R-025 R-027 R-028 R-028 R-029 R-030	図番号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6 Fig. 24-3 Fig. 24-9 Fig. 24-9 Fig. 24-9 Fig. 24-5 Fig. 24-5	日径 (9,8) (10,0) (10,0) (9,8) (9,4) (9,1)	器高 1.2 0.95 1.05 1.4 1.4+α 1.0+α 1.25 1.1 1.5 2.2+α	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3 (9, 0)	A 0 0 0 0 0 0	
土師器 S-15. 種別 土師器	小田a	種 - ペラ ヘラ - ペラ ヘラ・ヘラ・ヘラ・ヘラ・ハラ・ハラ・ハラ・ハラ・ハラ・ハー・オト	遺物番号 R-001 R-002 R-024 R-025 R-025 R-025 R-028 R-028 R-029 R-030 R-031	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6 Fig. 24-3 Fig. 24-9 Fig. 24-9 Fig. 24-9 Fig. 24-5	(9.8) (10.0) (10.0) (9.8) (9.4)	器高 1. Z 0. 95 1. 05 1. 4 1. 4 + α 1. 0 + α 1. 25 1. 1 1. 5	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3	A 0 0 0 0 0 0	
土師器 S-35 種別 土師器	小田名 本田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名	種 - ペラ へラ - ッラ イト ヘラ ヘラ? ヘラ?	康物番号 R-001 R-002 R-003 R-024 R-025 R-025 R-027 R-028 R-028 R-029 R-030	図番号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6 Fig. 24-3 Fig. 24-9 Fig. 24-9 Fig. 24-9 Fig. 24-5 Fig. 24-5	日径 (9,8) (10,0) (10,0) (9,8) (9,4) (9,1)	器高 1.2 0.95 1.05 1.4 1.4+α 1.0+α 1.25 1.1 1.5 2.2+α	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3 (9, 0)	A 0 0 0 0 0 0	
土師器 S-15. 種別 土師器	小田a	種 - ペラ ヘラ - ペラ ヘラ・ヘラ・ヘラ・ヘラ・ハラ・ハラ・ハラ・ハラ・ハラ・ハー・オト	遺物番号 R-001 R-002 R-024 R-025 R-025 R-025 R-028 R-028 R-029 R-030 R-031	図番号- Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-6 Fig. 24-3 Fig. 24-3 Fig. 24-9 Fig. 24-9 Fig. 24-1 Fig. 24-1 Fig. 24-15 Fig. 24-17	日径 (9,8) (10,0) (10,0) (9,8) (9,4) (9,1)	器高 1.2 0.95 1.05 1.4 1.4+α 1.0+α 1.25 1.1 1.5 2.2+α 2.45	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3 (9. 0) (9. 4)	A 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
上師器 S-35 種別 土師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上	小田名 本田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名	種 ー ハラ ハラー ハラ イト ハラ・イト イト	應物番号 R-001 R-003 R-003 R-024 R-025 K-026 8-027 R-028 R-028 R-030 R-031 R-032 R-033	図番号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-7 Fig. 24-3 Fig. 24-3 Fig. 24-3 Fig. 24-9 Fig. 24-5 Fig. 24-15 Fig. 24-15 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-17	日径 (9,8) (10,0) (10,0) (9,8) (9,4) (9,1)	器高 1.2 0.95 1.05 1.4 1.4+α 1.0+α 1.25 1.1 4.5 2.2+α 2.45 1.2+α 2.7+α	(7, 1) (7, 8) (7, 2) (8, 2) (8, 2) (6, 3) (7, 2) 7, 3 (9, 0) (9, 4) (10, 0)	000000000000000000000000000000000000000	
上師器 S-55. 種切り 上師器	小田名 参照 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田	種 ー ハラ ハラ ー ハラ イト ハラ? イト イチ?	應物番号 R-001 R-002 R-003 R-024 R-025 R-025 R-027 R-028 R-030 R-031 R-031 R-032 R-033 R-034	図書号 Fig. 24-3 Fig. 24-7 Fig. 24-7 Fig. 24-8 Fig. 24-8 Fig. 24-8 Fig. 24-9 Fig. 24-15 Fig. 24-12 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-18	日径 (9,8) (10,0) (10,0) (9,8) (9,4) (9,1)	器高 1.2 0.95 1.45 1.4+α 1.4+α 1.0+α 1.25 1.1 1.5 2.2+α 2.45 1.2+α 2.7+α 1.7+α	(7, 1) (7, 8) (7, 2) (8, 2) (8, 2) (6, 3) (7, 2) 7, 3 (9, 0) (9, 4) (10, 0)	A O O O O O O O O O O O O O O O O O O O	
上師器 第7 生師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上	小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名	種 ー ハラ ハラー ハラ イト ハラ・イト イト	應物番号 R-001 R-002 R-063 R-025 R-025 R-027 R-028 R-030 R-031 R-032 R-032 R-034 R-035	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-7 Fig. 24-2 Fig. 24-2 Fig. 24-2 Fig. 24-1 Fig. 24-1 F	日経 (9.8) (10,0) (10,0) (9.8) (9.4) (9.1) 10.0	25 β β 1. 2 1. 2 0. 95 1. 405 1. 4 + α 1. 0 + α 1. 2 + α 1. 15 2. 2 + α 2. 45 1. 2 + α 2. 7 + α 1. 3 + α	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3 (9. 0) (9. 4) (10. 0) (10. 2) (9. 3)	000000000000000000000000000000000000000	
上師器 S-35 種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	小里名 参 小里名 小里名 小里名 小里名 小里名 小里名 小里名	種 - ペラ - ペラ イト ペラ? イト イト イチャ	康物番号 R-001 R-002 R-003 R-024 R-025 R-026 8-027 8-028 8-030 R-031 R-032 R-033 R-035 R-035 R-035	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-7 Fig. 24-8 Fig. 24-8 Fig. 24-9 Fig. 24-15 Fig. 24-15 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-18 Fig. 24-18 Fig. 24-18 Fig. 24-18	日径 (9,8) (10,0) (10,0) (9,8) (9,4) (9,1)	32.6 1. 2 0. 95 1. 05 1. 4 1. 4 + α 1. 0 + α 1. 25 1. 1 1. 5 2. 2 + α 2. 45 1. 2 + α 1. 7 + α 1. 3 + α 3. 6 + α	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3 (9. 0) (9. 4) (10. 0) (10. 2) (9. 3) (10. 2)	A O O O O O O O O O O O O O O O O O O O	
上師器 S-15 機划 上師器	小服名 茶匠名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服	種 ー ハラ ハラ ー ハラ イト ハラ? イト イチ?	應物番号 R-001 R-002 R-063 R-025 R-025 R-027 R-028 R-030 R-031 R-032 R-032 R-034 R-035	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-7 Fig. 24-2 Fig. 24-2 Fig. 24-2 Fig. 24-1 Fig. 24-1 F	日経 (9.8) (10,0) (10,0) (9.8) (9.4) (9.1) 10.0	25 β β 1. 2 1. 2 0. 95 1. 405 1. 4 + α 1. 0 + α 1. 2 + α 1. 15 2. 2 + α 2. 45 1. 2 + α 2. 7 + α 1. 3 + α	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3 (9. 0) (9. 4) (10. 0) (10. 2) (9. 3)	A O O O O O O O O O O O O O O O O O O O	
上師器 S-35 種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	小里名 参 小里名 小里名 小里名 小里名 小里名 小里名 小里名	種 - ペラ - ペラ イト ペラ? イト イト イチャ	康物番号 R-001 R-002 R-003 R-024 R-025 R-026 8-027 8-028 8-030 R-031 R-032 R-033 R-035 R-035 R-035	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-7 Fig. 24-8 Fig. 24-8 Fig. 24-9 Fig. 24-15 Fig. 24-15 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-18 Fig. 24-18 Fig. 24-18 Fig. 24-18	日経 (9.8) (10,0) (10,0) (9.8) (9.4) (9.1) 10.0	32.6 1. 2 0. 95 1. 05 1. 4 1. 4 + α 1. 0 + α 1. 25 1. 1 1. 5 2. 2 + α 2. 45 1. 2 + α 1. 7 + α 1. 3 + α 3. 6 + α	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3 (9. 0) (9. 4) (10. 0) (10. 2) (9. 3) (10. 2)	0 0 0	
上師器 S-15 種切引 上師器	小服名 茶匠名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服	種 - ペラ - ペラ イト ペラ? イト イト イチャ	虚物番号 R-001 R-002 R-003 R-025 R-025 R-025 R-025 R-028 R-028 R-030 R-031 R-031 R-033 R-034 R-035 R-036 R-037	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-6 Fig. 24-6 Fig. 24-2 Fig. 24-2 Fig. 24-2 Fig. 24-5 Fig. 24-1 Fig. 24-1 F	日経 (9.8) (10,0) (10,0) (9.8) (9.4) (9.1) 10.0	器高 1.2 0.95 1.45 1.4+α 1.0+α 1.25 1.1 1.5 2.2+α 2.7+α 1.7+α 1.7+α 1.3+α 3.6+α 2.3+α 1.9+α	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3 (9. 0) (9. 4) (10. 0) (10. 2) (10. 2) (10. 9) (11. 0)	A O O O O O O O O O O O O O O O O O O O	
上師器 S-15 種別 上師器	小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名 小服名	種 ー ハラ ヘラ イト イチト ヘラ イト イチャ ヘラ	進物番号 8-001 R-002 R-002 R-024 R-025 R-026 R-026 R-028 R-028 R-030 R-031 R-032 R-033 R-035 R-036 R-037 R-041	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-6 Fig. 24-7 Fig. 24-3 Fig. 24-8 Fig. 24-9 Fig. 24-15 Fig. 24-15 Fig. 24-17 Fig. 24-21 Fig. 24-21	口径 (9.8) (10.0) (10.0) (9.8) (9.4) (9.1) (16.0) (14.2)	### 1.2 0.95 1.05 1.4 α 1.0 + α 1.25 1.1 ± 5 2.2 + α 2.45 1.2 + α 2.7 + α 1.3 + α 3.6 + α 2.3 + α 1.9 + α 1.9 + α 1.9 + α 1.1 + α 1.1 + α 1.2 + α 1.2 + α 1.3 + α	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) 7. 3 (9. 0) (9. 4) (10. 0) (10. 2) (9. 3) (10. 9) (11. 0) 8. 3	A 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	3
上師器 S-25 種切! 上師器 上師器 上述師器 上述師器 上述師器 上述師器 上述師器 上述師器 上	小田名 参加田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名 小田名	種 ー ハラ ヘラ ー タイト ヘラ ー イト イチャ ヘラーイト	應物番号 R-001 R-002 R-002 R-024 R-025 R-026 R-028 R-028 R-030 R-031 R-031 R-035 R-035 R-037 R-040 R-041 R-043	図書号 Fig. 24-4 Fig. 24-7 Fig. 24-7 Fig. 24-8 Fig. 24-8 Fig. 24-1 Fig. 24-15 Fig. 24-15 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-18 Fig. 24-18 Fig. 24-17 Fig. 24-18 Fig. 24-17 Fig. 24-18 Fig. 24-16 Fig. 24-17 Fig. 24-18 Fig. 24-16 Fig. 24-17 Fig. 24-16 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-18 Fig. 24-16 Fig. 24-17 Fig. 24-16 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-17	日経 (9.8) (10,0) (10,0) (9.8) (9.4) (9.1) 10.0	28 α 1, 2 0, 95 1, 4 1, 4 + α 1, 0 + α 1, 25 1, 1 1, 5 2, 2 + α 2, 7 + α 1, 3 + α 2, 3 + α 1, 9 + α 1, 1 + α 2, 1 + α 2, 2 + α 2, 3 + α 1, 3 + α 2, 3 + α 2, 3 + α 2, 3 + α 1, 3 + α 2, 4 + α 2	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) (7. 3) (9. 0) (9. 0) (10. 0) (10. 2) (10. 2) (10. 9) (11. 0) 8. 3 8. 7	0 0 0	30
上師器 S-15 種切 上師器	小服在 多原本 小服在 小服在 小服在 小服在 小服在 小服在 小服在 小服在	種 ー ハラ ヘラ イト イチト ヘラ イト イチャ ヘラ	虚物番号 R-001 R-003 R-003 R-025 R-025 R-025 R-025 R-027 R-028 R-030 R-031 R-031 R-033 R-034 R-035 R-034 R-036 R-040 R-040 R-041 R-041 R-041 R-041 R-043 R-041 R-043 R-041 R-043 R-043 R-041	図書号 Fig. 24-3 Fig. 24-7 Fig. 24-7 Fig. 24-8 Fig. 24-9 Fig. 24-15 Fig. 24-15 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-18 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-16 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-18 Fig. 24-18 Fig. 24-19 Fig. 24-19 Fig. 24-11 Fig. 24-19 Fig. 24-11 Fig. 24-11	(14.4) (12.0) (12.0) (14.4) (14.4)	### 1.2 0.95 1.05 1.4 + α 1.4 + α 1.0 + α 1.25 1.1 + 5 2.2 + α 2.45 1.2 + α 2.7 + α 1.7 + α 1.3 + α 3.6 + α 2.3 + α 1.9 + α 1.9 + α 1.1 + α 1.2 + α 1.2 + α 1.2 + α 1.3 + α 1.3 + α 1.4 + α 1.5 + α 1.7 +	(7, 1) (7, 8) (7, 2) (8, 2) (8, 2) (6, 3) (7, 2) 7, 3 (9, 0) (9, 4) (10, 0) (10, 2) (10, 2) (10, 9) (11, 0) 8, 3 8, 7 (10, 9)	A 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
土師器 S-15 種(例) 土師器	小田名 参照日本 小田田名 「「「「「「」」」 「「「」」 「」」 「」 「	種 ー ハラ ヘラ ー タイト ヘラ ー イト イチャ ヘラーイト	進物番号 R-001 R-002 R-002 R-024 R-025 R-026 R-027 R-028 R-028 R-031 R-031 R-032 R-033 R-035 R-040 R-041 R-041 R-041 R-043 R-043 R-043 R-044	図書号 Fix: 24-4 Fix: 24-6 Fix: 24-7 Fix: 24-2 Fix: 24-2 Fix: 24-2 Fix: 24-1 Fix: 24-2 Fix: 24-2 F	(14.4) (12.0) (13.4) (13.4)	$\begin{array}{c} 28 \% \\ 1.2 \\ 0.95 \\ 1.0 \\ 1.4 \\ 1.4 \\ -\alpha \\ 1.05 \\ 1.1 \\ 1.5 \\ 2.2 \\ +\alpha \\ 2.7 \\ -\alpha \\ 1.2 \\ -\alpha \\ 2.7 \\ -\alpha \\ 1.3 \\ -\alpha \\ 3.6 \\ -\alpha \\ 2.3 \\ -\alpha \\ 1.3 \\ -\alpha \\ 3.0 \\ -\alpha \\ 1.3 \\ -\alpha \\ 3.0 \\ -\alpha \\ 1.3 \\ -\alpha \\ 3.0 \\ $	(7. 1) (7. 8) (7. 2) (8. 2) (8. 2) (6. 3) (7. 2) (7. 3) (9. 0) (9. 0) (10. 0) (10. 2) (10. 2) (10. 9) (11. 0) 8. 3 8. 7	0 0 0	
土師器 S-15 種別 上師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土	小服在 多原本 小服在 小服在 小服在 小服在 小服在 小服在 小服在 小服在	種 ー ハラ ヘラ ー タイト ヘラ ー イト イチャ ヘラーイト	虚物番号 R-001 R-003 R-003 R-025 R-025 R-025 R-025 R-027 R-028 R-030 R-031 R-031 R-033 R-034 R-035 R-034 R-036 R-040 R-040 R-041 R-041 R-041 R-041 R-043 R-041 R-043 R-041 R-043 R-043 R-041	図書号 Fig. 24-3 Fig. 24-7 Fig. 24-7 Fig. 24-8 Fig. 24-9 Fig. 24-15 Fig. 24-15 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-18 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-21 Fig. 24-16 Fig. 24-17 Fig. 24-17 Fig. 24-18 Fig. 24-18 Fig. 24-19 Fig. 24-19 Fig. 24-11 Fig. 24-19 Fig. 24-11 Fig. 24-11	(14.4) (12.0) (12.0) (14.4) (14.4)	### 1.2 0.95 1.05 1.4 + α 1.4 + α 1.0 + α 1.25 1.1 + 5 2.2 + α 2.45 1.2 + α 2.7 + α 1.7 + α 1.3 + α 3.6 + α 2.3 + α 1.9 + α 1.9 + α 1.1 + α 1.2 + α 1.2 + α 1.2 + α 1.3 + α 1.3 + α 1.4 + α 1.5 + α 1.7 +	(7, 1) (7, 8) (7, 2) (8, 2) (8, 2) (6, 3) (7, 2) 7, 3 (9, 0) (9, 4) (10, 0) (10, 2) (10, 2) (10, 9) (11, 0) 8, 3 8, 7 (10, 9)	0 0 0	

5-30灰色粒	±					Eナデ B			
種別	. 25	種	遺物番号	因番号	口径	基高	底径	I A	T
土前器	- /h⊞a	41	R-001	Fig. 18-31					1
土師器	· //·Illa		R-002	Fig. 18-19	_			_	
上師器	小田 a	_	R-003	Fig. 18-18	_	_		_	_
土飾器	小型	_			-		_	_	
				Fig. 18-23	_			_	-
土師器	小道s		R-005	Fig. 18-15	(9, 0)	1.2	(6:8)	-0	
土邮器	小小面×		R-006	Fig. 18-6	(8, 4)	1.0	(6.2)	-	1
上新器	小田田	25.7	R-907	Fig. 18-25	(9.3)	1.05	(6.0)	. 0	
十新器	小面a		R-008	Fig. 18-17	(9:0)	1.0	(6.8)	_	-
土師器	小■a	_	R-009		_	_	_		+
	-	_	_	Fig. 18-9	(8.4)	0, 95	(6,4)		+
土飾器	小里a	-	R-010	Fig. 18-11	(8.6)		(7.0)	_	
主節器	小用a		8-011	Fig. 18-3	[7.8]	1.0	(5.7)	10	1
土箭器	受傷の	d 8	R-012	Fig. 18-46	(11.0)	2, 05	(8.3)	10	Т
土節器	小型a	-	R-020	Fig. 18-12	(8.8)	1.3	(6.6)		
土師器	小温a	1 K F	R-021	Fig. 18-4	(8.2)		(6, 6)	0	1
上師器	小里a	41	-		_	1.1			
		122	R-022	Fig. 18-10	(8.6)	0.85	(7.0)	-0	
土飾器	小温a	_	R-023	Fig. 18-14	(8, 85)	1.2	(6.6)	-	
土師器	小型a	4.83	R-024	Fig. 18-16	(9, 0)	1.25	(10.2)	-	
土箭器	小面。	4.4	R-032	Fig. 18-1	(7.8)	0.85	(5.8)	10	
土節器	小里a	-	R-043	Fig. 18-28	(9:4)	1, 25	(7.3)	-	1
士類器	小型a	4.5	R-044	Fig. 18-26	(9.3)	1.0	(7.4)	0	÷
			_		_			1.9	+
土師器	小胆a	25.7?		Fig. 18-13	(8, 8)	1.0	(7, 0)		
士師器	小胆a	1-77		Fig. 18-41	(10.0)	1.0	(7.9)	0.	
土師器	小田田	ヘラ?	R-047	Fig. 18-20	(9.1)	1.4	(7.0)		
土師器	小型の	4 1-7	R-048	Fig. 18-27	(9, 4)	1.2	(7.8)		T
土虾器	- 小型a	1.5	R-049	Fig. 18-21	(9, 2)	_	(7.5)	0	+
土新器	小道。	~5?		-		1.0		-	+
	+			Fig. 18-24	(9, 2)	1.1	(7.9)	10	£
土葬器	小트ョ	ヘラ	R-051	Fig. 18-44	(10, 6)	0.9	(8.8)	-	
土新器	小重a	-09	R-(62	Fig. 18-5	(8, 2)	1.2	(7.0)	0	T
士新盟	小皿a	105	R-053	Fig. 18-45	(11.0)	1.25	(8.8)	0	T
士師器	小型面		R-054	Fig. 18-43	(10.6)	1.3	(7.8)	0	t
土師器	小型a	1			_		-	100	F
			R-055	Fig. 18-39	(10.0)	1.1	(8, 0)	-	1
土師器	-0.8a	~7	R-056	Fig. 18-42	(10.4)	-1.3	(7.2)		
士前器	小小量a	3.4	R-057	Fig. 18-33	(9, 6)	1.0	(6.8)	000	13
土師器	小里。	ヘラ	R-058	Fig. 18-46	(10.0)	1.05	(7.2)		
士師器	小田a	ヘラ?	R-059	Fig. 18-37	(10.70)	1:1	(7.0).		18
士師器	中国a	3.5	R-060	Fig. 18-30	_	-			
		_			(9, 5)	0.9	(7. 7).	-	13
土師器	小面a	~5?	R-061	Fig. 18-38	(10.10)	1.2	(78)	-0	13
士師器	小面面	-f h-	R-062	Fig. 18-7	(8, 4)	1.2	(6, 2)	-	13
土師器	小型a	118	R-063	Fig. 18-34	(9. 6).	114	(8.2)	0	Г
土師袋	∮·≣a	0.5	R-064	Fig. 18-32	(9, 6)	1.0	(7, 4)		+
土師器	- Φ.H.a	ヘラ	R-065				_		-
		1.00		Fig. 18-36	(9.9)	1.3	(7.8)		(
土師器	of Ea	-	R-066	Fig. 18-29	(9, 4)	1.2	(6, 4)	0	
土節器	of the	127	R-067	Fig. 18-35.	(9.8)	1.3	(7.8)	0	
上節器	小雪。	-6 h	R-068	Fig. 18-22	9, 2	0.85	7.0	0	
土師器	小型a	35	R-069	Fig. 18-8	(8, 4)	1.4	(70)	.0	18
土新器	小型a	10.58	R-070	Fig. 18-2	(7, 8)	1.4	(5.7)	Ĕ	1
		-	-		(17:0)	-			
土新器	小量a	15	R-037	Fig. 18-47		1.2+ a		-	
土郵器	350	20.7	R-014	Fig. 18-61		2.0	(10.8)	0	X
土師智	5Fa	13	R-025	Fig. 18-50	(14.6)	2.7	(10.2)	0	16
十频器	ina.	-C.F.S.	R-026	Fig. 18-48	(13, 3)	-2.1	(9,0)	G.	X
士師題	#Fa		E-028	Fig. 18-59		1.85+ 0	_		
土師器	#Fig.		R-033					-	
		2.1		Fig. 18-58	1100 (01)	1.5+ n	110.0)	0	-
土節器	野a	44	R-035	Fig. 18-54	(15.9)	2.45	(11.6)		-
土斯器	桥面	-	R-041	Fig. 18-51	(14.8)	-2.4	(10.7)	-	
土師器	环虫	148	R-071	Fig. 18-56	(16.8).	2.5	(13.30)	a	
土師器	坏业	117	R-074	Fig. 18-52	(15, 4)	2.75	(8.5)	0	
上師器	if-a	0.7	R=075	Fig. 18-55		2.3		~	
					(16.0)	-	(12.0)		
土師器	-Fra	ヘラ	R-079	Fig. 18-57	(17.8)	2.6	(14.0)		
土新器	坪市	14.6	E-080	Fig. 18-49	(13, 4)	1.8	(9:8)	-	0
上節器	- JF-0	ヘラツ	R-082	Fig. 18-53	(15.8)	3.0+4	(12.0)		
土斯製	坏a	157	R-083	Fig. 18-63		2.0			
土節器	坏。		R-084	Fig. 18-62		2.0+a	(10.4)		10
		120					(10:8)		0
土節器	坏a	4.1	R-085	Fig. 18-60		1.5+a	(10, 4)	0	-
土師器	丸底环a	-	R-013	Fig. 18-69	(16.0)	2.65	(9, 4)	0	-
土師器	先底坏a	1	R-036	Fig. 18-66	(15.5)	3:0+a			
土新器	丸脏坏a	ヘラ	R-072	Fig. 18-71	(16.6)	2.3	(13.0)		
土新器	丸医环a	0.2	R-073				(10.7)		
		-		Fig. 18-70	(16.4)	3.2			
土物器	丸匠坏a	~5	R-076	Fig. 18-68	(16.0)	3.3	(11.6)		
土新器	丸底坏a		R-077	Fig. 18-64	(15.0)	2.4 + a	(11.5)		
土药器	丸底坏a	25	R-078	Fig. 18-67	(15.6)	$3.2 \pm \alpha$	(11.2)		
土節器	丸底坏。	-	X-081	Fig. 18-65	(15.2)	3.1 + a	(13.4)		
士師器	大量の		R-086	Fig. 19-75		2.9+a	1200 37		-
							2.0		0
	権c×小重c		R-08T	Fig. 19-72		$1.8 \pm a$	6.5		10
土師器	大権c	-	R-042.	Fig. 19-74		3.4+ a	(11.4)	0.	-
士師器	₩c.		R-090	Fig. 19-73		2.6+a	(8. 6)		
馬色土器B	小腕。		R-088	Fig. 19-76				-	
						15.5	4.4	-	
正题	FR:		R-089	Fig. 19-77		2.8+ a	(6.7)		
\$-55	器	種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	14.1	-
		~>						A	8
種別	小鹿。		R-001	Fig. 15-1	(9.3)	1.0	(7, 6)		0
種別 土師器		47	R-002	Fig. 15-2		1.0+'a	5.7		
種別 土何器 土何器	沙里a.		R-004	Fig. 15-3	(14.4)	2.1	(11.5)		
種別 土師器	Ha.		0.001					-	_
種別 土何器 土何器				Fig. 35-4		$3.8 \pm m$			
推引 土何器 土何器 土所器	Ha		R-003	Fig. 15-4		3.8+ m		_	-
種別 土師器 土師器 土師器 土師器	Ha			Fig. 15-4		3.8+ m		_	
種別 土師器 土師器 土師器 土師器	植	256	R-003						
種別 土師器 土師器 土師器 土師器 工師器	且a 権	種	R-003 運物番号	因書号	口径	器英	底径	A.	В
種別 土師器 土師器 土師器 土師器	植	種	R-003		口径 (8.0)		遊径 (7.0)	A.	В

S-61 種別	25	箱	遺物掛号	図番号	口径	25/6	底径	A	В
土新器	4-50	18	R-001	Fig. 14-34		1.5+a	(8, 0)		0
土餘器	小量の	41	R-003	Fig. 14-33		1.4± a		-07	
十部器	小量を	3.1	R-003	Fig. 14-32		1, 1+ 0	(6.3)		0
十餘器	th@a	17	R-005	Fig. 14-29	(7.5)	1.35	(6.0)		
	小豆。	3.1	R-006	Fig. 14-30	(8, 7)	1.5	(7,0)	0.	
土蘇器		9.5	R-008		(10.4)	1.0	(S8)	-	
上前器	小雪。	3.5		Fig. 14-31	(10.4)	2.2+ a	507-00		-
土飾器	拼k.	48	R-002	Fig. 14-38 Fig. 14-35		1,2+ a	(8.2)		
土師器	抄		R=007			1.3+ a		-	-
土師器	持a	16.3	8-009	Fig. 14-36			(8.4)	-	
士師器	Ma		R-010	Fig. 14-37		1.55 + a	(8.6)		
1灰茶色上			- none n	Different.		100.00	127 (19	-77.1	
種別	至	10.	適物番号	図番号	口径	超高	底怪	A	8
士節器	IFa.	4.k	8-001	Fig. 14-40		$1.1+\alpha$	(7.9)	0	V
10無灰色土								-	_
種別	器	種	遺物番号	図番号	口径	器高	题径	A	B
領密器	查3		R-008	Fig. 30-13.	(13.8)	1.5			
須恵器	査に		8-009	Fig. 30-12		$E3\pm n$			
須恵器	还有	0.72	R-007	Fig. 30-14	(13.0)	3.5	(9.2)		
領意器	Æe.		R-005	Fig. 30-18		$2.4 \pm \alpha$	(86)	0	-
須恵器	Fc.		R-006	Fig. 30-17		$1.4 \pm \alpha$	(12.2).		
流志器	Fig.	-	R-010	Fig. 30-15	(12.9)	3.3	(9.10)	0	
順惠器	1Fc	-	R-011	Fig. 30-16	(14.9)	3.4	(11.0)	0	
土鮮器	#Fig.	-	R-001	Fig. 30-21		1.8 + n		-	
士辞器	35-4	-	R=002:	Fig. 30-20		$1.8 \pm a$	(6.8)	-	-
土飾器	86c		R-004	Fig. 30-23		3.0+a	(10.8)	-	-
十部器	86c	1 -	R-013	Fig. 30-22		1.3+a	6.8	0	-
6色七春人	₩c.		E-003	Fig. 36-24		1.85± a		0	-
H.E. L. 98-1	180		E ovo	110000		1			
8-72									
新新 (1)	差	46	直物香号	면출목	日径	25.65	底径	3	8
THE P. P.		-	E-001		61796	1.6+a		02	- 0
工師器	环a	17+	8-001	Fig. 14-23		2.07.0	510.00	0.0	
5-76	-	-04	-0.7 n	raw o	- 57	長高	底径	A.	В
種別	25	種	遺物番号	国委号	口径		(E)	02	D
土频器	小里。	1 41	R-001	Fig. 14-24		1.25		98	
5-79									
種別	25	種	遺物委号	因番号	口径	器高	遊径	A	B
土质器	小量が	175	R-001	Fig. 14-26	7.1	9,95	5.5	0	0
土飾器	小量の	イト	R-002	Fig. 14-27	(8.7)	1, 2	(6, 8)	.07	-
土師器	75.0	4.5	R-003	Fig. 14-28		1.2	(8.2)	0	-
8-80東									
和91	25	推	遵物益号	因番号	口径	遊高	连径	A	B.
	14. order Street		R-002	Fig. 16-3		$3.3 \pm a$			
土飾器	克底环		_						
140.0	克胜纳								
140.0	克田外								8
上新器 5-83		额	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	. W.	
上訴器 5-83 種別	器	驗	-		口怪		底径	A O?	Ť
土飾器 を 1 年 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日	器権。	核	R-002	Fig. 14-42	四怪	器第 1.8+ a 2.35	嵌径		Ė
上訴器 5-83 種別	器	稚	-		口径	1.8+ a	嵌径		
上師器 S-83 種別 上師器 上師器	器権。	種	R-002	Fig. 14-42	口径	1.8+ a	底径		
上師器 5-83 種別 上師器 上師器	超 権c 坏a		R-002 R-003	Fig. 14-42 Fig. 14-41		1.8+ a 2.35		07	
上師器 5-83 種別 上師器 上師器 上師器 第0 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	器 権c 坏a	種種	R-002 R-003	Fig. 14-42 Fig. 14-41	口径	1.8+ 6	联径		В
上師器 5-83 種別 上師器 上師器	超 権c 坏a		R-002 R-003	Fig. 14-42 Fig. 14-41		1.8+ a 2.35	联径	07	
上師器 5-83 種別 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器	器 権c 坏a		R-002 R-003	Fig. 14-42 Fig. 14-41		1.8+ 6	联径	07	
上師器 S-83 種別 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 S-84 種別 土師器	器 権c 坏a 零	種	R-002 R-003 服物番号 R-001	Fig. 14-42 Fig. 14-41 図番号 Fig. 26-23	日径	1.8+ a 2.35 器高 1.2+ a	联任 5.6	A.	В
土師器 5-83 種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 5-84 種別 土師器 8-86 種別	器 検c - 坏a ・ 整 ・ 小産a	76 10	8-002 8-003 適物番号 8-001	Pig. 14-42 Fig. 14-41 図番号 Fig. 26-23		1.8+a 2.35 器高 1.2+a	底径 5.6	07	
上師器 S-83 種別 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 S-84 種別 土師器	器 権c 坏a 零	種	R-002 R-003 服物番号 R-001	Fig. 14-42 Fig. 14-41 図番号 Fig. 26-23	日径	1.8+ a 2.35 器高 1.2+ a	联任 5.6	A.	В
土師器 5-83 種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 5-84 種別 土師器 8-86 種別	器 検c - 坏a ・ 整 ・ 小産a	76 10	8-002 8-003 適物番号 8-001	Pig. 14-42 Fig. 14-41 図番号 Fig. 26-23	日径	1.8+a 2.35 器高 1.2+a	底径 5.6	A.	В
土師器 5-83 種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 5-84 種別 土師器 8-86 種別	器 検c - 坏a ・ 整 ・ 小産a	76 10	8-002 8-003 適物番号 8-001	Fig. 14-42 Fig. 14-41 図番号 Fig. 26-23 図番号 Fig. 28-62	口徑	1.8+ a 2.35 2.35 3.2+ a 2.4+ a	選径 5.6 - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	A A	В
上師器 5-83 種別 上師器 上師器 上師器 上師器 生師器 生師器 生師器 生師器 生師器 生師器 生師器 生	器 検c - 坏a ・ 整 ・ 小産a	76 10	8-002 8-003 適物番号 8-001	Pig. 14-42 Fig. 14-41 図番号 Fig. 26-23	日径	1.8+ a 2.35 器高 1.2+ a 器高 2.4+ a	底径 (11.5) 底径	A A	В
土師器 S-83 種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 大師器 ・84 種別 土師器 ・85 ・84 種別 土師器 ・85 ・85 種別 土師器	器 箱c 坏a 彩度a 小度a	種 4.5?	8-002 8-003 撤物番号 8-001 撤物番号 R-003	Fig. 14-42 Fig. 14-41 図番号 Fig. 26-23 図番号 Fig. 28-62	口徑	1.8+ a 2.35 2.35 3.2+ a 2.4+ a	選径 5.6 - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	A A	В

			E-100									
高 底径	A	В	種別	老	種	遺物番号	図番号	口径	器高	住径	- A.	В
+ a (8, 0)		0	土節器	фШв	4.67	R-001	Fig. 14:45	(8, 4)	0:95	(6.4)		
± a	07											
+ a (6.3)		0	S-103									
35 (6.0)			種別	器	植	遺物番号	図番号	口径	医高	底径	A	В
	O.		土祭器	třa.	11	R-001	Fig. 14-46		1.4+0		0	10
. 0 (S.8)		101										
+ a			S-104		***	man or to 1	120 (8.12	CT 57	me.	高程	4	В
+ a (8.2)			種別	吞	種	遺物番号	因番号	口径	器高	総任		D
+ a (8.4)			土新器	能		R-001	Fig. 30-1		Z. 6+ a			
5+ a (8.6)			0.000									
			S-108	- 25	補	適物番号	因番号	口径	芸喜	此径	4	B
高原経	Ä	В	十部器	vivilla.	1-7-	R-002	Fig. 27-54	(8:0)	1.0	(5.9)	G	C
	-		土師器	小量。	-1.10	R-003	Fig. 27-55	(10.0)	1.35	(7.9)	0	-
+ a (7.9)	0	0	土師器	小里。	0.7	R-004	Fig. 27-53	(7.6)	0.95	(5.8)	0	
			1,0055	11:55		6.004	a agreed and	23.40		100.00		_
高一統任	A	В	5-114									
FM ESTE	-	D	種別	器	AL .	遺物委号	図番号	口径	器高	底径	A	- 8
+ 10			上前報	小量a		R-001	Fig. 14:47	(9.8)	1.25	(8.7)	-	
5 (9.2)			7.00/16	7-24			2000					
	0		5-116									
+ a (12.2)	-		種別	- 85	椎	遺物番号	回番号	口径	25.6	直径	A	- 8
3 (9.0)	0		土新君	4-Ea	1-17	K-001	Fig. 14-48	9.0	1.0	5, 85	0	C
4 (11.0)	a.		土新器	35a	439	R-002	Fig. 14-49	-	1.2+ a	(8:0)	-0	-
+ n	_		土新器	野鱼		8-003	Fig. 14-51	(13.8)	2.6	(10.2)	0:	Е
+ n (6.8)	_		十新器	if-a	ヘラ	R-004	Frg. 14-50	-	1:7	(11.6)	-0-	
+ a (10.8)		-										
+ a 6.8	0	-	灰褐色土									
+ a (9.0)			種別	29	種	遺物香号	図番号	口径	器施	聚長	- %-	. 1
			液电器	350	10.72	R-006	Fig. 30-4		1.5÷ a	(8.4)	07	-
			土飾器	IFa -	-	R-004	Fig. 30-5		$1.5 \pm \alpha$	6.3	0	1
高 直径	3.	8	土箭器	施。	1.05	R-001	Fig. 30-7.		$2.65 \pm \alpha$	(8.2)	-	
+.a (10.6)	07		土篩器	施。	1	R-002	Fig. 30-8		$2.5 \pm \alpha$	8.6	0	-
			士師器	环点	-	R-003	Fig. 30-9		$3.85 \pm a$	(10.5)	03	
			上新器	押付旦	- 1	R-007	Fiz. 30-6.	(11.8)	(1:3)	(9.4)	-	L
高 底径	A	В										
	A. 0?	В	黄茶色土									
-			種別	差	板	遺物委号	因委号	口径	雲英	遊径	A	-
			種別 士節器	・小田。	植	R-001	Fig. 26-16	(7.8)	Tat	(6, 8)	0	C
三 直径	O?	В	種別 土節器 土節器	小里a 小里a		R-001 R-003	Fig. 26-16 Fig. 26-15	(7, 8) (6, 8)	1.15		0	C
25 漢 遊径 第 3.5	Q?		種別 土節器 土節器 土節器	小皿a 小皿a 坏a	4%	R-001 R-003 R-002	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18	(7, \$) (6, 8)	1.15 (2.5)	(6, 8)	0	C
五 第 直径 95 5.5 .2 (6.8)	0? A O:	В	強別 土節器 土節器 土節器 土節器	小皿a 小皿a 坏a 坏a		R-001 R-003 R-002 R-006	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-17	(7, \$) (6, 8)	1.15 (2.5) 1.4+n	(6, 8)	0	-0
五 第 直径 95 5.5 .2 (6.8)	Q?	В	種別 土節器 土節器 土節器	小皿a 小皿a 坏a	4%	R-001 R-003 R-002	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18	(7, \$) (6, 8)	1.15 (2.5)	(6, 8)	0	C
25 第 遊径 95 5.5 .2 (6.8)	0? A O:	В	種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 東色土器A	小皿a 小皿a 坏a 坏a	4%	R-001 R-003 R-002 R-006	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-17	(7, \$) (6, 8)	1.15 (2.5) 1.4+n	(6, 8)	0	-0
25 金径 95 3.5 .2 (6.8) .2 (8.2)	0? A D O? O	B 0	機別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 馬色土姜A	小皿a 小皿a 坏a 坏a 杯a	4 h	R-001 R-003 R-002 R-006 R-004	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-17 Fig. 26-19	(7, \$) (6, \$)	1.4 1.15 (2.5) 1.4+n 2.8+n	(6, 8) (5, 0) 6, 05	0.0	-5
25	0? A O:	В	種別土的器土的器工工的器工工的器工工的器工工的器工工的器工工的器工工的器工工程从基本工程和工程和工程和工程和工程和工程的工程和工程和工程和工程和工程和工程和工程和工程和工程和工程和工程和工程和工程和工	小皿s 小皿s 坏a 坏a 杯a	イトーー・ヘラ	〒-001 〒-003 〒-002 〒-006 〒-004	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-17 Fig. 26-19	(7, 8)	1.4 1.15 (2.5) 1.4+a 2.8+a	(6,8) (5,0) (6,65	0.0	->
25 第 章径 第 5 5 .2 (6.8) .2 (8.2)	0? A D O? O	B 0	種別 上前器 上前器 上前器 上前器 上前器 上前器 上前器 上前器 上前器 馬色上端 人 斯色上端 人 斯色上端 人 斯色上端 人 斯色土 種別!	小皿s 小皿s 坏a 坏a 板 格 多	イトー・ヘラ	第-001 第-003 第-002 第-006 第-004	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-17 Fig. 26-19 図番号 Fig. 31-1	(7. \$) (6. \$) - - 口径 (7. 2)	1.4 1.15 (2.5) 1.4+a 2.8+a 器奏 1.2	(6, 8) (5, 0) 6. 65	0 0	- 5
25 第 章径 第 5 5 .2 (6.8) .2 (8.2)	0? A D O? O	B 0	種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 馬色土端A 系色土 種別 土師器	小皿a 小皿a 坏a 坏a 板 格 小皿a 小皿a	権イトイト	第-001 第-003 第-002 第-006 第-004 適物委号 第-001 第-005	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-17 Fig. 26-19 回番号 Fig. 31-1 Fig. 31-4	(7, 8)	1.1 1.15 (2.5) 1.4+a 2.8+a 3.8 1.2 1.1	(6,8) (5,0) 6.05 底径 (5,0) (5,8)	0 0	
25 旅径 第6 章章 章章 1.2 (6.8) 1.2 (8.2)	0? 0 0? 0	B O -	種別 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 用色上部 本色上 種別 上師器 上師器	小皿a 小皿a 坏a 坏a 核 格 小皿a 小皿a 小皿a	イトー・ヘラ	R-001 R-003 R-002 R-006 R-004 連物番号 R-001 R-005 R-006	Eig, 26-16 Fig, 26-15 Fig, 26-18 Fig, 26-17 Fig, 26-19 図書号 Fig, 31-1 Fig, 31-4 Fig, 31-5	(7. 8) (6. 8) - - 日後 (7. 2) (7. 8)	1.1 1.15 (2.5) 1.4+ a 2.8+ a 5.2 1.2 1.1 0.95+ a	(6,8) (5,0) 6.65 底径 (5,0) (5,8) (6,4)	0 0 0	1
25 変接 95 3.5 ,2 (6.8) ,2 (8.2) 計画 底径 十 α	A O O?	B 0	種別土師器土師器土師器用色土部科斯色土部科斯 基色土部 種別土部科斯 基金土部科斯 基金土 華爾 医土部科斯 基本	小里a 小里a 坏a 坏a 校 卷 小里a 小里a 小里a	権イトイト	R-001 R-003 R-002 R-006 R-004 連物番号 R-001 R-005 R-006 R-008	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-17 Fig. 26-19 図番号 Fig. 31-1 Fig. 31-4 Fig. 31-5 Fig. 31-2	(7. §) (6. §) (6. §) (7. 2) (7. 8)	1.4 1.15 (2.5) 1.4+α 2.8+α 2.8+α 1.2 1.1 0.95+α 1.2	(6,8) (5,0) 6.65 (5,0) (5,8) (6,4) (5,8)	0 0	1 0
25 高 遊径 95 55 .2 (6.8) .2 (8.2) 高 昨径 十 a	0? 0 0? 0	B O -	種別 土師器 土師器 土師器 用色土器A 系色土 種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	小園a 小園a 炸a 炸a 炸a 槟 粉 水園a 小園a 小園a 小園a	イトークライトイトイトーー	第-001 E-003 R-002 R-006 R-004 遺物番号 R-001 R-005 R-006 R-008 R-009	Eig, 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-17 Fig. 26-19 图番号 Fig. 31-1 Fig. 31-4 Fig. 31-5 Fig. 31-2 Fig. 31-3	(7. 8) (6. 8) - - 日後 (7. 2) (7. 8)	1.4 1.15 (2.5) 1.4+a 2.8+a 1.2 1.1 0.95+a 1.2	(6,8) (5,0) 6.65 (5,0) (5,8) (6,4) (6,4)	4 0 0 0	100
25 編 遊径 95 え5 ,2 (6.8) ,2 (8.2) 十 a 総径 十 a	A O O?	B O -	機別 上前四 上前四 上前四 上前四 上前四 上前四 上前四 上前四 上前四 上前四	小量a 小量a 坏a 坏a 校 检 不是a 小量a 小量a 小量a 小量a	権イトイト	R-001 R-003 R-002 R-006 R-004 建物番号 R-001 R-006 R-008 R-008 R-009 R-007	Eig, 26-16 Fig, 26-15 Fig, 26-18 Fig, 26-17 Fig, 26-19 図書号 Fig, 31-1 Fig, 31-4 Fig, 31-3 Fig, 31-2 Fig, 31-3 Fig, 31-3 Fig, 31-3	(7. §) (6. §) (6. §) (7. 2) (7. 8)	1.1 1.15 (2.5) 1.4+a 2.8+a 基系 1.2 1.1 0.95+a 1.2 0.8+a	(6,8) (5,0) 6.85 (5,0) (5,8) (6,4) (5,8) (6,4) (8,4)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1 (
25 編 遊径 95 え5 ,2 (6.8) ,2 (8.2) 十 a 総径 十 a	A O O?	B O -	種別 上師器 上師器 上師器 馬色土義A 基色土 種別 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器	小里a 小里a 坏a 坏a 板 卷 小里a 小里a 小里a 小里a 水面a 杯a	イトークライトイトイトーー	R-001 R-003 R-002 R-006 R-004 適物番号 R-001 R-005 R-006 R-006 R-009 R-007 R-010	Eig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-19 Fig. 31-1 Fig. 31-1 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-3 Fig. 31-10 Fig. 31-9	(7, 8) (6, 8) (7, 2) (7, 2) (7, 4) (7, 4)	1.4 1.15 (2.5) 1.4+a 2.8+a 2.8+a 1.2 1.1 0.95+a 1.2 0.8+a 1.1	(6,8) (5,0) 6.85 (5,0) (5,8) (6,4) (5,8) (6,4) (8,4) (7,8)	0 - 0 0 0 0 0	
25 26 26 27 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28	A O O?	B O B	種別 土師器 土師器 土師器 土師器 馬色土蓋A 基色土 種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	小皿a 小皿a 坏a 坏a 坏a 板 一型a 小皿a 小皿a 小皿a 小皿a 小皿a 坏a 环a 环a 环a	権イトイト	原-001 R-003 R-002 R-004 R-004 連物番号 R-001 R-006 R-006 R-008 R-009 R-011	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-17 Fig. 26-19 回番号 Fig. 31-1 Fig. 31-4 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-3 Fig. 3	(7, 8) (6, 8) 	1.1 1.15 (2.5) 1.4+α 2.8+α 1.2 1.1 0.95+α 1.2 1.2 1.1 0.8+α 1.2	(6, 8) (5, 0) (5, 0) (5, 8) (6, 4) (5, 8) (6, 4) (7, 8) (8, 2)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1 0
25 (95 ま5 1,2 (6.8) 1,2 (8.2) (8.2) (8.2) (8.2) (8.3) (8.2) (8.3)	A O O?	B O -	健別 土師器 土師器 土師器 馬色土蓋A 系色土 維別 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器 上師器	小田a 小田a 坏a 坏a 杯a 杯 种 一型a 小田a 小田a 小田a 杯 杯 本 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a ス ム ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス	権イトイトイト	原-961 R-903 R-902 R-905 R-905 R-905 R-905 R-906 R-908 R-908 R-907 R-911 R-911	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-17 Fig. 26-17 Fig. 26-19 图書号 Fig. 31-1 Fig. 31-4 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-3 Fig. 31-4 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-9 Fig. 3	(7. 8) (6. 8) (6. 8) (7. 2) (7. 8) (7. 4) (7. 4) (7. 8)	1.4 1.15 (2.5) 1.4+a 2.8+a 透療 1.2 1.1 0.95+a 1.2 4.2 0.8+a 1.1 2.2 4.2 1.65	(6, 8) (5, 0) 	0 0 0 0 0 0 0 0 0	3
25 26 26 27 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28	A O O?	B O B	種別 土師器 土師器 土師器 土師器 馬色土蓋A 基色土 種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	小皿a 小皿a 坏a 坏a 坏a 板 一型a 小皿a 小皿a 小皿a 小皿a 小皿a 坏a 环a 环a 环a	権イトイト	原-001 R-003 R-002 R-004 R-004 連物番号 R-001 R-006 R-006 R-008 R-009 R-011	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-18 Fig. 26-17 Fig. 26-19 回番号 Fig. 31-1 Fig. 31-4 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-3 Fig. 3	(7, 8) (6, 8) 	1.1 1.15 (2.5) 1.4+α 2.8+α 1.2 1.1 0.95+α 1.2 1.2 1.1 0.8+α 1.2	(6, 8) (5, 0) (5, 0) (5, 8) (6, 4) (5, 8) (6, 4) (7, 8) (8, 2)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	3
25 (95 ま5 1,2 (6.8) 1,2 (8.2) (8.2) (8.2) (8.2) (8.3) (8.2) (8.3)	A O O?	B O B	種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 工師器 工師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土	小田a 小田a 坏a 坏a 杯a 杯 种 一型a 小田a 小田a 小田a 杯 杯 本 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a ス ム ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス	権イトイトイト	原-961 R-903 R-902 R-905 R-905 R-905 R-905 R-906 R-908 R-908 R-907 R-911 R-911	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-17 Fig. 26-17 Fig. 26-19 图書号 Fig. 31-1 Fig. 31-4 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-3 Fig. 31-4 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-9 Fig. 3	(7. 8) (6. 8) (6. 8) (7. 2) (7. 8) (7. 4) (7. 4) (7. 8)	1.4 1.15 (2.5) 1.4+a 2.8+a 透療 1.2 1.1 0.95+a 1.2 4.2 0.8+a 1.1 2.2 4.2 1.65	(6, 8) (5, 0) 	0 0 0 0 0 0 0 0 0	3
高 遊径 95 京市 2 (6.8) 2 (8.2) 高 遊径 + a 35	A 0 0?	B	健別 土師器 土師器 土師器 土師器 馬色土器A 系色土 地別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器	小里名 小里名 坏名 校 一个里名 小里名 小里名 小里名 小里名 小里名 怀名	オトーー・ベラー・イト・イト・イト・イト・イト・イト・イト・イト・イト・イト・イト・イト・イト・	R-001 R-003 R-002 R-004 R-004 R-004 R-001 R-005 R-008 R-008 R-009 R-007 R-011 R-011 R-012 R-015	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-17 Fig. 26-17 Fig. 26-19 图書号 Fig. 31-1 Fig. 31-1 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-10 Fig. 31-1 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-5 Fig. 31-6 Fig. 31-7	(7.8) (6.8) (6.8) (7.2) (7.8) (7.4) (7.8) (12.2) (12.0) (12.2)	1.4 1.15 (2.5) 1.4+α 2.8+α 2.8+α 1.2 1.1 0.95+α 4.2 1.2 1.2 1.4 0.8+α 1.1 2.5 1.6 5 2.5 1.6 5 2.5 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6	(6, 8) (5, 0) (5, 0) (5, 8) (6, 4) (5, 8) (6, 4) (7, 8) (8, 2) (8, 6) (8, 2)	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	3
25 26 27 27 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28	A O O?	B O B	種別 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 工師器 工師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土	小田a 小田a 坏a 坏a 杯a 杯 种 一型a 小田a 小田a 小田a 杯 杯 本 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a 木 小田a ス ム ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス	権イトイトイト	原-961 R-903 R-902 R-905 R-905 R-905 R-905 R-906 R-908 R-908 R-907 R-911 R-911	Fig. 26-16 Fig. 26-15 Fig. 26-17 Fig. 26-17 Fig. 26-19 图書号 Fig. 31-1 Fig. 31-4 Fig. 31-2 Fig. 31-2 Fig. 31-3 Fig. 31-4 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-8 Fig. 31-9 Fig. 3	(7. 8) (6. 8) (6. 8) (7. 2) (7. 8) (7. 4) (7. 4) (7. 8)	1.4 1.15 (2.5) 1.4+a 2.8+a 透療 1.2 1.1 0.95+a 1.2 4.2 0.8+a 1.1 2.2 4.2 1.65	(6, 8) (5, 0) 	0 0 0 0 0 0 0 0 0	2 0

			-	- 100 - 1				1: 麻樟	F.						- 12 15 (A)		_			
	格子の太きさ(艇×横)	調目	A 11	格子		B: 凝長斜格子			C:積長損格分						11:二重格子					
宣標番号	700			1.1~1.4×	1. 0EFF =	1.1~1.4×	1.52(Ex	8	b	0	D:斜格子+異方	E:アミダ状	F: 凹刻格子	1.74	Carrie Const.		格子分類不明	科膜	無文.	d.mail
1b			1. 0 × 0. 9 £4 F	1.0~1.4	0.9EF	1.0~1.4	1. SEL E	0.9以下	0.6~0.9× 1.0~1.4	1.0以上× 1.5以上	伯斯柳	格子	1.2 同间操作	A:正格子	B: 艇長斜格子	C: 横段斜格子	IN.	6-7 891	不明瞭	- E06
le le	K6 20100603							10001	110 119	T-48k-T										
	1.7 20100603							16.8	135.0										13.3	
相美色十	K7 20100609	200							3070								28.1		236, 4	
2灰褐色土		253.0	62, 5	-					443.4	43.7									24.9	
107 MIN T.		100				523.0		11.9	176.0	447.4						29, 2			1702.7	
	K11 20100621 J11 20100630	465. 8	173.8			49.5		526.3	244. 8	96.0							39, 2		1137, 0	
		236. 2	25. 3	96.1				2280.9	58.0	310.0							67.4		1842.0	軒平940.7
灰色士	K11 20100630 I10 20100621	372.7							206.3			45, 8			-					新丸127.5·
AND EDILL		Two n										30.5							1025. 8	
	J10 20100430 K10 20100506	368, 1						25.5									23, 2		260.1	
	K9 20100506																		195.3	
	K8 20100506									24.6									60.6	
	J8 20100511								168.8	-									48, 5	
	K7 20100511																		37.4	
	K8 20100511							29.0					-						25. 6	
	D6 20100528	09.0	10000																215.8	
	中段南 20100416	83, 2	287.3					360.2	214.6	-			Mr. ac						25.0	
	E6 20100528							200, 0					29.8						1553. 4	
	D8 20100524																		302.2	
7.	K8 20100511								88, 5										542.5	
	K5 20100514																		71.1	
	K5 20100607		87.7					75.2	206. 7										22.7	
OSWELL.	L5 20100607	_																	101.6	鬼瓦459.2
	L5 20100514							47.8											393. 2	
	J7 20100514																		13.4	
	K9 20100514																		102.2	
	K10 20100514																42.9		17.6	
	K5 20100514																		27.4	
	J13 20100430	207.2	00.0			69.0		18. 4	44.2										52.0	
	113 20100511	8011.6	.99. 2		53.7			64.6	127. 9	355.7			16.0						321.7	
	C3 20100520	164.8											10.0				90.4		1890, 4	
	C3 20100520	20, 5		_															17. 2	
	G4 20100521	157.7		_																
	G4 20100521	Tok-V		-					199.0											
	K3. 4 20100623	487.4	1569, 8	100.0	-			84.0											107.2	
	L3 20100513	246. 4	387. 4	490, 8	239.0	1050_2		2612, 2	3167. 4	4488, 1	29.1	141, 8				100.0				
	K4 20100624	477.4	794.1	291, 0 97, 2	63. 2	71,1		249. 5	1329.4	1232. 2						178. 0		236, 7	13806. 6	軒丸983.3 軒平47
	K3 20100513	479.7	179. 7	91,2	544. 6	2886. 4		2871.5	1361.8	1171.1			173.4			34.4	128.3	82.9	3555, 7	
	L4 20100517	632.0	252.5		275, 8	475, 8		1501.5	727, 1	1578.8			227.4			78.2	187. 2		7734.8	
	K3 20100512	275.0	292.9		40.7	108, 5		355. 5	312.9	504.9	112.3		95. 2				243. 9		3425. 5	
	K3 20100609	274, 2	233.5		40.7	.35. 7		206.4	518.9	525. 2	730, 9	85, 6	7				81.3		2454.6	
	K3 20100518	288.7	128, 8	90.6		292.7		620, 7	478.4	596. 7				126.3				000 0	1985, 5	
	13 20100623		87. 8	90.0	51.6	140.1		805.7	996. 6	419.7								223, 2	3307, 9	And a second
	1.4 20100513	268.5	230, 1		51.6	146.1		794.1	324. 9	700. 2							263, 3			軒丸159.0
	K3 20100517	639.7	762. 2	17.7	297, 0	201.0	10000	738. 9	1020.6	583. 2										軒平68.5
	14 . 20100623	-	1.04		2011.0	721.0	150.9	2256, 4	3047, 1	3562, 8		141.2	156.3			55.8	231.9	200 7	3015.9	AT ALCOHA
	KL4 20100617	1791.8	2636.0	783. 4	357. 4	56, 4 5806, 1		-	72. 7							558	135, 6	398.7		軒丸801.3
灰色土 1	13 20100518	42.5	35, 5	1700. 9	81.4			6450.5	10436, 8	15752.0	294.6	91.0	572.9	512.7	144.9	346, 5	620.5	99.9	387,1	Accessor and the second
	13 20100528		178.6		81. 4	177. 7		254.1	347. 9	308.0					244.9	85.0	020, 5	37.3		軒平256,5 軒丸25
1	3 20100526		161.6							525. 2						-05, U	0 C E		1862, 1	
灰色土し	4 20100518	10.3	101(0)	26.0		86, 9			120:-4	747.2							64.5		332, 5	
	4 20100517	141.4	102, 8	-80-7				129. 7	87.2	12, 2								-	511.7	
	4 20100518	489.7	331.8	90.7	94.8	Egn u		201. 9	626.7	294.6							112.4	102.4	1390.7	
-	4 20100706		486.2	75.0		562.9		311.4	635. 8	259.5			69.2					127. 4	1429.7	
	5 20100706		310.6	-64/40	116.1	432.5		542.0	565. 0	2216.5			614.3	133.6		36.3		125.3	4139.0	
	4 20100517		540.0					18.3	11.5	514, 9						30. 4	486, 3	280. 3		軒平303.2
	7 20100517		52.2			100.0													387. 2	
-			-00.0			162.6		11.5	63: 0	425.0			100, 8						1474.5	

		-	A: IE	客子		B:艇長斜格子		C	: 横長斜格子		n . At 44 2 . W +-	E: アミダ状	The state of				類不明	解練	無文・	その他
網番号	格子の大きさ(健区横) ラベル	湖目	п	b	а	ь	į.	а	Ъ	0	的線	格子	F: 回刻格子	A:正格子	B:縦長斜格子	C: 概長科格子	IDE	2.746	不明瞭	
) 新褐色土	14 20100528	13.9						67.8	110.7										118.0	AT WAS A
St. 144 C. L.	J3 20100512	642.0	10.2	168.7	134.7	26.1		407-7	208. 6	438.3	33.9		219.8		677. 3		50. 3			♦ ∓ ∓45. 6
	JS 20100514	-	60.1					62.3		341.2						13.7	282.7		941.2	
	J2 20100601					91.1			37.8								179, 2		409.2	
	13 20100707									1									68,6	
6色士	J4 20100514	69.2	138.7		26.6		121.0		12.6	241: 6								36.2	823.0	
W C. A.	J4 20100512	25.8	37. 0.	145.1		272.4		181.4	478.3	481.4	-						302, 5		2029. 3	
	K4 20100514	150. 4																	1430.5	
	J4 20100517	455.7	285, 6		27.4	88.5		209.6	78.8	276. 7						23.6	31.5		1000	
	K5. 20100514																		113.4	
客色粒十	L7 20100513	462.7	341.2		119, 1	579.8		320.6	461, 5	786.5			157.2			33, 6	481.6	111.9		
No In the T	L4 20100513	-															4836.8			
生银色的	J3 20100512	260.1	953.8	158.1		291.5		393. 5	857-1	350. 2							303.7		5771. 1	-
in led to a	J3 20100518	124.2	59.9	35.3	235. 5	55.4	136.2	76.5	488, 2	56.2		208.2					-		890.0	
	G4 20100521	34.6						103.3												
2	E5 20100528							552.1	199.3										532, 6	
	F3. 4 20100528					185. 1		110.4	146.1	98.1			42. 3						572.8	
	G3 20100624	124.0				23.3		340.9											263, 9	
	F5 20100702	98.4						36.5											125. 1	
18.8:76.4	F5 20100617	99.7	152.1					580.0	364.1	114.9			76, 2						3985, 9	
STATE CO.	F5 20100624	291, 8	43. 5					845.0	746.6								175.7		1374. 2	
	E7 20100617	451,0	54.0					284.5	50.7										492.7	
	F6 20100624								34.0	94.7									353.2	
own to do I	E6 20100608		121. 2					557.3	32.5	183, 8									1391.5	
20年8年21	F5 20100528	360. 4	76.0					536.2											744.7	
		300. 4	10.0					211.2	106.3								28.5		237, 7	
	F6 20100531	-						27112		28.7									464.3	軒平363.0
	F6 20100528																		38.3	
comment to 1	FS 20100601	107.5							397, 9										1045. L	
	C6 20100528	1075	1000.0		47.4	938.0		3445, 6	8978.7	12373. 8			547.4	65.1			580.8		17986. 4	軒平304.7 軒:
5	H3 20100526	169. 7	1080.9		67. 4	450. 2		312. 8	165. 7	119.2							123.7		776.5	
	G3 20100526		53.1	-		1100. 2		205.4	300.0	305.7										
	H3 20100602	25. 7	272_4 105. I		122.2			21.2		391.0									893.0	
	H3 20100528		100.1		166-6	287. 0		61.6		274.3									650.3	
	G3 20100528	56.5				40-0.0		54. 5		20141.0										
	13 20100609	- ALC - ALC -						40.8	93.2					-					504 B	
36	K6 20100601	62.2		_				90.3	23. 9	59. 6									130.1	
	K5 20100601		_		-			20.0	54.7	85, 4	-								24.3	
	K6 20100602		36.9					56.0	179. 4	50, 3									46.7	
CAR DO NO. 1	K7 20100601	turi ri	30.9	_		37.0		354.8	571.9								102.0		829.3	
7条厌色士	E10 20100603	149.9	105.4	_		37. 0		327.5	3(2.3										203.7	
	E7 20100603	362.8	135.4	-				951-9			_								16.8	
	E9 20100603	40 h	71.7		-	137.3		174.3	60. 9										247.0	
	F11 20100609	300.4	71.5			131. 3		114-3	230, 0								70, 6		1009.5	
	E8 20100603	48. 7			-		-	-	200,0						91.9				744. 4	
	G11 20100609	132.0					-	-	122.5						1				1044.5	
	H12 20100609				-		-	18, 4	1.66, 17										211.2	
	D9 20100608	07.5	-		-			258. 9											485, 0	
	F8 20100603	65.5						159.6											96.8	
	D9 20100603	No. C	Total C					1097.0	250.0								112, 1		1054.9	
7周茶色土	F11 20100630	235, 9	63.1		-			1	42.2	143.6		1							678.0	
	E7 20100623	459. 9	154.1		-	-		70.7	220.3	130, 8			1						611.4	
	F11 20100630	112.8	113.1					70.3	103.1	150.8						7.7. 8			1293.2	
	ES 20100624	198.2			-	116.5	-	223. 4	355. 9	116 4		-	1			77.0			834.0	
	E9 20100624	45. 5				116.7		201 -		116. 4					-	1			730. 3	
	E7 20100624	131.3	68.3					66.1	88.2	84. 6	-	-			1				115.1	
	E10 20100624							1		0.4	1		1		1	+			241.3	
	F11 20100702	71.7						- ma -		94.1	-	-				1			401.9	
	E8 20100617							79.8	200.0	700	-	+	-			-	1		864. 2	
	E9 20100617	254.3	110.9				-	26.5	204. 8	369.1	+	-							333.5	
	E7 20100624		59. 5						31.6	000	-	1		1		1			416, 2	
	E7 20100623							27. 0	35. 5	25. 2		1	-	1	-		1	1	264.4	
	E7 20100617					12.1						1		-	-	+	+	+	76.2	
	E8 20100623	361. 4				17.7												1	10.2	

-65-

			ATTE	6格子		EI群長斜格子		1; 単格:							Ⅱ:二重格子					
資構委号	格子の大きさ(縦×橋) ラベル	神田	ii.	b	А	ь	ic.	п	· 模長斜格子	ò	D: 斜格子 異方 向線	E:アミダ状 格子	F: 凹刻格子	A:正格子	B-联投斜格子	C: 模長斜格子	格子分 類不明 験	斜線	無文· 不明瞭	その他
38	L9 20100603																1 11			
39	H7 20100603																		184, 9	
1	H6 20100603																	-	18.7	
2	K6 20100603							98.5		17.2									80.3	
3	K6 20100603									19.6				-					152.0	
6	K6 20100607																		23.0	
	L8 20100603																		43.3	
8	L7 20100603 D4 20100607	44.0																	82.2	
9	B4 20100607	46.8								1.									296, 4	
1	B4 20100607							247. 5											22. 7	
1	C4 20100607																		45, 5	
	B3 20100607																		6.6	
	H9 20100623	172.0	252. 9			381.5													12.8	
	H9 20100608	65.0	513. 1					198.5	221, 4	-									890.5	
	L8 20100607	20.5	010.1		369.6	115.1		266. 2	454.7								377.0			年 完.93、4
	L8.9 20100607	50.0			3002.0	65, 9		71.7	1000	30.8									601.5	
	K10 20100607	306.1				47.7		47.7	203. 9										780.1	
灰茶色土	J10 20100607					40.7		598, 4	10.1										1485.9	
	L6 20100607							36.6	46.7	233.4				-					229.6	
	L6 20100607							67. 6	135.4	233.4			88, 3						396, 3	
	1.6 20100607							- 01. 0	130.4										56.7	
	K7 20100607																		61-2	
	K6 20100607																		12.8	
	1.7 20100607	31.7																	77.9	
)	L7 20100607							29.2										_	83, 1	
無灰色士	G12 20100706	647, 4																-	67.3	
	G12 20100702	113, 7	191.1					231.4	488.0										773. 5	-
	G11 20100706	203.4																	1199. 6	
	LS 20100607 GH11 20100608								20.6										75. 4	
	L8 20100608	_																	80.2	
	E6. 7 20100706	703.9	169.8		10.0	_													90.6	
	L9 20100608	103.3	103, 8		13.9				549.6	312.3							435. 2	69.3		軒丸350.9
	L10 20100608					-			128. 1										257.0	TEXANDE S
	L10 20100608	304.3	267, 9			41.7		10 × 1											144.8	
	K10 20100608	191.2				41.7		211.1	147. 8								235.5	14.8	1535.4	
	L3 20100706								36, 3										53,5	
	K3 20100706							58, 4	278. 4 144. 8	_									429.3	
東	L3 20100706					31.2		30, 4	563. 7	151.9			201.0							
	K3 20100706		146.5						123.8	82.0			294. 8				158.6			等 产丸193、4
	K10 20100608								120.0	06.0			7147 4						1139, 1	
	K9 20100608												26.4						24.1	
	K8 20100624							278.8											24.9	
	K8 20100608																-	-	222.8	
	F11 20100630	1218.2	244.3					728.0	321.4	309.6							nan e	-	118.1	**************************************
	113 20100630	299, 6	95. 3		64. 9			68. 3		127. 1							262. 6			軒平86.2
- 1	GH12 20100617	614.5						319. 7	44.2	658. 2								-	1458. 4	
	F11 20100702	217. 6				18.3		372.0	128.3								175.5		275. 0	40 W 10 1 m
	GH12 20100608 E10 20100609	184.3	01.0			103.8		759. 9	273.6								110.0		339. 4 885. 7	軒平421.3
	D6 20100608	136, 0	94.3			100.5		81.5	25, 3	37.3								-	596, 8	
	09 20100609	145.5						78.5	200. 9										1342.3	
	08 20100701	140.0	149.0					W											1298. 5	
	07 20100701	124.7	140.0					75.3		44.2									1127.6	
	07 20100608	12411	33, 0				-	74.8									159.6		536. 9	
	14 20100608		097, 0																97.4	
	J11 20100609	189. 2						200.2	.950.6	61.0									123. 9	
	11 20100609	375. 0	196, 2					290. 7	355, 5	61.0									1212.3	
- 1	6 20100609								43,0	148.9							181.8		1082.9	
	11 20100609									-									392.5	
	15~7 20100621		15.0					226.1		34.8									26.8	
1								- MARCON - 4:		-0.150							20.0		489.7	

								1:単格							11:二重格子		格子分	1	Annua I	
		200.00	A-JE	格子		B: 縦長斜格子			: 横長斜格子		D:斜格子:異方	B: アミガ状	n meste z	A 1 70° 64 75°	B: 縦長斜格子	V - 40 K 41 W Z	類不明	斜線	無文· 不明瞭	その他
番号	格子の大きさ(縦×横)	(4) D	n-	h	a	b	e.	a	b	c	向線	格子	F: 回刻格子	A:正格子	B: METCHARD T	C. SMIDERHAN T.	BH	D.	7.93964	
	J9 20100621	58.6																	48.6	
,	J9 20100621	206.3													-				8.0	
3	J9 20100621														_				25. 1	
9	J8 20100621																		7.9	
02	J10 20100621																		95. 2	
03	K7 20100624								110.0						210.0					軒丸36.5
04	110 20100624	109.9						114.3	110.3						2.10.0				220, 3	7174002
06	16 20100624	26.8						77.4	_	59. 0									294.2	
	15 20100624					ne n		74. 4 113. 1	44.2	466, 8			-						476.0	
08	H12 20100621	.367. 6				96. 9 72. 1		82.1	196. 8	300,0									384, 6	
	F12 20100621					12,1		06.1	78. 0								25.8		1087, 8	
	H12 20100702								10.17	326.5									513.3	
	G12 20100630	305. 0	159, 4						121.9	446.2									267.3	
	G12 20100624							140.1	282, 7	257. 5	333, 9			57.5			-202.7	82.3	1921. 4	
09	07 20100701	105. 3	201.3					240.2	BOAL T										372. 2	
11	D7 20100702 E5. 6 20100702	485.2	485.1		45.8	119.0		255. 8	121.0	95.5			135, 1				285.6		1854. 2	
111	D6 20100702	303, 8	400.1		10.0	11414		131, 0	281.1								83.7	1	1201.6	
	D6 20100702	93. 0				1318.4				198.4							29.4		1439, 9	
	E6 20100702	aren st							87.6	89. 5									109.0	
112	H12 20100702	52.7			100	103.1		70.6	26.8								88.9		79.0	
113	111 20100702	-																	43, 5	
116	K8 20100707							87.6											145.1	
118	F8 20100708		50. 4														-	-	9, 8	
黄色士	J12 K13 20100706	180, 6	162.9		65. 2	224.8			1078.4	577.5									946.7	
茶色土	20100708	211.2						102.0									62, 9		1276, 2	
	C6 20100526	124. 3															13.7		546, 2	
	C5 20100520															72.3	21.0	-	21.7 805.2	-
	B2 20100520							1040.7									54.9	-	65.9	-
	H3 20100607				384. 8									_	-		74.6	-	504. 8	1
	B5 20100526	75. 4													_	_	-	-	2422.3	+
茶色土	110 20100716								_			-		_			_	-	818.2	_
茶色土	111 20100630	236.4						211.5		953. 0	-	-	-			-	-		84.4	
	K11 20100716	50, 3			-	109.6		50, 3		132.3	-	-				-				軒丸1122.2
褐色土	H5 20100706				-			3,000, 0	212.9		-	-	-	-		388, 0	547.5		1226.2	11111111111
	65 20100701	891.3						1299, 2	144.4		-	_	-				-		311.0	
	H5 20100723	407.3		-	-	-			199. 9	-	-	-							153.1	
A SEC. AND ADDRESS.	G7 20100723	160.0	nee v	-	25.5	450. 6		522.8	585. 9	1231.7	1	_					282. 4		2854. 9	軒丸87.0
褐色砂	13 20100623	156. 2	306. 2	-	35.5	450.0		552,0	000.9	1,001,1									40.3	
色士	K8 20100506	27.1	-	+	-			45.2											86. 3	
	J8 20100428	24.1		+				10.0											259. L	
	J12 20100428 K6 20100511							1											146.3	
	1.6 20100602																		169, 9	
	1.7 20100607																		44.2	
	J7 20100506																	-	128.0	-
	J11 20100428	20.7	52. 3														-	-	200.8	
	J8 20100511														-		-	-	25, 5	-
	L6 20100601													-			1	-	328.7	-
	K5 20100514	161.5									-		-	-		-	+	-	96. 1 185. 0	-
	J6 20100511											-				-	+		321.7	
	J5 20100514	15.1	57.7										-	-	-	+	1	1	12.7	
	L7 20100601							157.0				-		1	-	-	1	1	142.9	
	上段 20100609								6.4	-		-	+	-	227.1	52.8	203.5	1	729.3	
	20100708	840.5	89.3					65.1	466.0			+	-	-	22(.1	52.8	690,0	1	951.2	
	K11 20100430	7.5	29.9								-	-	-	1	1		+	1	965. 7	
	112 20100430							224. 9			-	-	1	1	-	+	1		30. 4	
	112 20100511								nà c	-		1				1		1	172.6	
	39 20100428								90.9	-	-	+			1			1	9.3	
	15 20100511	-							-			1		1	1				325. 1	
	19 20100511	123.4		-	1			1	13.3			1		1		1			668. 1	
	K9 20100506																			

E and the	-	細丝	A=3E	E格子	1	B: 縦長斜格子		1:単格						1	0					
群形	格子の大きさ(縦×横)	1467 611	d	h	/1	p. p.	- c		() 横挺斜格子		n - Risk z - W av	A Companyore			Ⅱ:二重格子		MITTER			
-	J13 20100430							38	b	10	D: 斜格子+ 風方 向線	E:アミダ状 格子	F: 回到格子	4: 正格子	B: 職長網格子	V- 100 20 20 20 20	格子分 類不明	新線	無文字	÷04
	1J5~8 20100621	91, 2				80.0		257. 1	128, 6	200.0		16.7			or meaching a	T HALTE BEIDE T.	班.	-	3.組織	200
	J10 20100428	240.7						68.6	84.2	553. 8 153, 3							20.7		200 W	
	J13 20100430	42.4	100.6			114.6		94.2	67. 5	100, 4							646.7		660.7	
	313 20100428	22.8 87.3	108. 2		80, 8	68.3			97.0	28.6				44. 4					804. 4 380. I	
	III 20100430	57. 2						121.7	285.0	52.5							46.1		753. 0	
	K7 20100511								47. 9										224.3	
	LS. 10 20100603	404.8	26. 9	200.00					74.5										273.9	
	K10 20100430	179.5	200.17	39. 6	85.7			101.3	27. 9										210.2	
£	H3 20100521			-	80. (28.5	251.9									1352.6	
	H9 20100603	22.6				99. 8			177.1	139. 2									1387. 5	
	B11 20100603	250, 3						18.5											277.8	
	G4 20100521	89. 6						337, 2	124, 5										342.8	
	F6 20100526	99.0						218.3									1		893.3	
	H13 20100524	200.5						459.1	174.5								165.6		932, 9	
	20100708	61.7			193.2			96.2	Ding. Is						-		42.4		1214.0	
	G6 20100701 R12 20100603					199.1		155, 8 170, 4	222.8									100	242.2	
	E6 20100524	51.3						277_3	199,3 274.9								97.1	49.0	588.1	
	H12 20100702	178.7				244.0		201-3	123.5	-							94.1		1737, 9	
	67 20100701	27. 7 545-4		451. 2					120.0							69. 9			330. 8	
	G8 20100521	140.2														200 (2	95. 4		847. 3 233. 9	
	中段 20100511	79.7	1900/2	100													20.74		71.8	
	64 20100701	56. 4	18, 5	177.1					96.2								7.8		375.4	
	E9. 10 20100531	30.4						40.0			-						28.3		755.8	
	F5 20100526	140.2	231.9		200			49.3	22.9			-					144.4		554. 2	
- 4	15 20100701	64, 4	1201-3		361.9			143.8					700-5		69. 2		20.6		361.7	
	G6 20100524	118.1		-		88. ((108.5				67.2		1337.1	
	E9. 10 20100531	139.5	50.4					188. 5		134.4							100.8		290, 7	
	E7 20100528							105.3	152. 4	114.3									655. 6	
	GIT 20100608		71.3			70.6		104.5		59.7									1073.2	
	G5 20100602					104.4		600.0	78.9	115.6									318.0	
	H5 20100701					104-3		305.5	909.8										592.5	
	F9 20100531																97.5		265.4	
H	F7 20100524			= -		134.8		358.8											10.0	
- 6	7 20100511 6 20100701	91.6				319.0		721.3	67. 4								-		190, 6	
	20100701					137.6		122-3	07.4								-	-	924, 7	
	6 20100526	140, 3				85.3		308.0	170, 2	55, 8							-	-	473.1	
	6 20100601					51.6		316.0	77.9	55, 8								-	91.8	
	8 20100602	79.2				402.7			131.5									-	914.7	
	3 20100521	79.0	70.0					65.4											330.2	
	8 20100524	600.0	72.3			147, 7				172.0								-	168, 9	
	7 20100524																33. 8	1	370. 6	
E	8 20100524					Ann		32, 8	29.8								24.3		452.3	
	9 20100601	20.1				.335, 9														F丸102.6
	9 20100702								147. 6										264.9	
	7 20100706																		188.5	
	10 20100531						-	75.00										61.9	2684	
	1 20100521							61.7	64.8										202, 5	
	20100524								371.8										259.1	
	20100706								483, 4	170.5							65.7		39.1	
	20100524 20100603							49.8	12.6									-	51:7	
	20100603	68. 1						10.0	25. 3						61.4		-		12,3	
	0 20100630	21.0							20. 3						-4.4		-		212. 1.	
	20100602	34.2						123.0											93.0	
	6 20100603	40.5						34.9	115.0								72.9	-	213,3	
	0 20100603	69. 8						10.6	A Fort of								7 401 57		85.0	
1.2	-2100000					20.9													172.8	
																			109, 6	
																		_	200,0	

	T T							1:単格日							11:二重格子		4000	70.1	無文十	
			A-IE	等于		E:縦長斜格子		- 0	: 横長斜格子		D: 科格子+異方	E:アミダ状	F:凹刻格子	8:正格子	B: 解長斜格子	C. 随其树林子	格子分類	料概	無人。 不明度	その他
横雷号	格子の大きさ(縦×横)	雑日	а	Tr.	а	-6	0	B	h	C	向課	格干	F : ELMENT	0 - 12-111	Donate British	C. INDEPTHE	1 000		874.8	
±	1.8 -20100706	287. 6	81.9			87. 0		48.5		173.8							30.0		1414.5	
and the same of th	20100726	203.9						260, 6	71. 0	187.1						117.0	01.0		1996.9	
	1.3 20100706	165, 6						274.0	491, 1	725. 4						117.3	21.0	-	364.9	
	20100716	132.9	67.5			326.1		474.9	249.9	168. 2									871.1	
	中段 20100416				94.4														681.7	
	20100526							550.9	101.2	193.5									88.1	
	20100514								197.8	212.9					-				307-2	
	L5 20100609					88.8		30.4	80. 6										365. 3	
	中段 20100428							106.4											42.3	
	20100601								21.9						-		-			新型650. 8
	中段 20100416	54.4						1296. 1	1108, 5						-		-		1171.5	#1 TOOL O
	中段 20100409	290, 9				424.7			2904. 8								-	43.3	771_2	
	20100428	115.1				65. 1			239, 9	217.7					-			40.0	275.9	
	20100702	1							390, 5								96.8		671.8	
	14 20100512	75.4			58, 9										-		300, 20	-	412.3	
	中段 20100416							395, 6	1250. 2						-	-	-			軒丸17.9
	上長 20100409					213.8			70.3						-		26.9		761.8	417621-2
	中段 20100409	1002.1						454.7	126.7						135.4		20:3	-	740.4	
	20100428							943.3	188. 5						130.4		33. 7		995, 4	
	L13 20100621	123.5							272.1						-		217.8		1042.9	
	中段 20100409				107, 8				231.7								242.8		644: 2	
	F8 20100526								57.3								292.0		473.8	
	ER 20100428	118.6	327.8					399.7		181.4					-		-		486.0	
	20100726					205.5		112.8	103. 2				_		-		254. 4		255.3	
	中段 20100416													_	_		270.0		125.7	
	20100428				82.3										_		.27970		36.6	
V24	16 20100716														-		-		30. 0	
V2Ŧ														-	+		11. [
429	17 20100716					193.9						_		-	-		11. 1		283, 3	
NJ SP	GS 20100716	238, 3							257.1		202.3					1	_		2011-0	-

Fig. 33 第 42 次調査瓦叩き目分類凡例

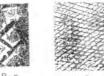


























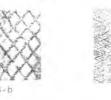


















2、第43次調查

(1) 調査に至る経過

第 43 次調査地点は太宰府市大字内山 883 番地の竈門神社境内地にあたり、平成 25 年度に開催予定の 宝満山開山 1350 年大祭に伴い記念事業が予定され、社務所改築を含む境内整備をすることとなり、平 成 20 (2008) 年度より埋蔵文化財の事前協議を行った。工事概要は石垣の解体、土留め工事を伴う境 内の造成と、昭和 2 (1927) 年落成の木造平屋の社務所を鉄筋構造の建物への改築であった (Fig. 34)。

建物部分の試掘調査は、平成 20 (2008) 年 12 月 25 日に社務所西側に 1 箇所、平成 23 (2011) 年 11 月 1 日に社務所下に 3 箇所のトレンチを設けて行い、建設工事に伴う進入路の整備に伴って、平成 23 年 11 月 1 日にも斎館西と北側で 13 箇所のトレンチを設けた試掘調査を実施し遺物を回収した。文化財保護法第 93 条に基づく建物の基礎工事の立会調査は、本殿北西の仮社務所建設時の平成 23 年 7 月 23 日と、新社務所の基礎打設に伴う掘削作業時の平成 23 年 12 月 19、20 日に行い、壁面などから遺物を採集している (Fig. 36・37)。また、神社境内の測量、社務所・斎館の家屋調査や石像品の調査は平成 23 年 4 月に、文書関係の調査は平成 23 年 5 月 2 日に行った。

(2) 基本層位

今回の調査では社務所、仮社務所、斎館西・北側の3箇所で掘削による土層観察を行った (Fig. 36)。社務所地点では平成23年12月19、20日の立会調査によって、現地表下3mに至っても観察された橙茶色土、黄茶色土等は近代以降の瓦を含む遺物を含み、社殿建設以前の地山には至っておらず、かなり深い谷部を人為的に埋めた箇所であったことが判明した。平成23年7月23日の現在の本殿北西の仮社務所の立会調査では、東側の地表下0.4mで橙褐色を呈す花崗岩風化土の地山が確認されている。本殿は大正15年に造成工事が行われ、江戸時代以来のものが建て替えられたものだが、その基礎工事時の写真が社務所に保管されており、その状況から本殿は花崗岩風化土の地山を掘削して建ったことが理解される。このことから、現在の本殿基壇南側は急に深くなる谷地形であったと考えられる。近代以降に形成された谷の埋没土には中世の土師器、中世後期以降の瓦が含まれており、土壌が周辺の土壌を削って寄せられたのであれば当該時期の遺物包含層があった可能性がある。神社社殿がいつから現在の位置にあったのかを考える上で示唆的である。

平成 23 年 11 月 1 日の斎館西と北側での試掘調査では、ほとんどのトレンチで地表下 $0.3\sim0.5$ m ほどで橙茶色の花崗岩風化土壌の地山が観察された。そのうち E と L トレンチでは茶褐色土から土器片や古代の瓦片が見つかっており、この地点より高位置にある斎館側の法面でも土器片や磁器片が散見されることから、この山際に中世から近世にかけての遺物包含層があるものと考えられる。

(3) 出土遺物

試掘調査出土遺物 (Fig. 37)

ここで紹介するものは平成23年11月1日の試掘調査によって得られた遺物である。

土師器

小皿 a (1) 酸化炎焼成で焼かれたもので、淡い橙色を呈す。復原口径 10.9cm、器高 0.9cm、底径 8.2cm に復原される。底部は糸切り後に板状圧痕が残される。11世紀後半以降の所産である。

須恵器

坏 c3 (2) 暗灰色を呈し硬質な胎土を持ち、口径 10.4cm 程度、器高 2.5 + α cm、底径 7.9cm に復元される。高台がやや外に開く形状で、体部下に屈曲部位があり、8 世紀でも前半の大宰府土器編年第 II ~III 期の様相を持つ。

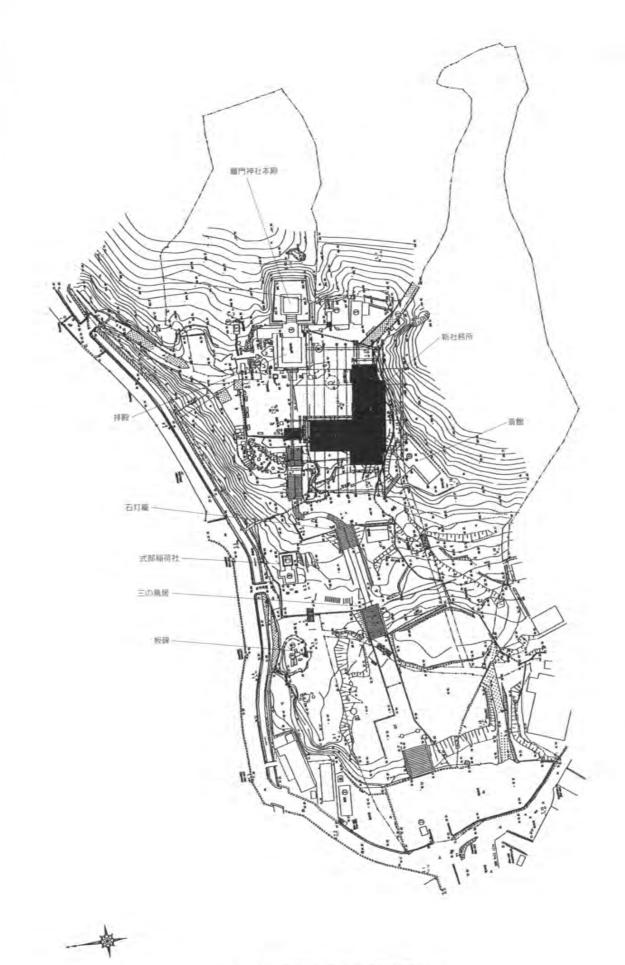


Fig. 34 竈門神社境内工事施工図



Fig. 35 竈門神社境内東側測量図 (1/500)

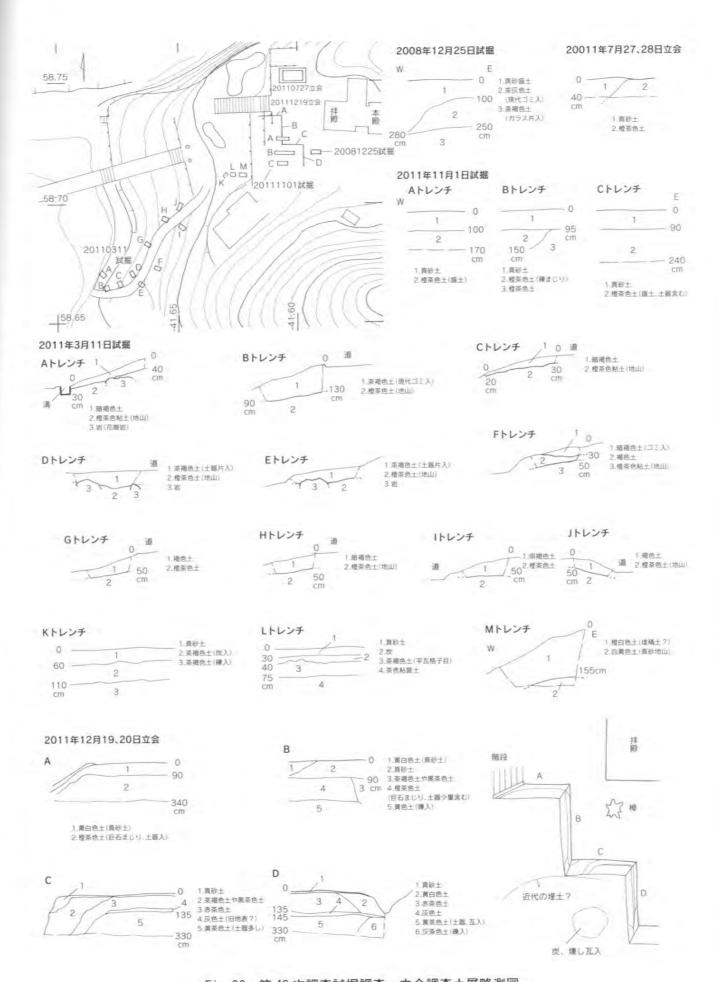
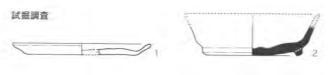
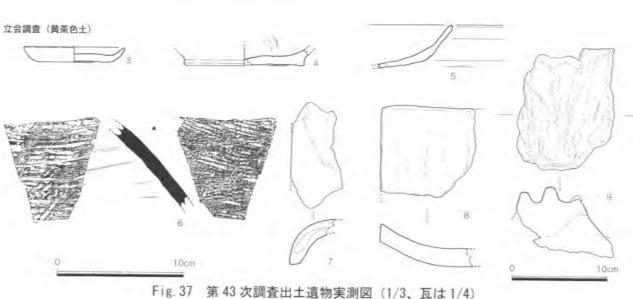


Fig. 36 第 43 次調査試掘調査·立会調査土層略測図





立会調査出土遺物 (Fig. 37)

ここで紹介するものは平成 23 年 12 月 19、20 日の立会調査によって得られた遺物である。 土師器

小皿 a (3) 淡灰褐色を呈す軟質な胎土を持ち、底部は糸切りで切り離される。口径 8.0cm、器高 1.2cm、底径 5.8cm に復元される。XIX 期の 14 世紀前半頃の所産か。

坏 a (4) 淡橙褐色を呈す軟質な胎土を持ち、やや厚みのある底部を持つ。底部は糸切りで切り離される。器高 1.4cm を測る。

丸坏 a (5) 淡橙褐色を呈す軟質な胎土を持ち、底部付近にヘラ切りの痕跡が見られる。器高 3.4cm を測る。11 世紀中頃の所産か。

須恵質十器

甕(6) 還元焼成で硬質な胎土を持つ。外面のタタキ目と内面の当て具ともに疑似格子目の刻みを持ち、外面は摺り消された状況を呈す。内面には横位の沈線が数条入る。搬入品で産地は不明である。 瓦類

丸瓦(7) 酸化焼成で軟質。芯のみ還元化している。内面に布当ての痕跡があり、端部はヘラ切りか。 淡橙色を呈す。形状から中世後期から近世の所産と考えられる。

平瓦 (8) 還元焼成気味で表面の大半は淡灰褐色を、表面の一部は燻しにより黒灰色を呈す。内面の 縦方向に段状の筋が並行してみられる。作業台の木の合わせ目のずれによるものか。中世後期から近世 の所産と考えられる。

道具瓦(9) 残存している部位にやや撥形に開く3条の隆起線が残される。鬼瓦の眉間のしわの部分か。焼成は軟質で白灰色を呈す。中世後期から近世の所産と考えられる。

(4) 調査まとめ

①調査の所見

今回の調査は工事に合わせた確認作業が主となったため、埋蔵文化財としての所見は十分得られなかった。少なくとも社務所の建つ位置は花崗岩の傾斜面に中世までの遺物を包含する層があり、その上に 多量の近世以降の土壌が載せられて整地され、その前面に石垣が築かれていたと言える。立会調査も 含めて出土した遺物は奈良時代から近世に及ぶもので、これまで下宮地区で行ってきた第24、27、36、37 次調査などの出土遺物の時代幅にほぼ一致している。奈良時代では前半の時期から人の活動が認められ、広大な山中での祭祀行為の基点としての機能が、この下宮地区にあった可能性がある。現在この竈門神社本殿のある場所に、いつの時代より下宮の社殿が建設されていたのか、文献では確実な資料を見つけ果せてはいない。その意味で、立会調査で鬼瓦を含む中世後期から近世に位置付けられる瓦類が発見されたことは貴重であった。

②境内の変遷

今回の調査においては具体的な社殿の建造時期や規模について知ることが出来なかった。近代に至るまで宝満宮や竈門宮と表記された神社は上宮が本殿であり、山裾の下宮は山頂を遙拝する拝殿的な機能であったと思われる。江戸前期に編まれた『竈門山旧記』には「上宮に対して下宮と号す。大塔、金堂、鐘楼、大講堂、僧房、食堂、文庫、経蔵、神社伽藍所々其跡猶存せり。大塔輪堂の跡は心柱の礎に可知。傍に礼拝石と云有り。山上の宮拝する所也」と記載され、伝聞では一大伽藍が展開していた土地だと説明されている。境内にある下宮礎石がその代表的な遺跡となっているといえようか。江戸後期に編纂された『筑前国続風土記附録』には宝満山の絵図が採用されており、江戸後期の下宮地区の概要を知ることができる(Fig. 40)。それによれば、参道は現在も境内の式部稲荷社近くにある金剛兵衛の板碑(図中では「紹翁石塔」とあり)辺りが境内の入り口であり、鳥居を潜ると数段の階段が設けられており、坂道のすがらの左手に大師堂と祇園社が順に並び、反対の右手には留守坊としての圓光院が描かれる。さらにその奥の最高所に入母屋造りの下宮社殿が描かれている。ここで描かれている社殿は幕末に焼失し、安政元(1854)年に黒田藩によって再建されている。再建された社殿は大正15年まで保持され、絵葉書などにより写真でその姿を見ることが出来る(写真1)。

境内地の近代以降の変遷について、今回の社務所移転に伴う文書調査によって大正14年以前、昭和2年4月、昭和16年、昭和18年の境内図が発見された。これによれば、大正14年までは江戸時代以来の境内の地形を保ち、参道は現在より狭く直線で、現在の式部稲荷社の位置を抜けて境内西側の消防小屋方向に延びていた。下宮礎石建物とは参道を挟んで反対の位置にあたる金剛兵衛の板碑のある辺りには民家が数軒建ち並んでいた。下宮本殿と社務所が建て替えられた昭和2年までには民家周辺は解消され、斎館も位置が変更されている。現在の式部稲荷社の位置に石垣が整備され、ここが下宮正面の観を呈すようになった。昭和16年には下宮礎石建物のある位置の一部を含む現在の境内西側の土地が編入された。そして昭和18年に斎館が現在の位置に建て替えられ、なによりも幅の広い現在の参道が新規に掘削整備され、駐車場東にある階段と石鳥居を正面とする、現在の境内地の形状に至っているようである。

○竈門神社旧下宮境内の近世以降の変遷

慶長2 (1597) 年 小早川隆景による諸堂の復興。下宮も再建か。

安永 9 (1780) 年 参道石鳥居建立。

安政元 (1854) 年 黒田藩による焼失した社殿の再建。

明治初期頃 仏教系堂社 (圓光院、祇園社、大師堂) の廃止・破脚。

明治 27 (1894) 年 村社から官弊小社へ昇格。

明治 45 (1912) 年 この頃までに石階段の造作など参道の整備あり。

大正 14 (1925) 年~昭和 2 (1927) 年 社殿と社務所の全面改築。社殿は切り土造成して規模が拡張 される。

③境内地内のその他の文化財

石垣 (Fig. 38)

今回の調査では社務所西側斜面上段の石垣を実測した。高さは 3m を測る。下から 1.6m までのベースは幅 0.4~ 0.6m の花崗岩を平置きしたものに、左方向に寝せる斜め目地となる石組みをしたものであり、標高 175m から上はランダムに花崗岩を積んで目地をモルタルで塗ったごく新しいと思われる石組みを積み足したものである。その上に「昭和 63 年 1 月造」とある花崗岩切石による柵が載っている、境内の変遷過程から、下段は江戸時代、上段は昭和のものと考えられる。

石鳥居 (Fig. 38) •

参道中間に建つ三の鳥居で、右柱に「安永九年庚子年一月吉旦加藤一敦□建之」、左柱に「下新市□富昌平」と陰刻されている。笠木は島木先に多生反り増しが見られ、分割は中央位置であり、扁額は東と額が一体の造りで、「竈門山宝満宮下宮」の文字が陰刻されている。中抜きは中央と両脇が別造りの差し込み式である。柱は継ぎ手のない一本作りで、礎石は用いず原石を残して先を太くしたものと考えられる。参道外の地表面から笠木先までの高さは4.7m、笠木の幅5.8m、柱は内側に1度12分転ぶ傾斜を持つ。笠木の接合や継ぎのない1本柱、柱の転びから江戸後期の筑前地方での八幡型鳥居の典型的な形状を持っている。

石灯籠 (Fig. 38)

参道階段脇に型式の異なる2基の石灯籠がある。北側のものは竿に「奉献 永代常夜燈」「文化十一年甲戌三月吉日」とある。宝珠の受けは輪花状の飾りがあるもので、笠は横に広い形状を呈す。総高2、49m、台座の幅0、88m、火袋の幅0、36m、笠の幅0、8mを測る。南側のものは竿に「献燈」「明治三十五年八月吉日」とあり、総高2.7m、台座の幅0.98m、火袋の幅0.33m、笠の幅0.65mを測る。

板碑 (Fig. 38)

『筑前国続風土記附録』に「紹翁石塔」と紹介され、地元では式部稲荷社近くにある刀鍛冶の「金剛兵衛」(宝満山の刀鍛冶師)の石塔として知られる板碑である。花崗岩製で方形の台石にはめ込まれた状態で建っている。頭が三角形で上部に2条の帯を表現した段を有する。碑は上位で斜めに折れたものがコンクリートモルタルで接合された形となっているが、不動明王 (カーン)の梵字種子の下に蓮華座が線刻されている。台座は高さ0.28m以上、幅0.7m、碑の高さは1.62m、頭の幅0.34m、下の幅0.38mを測る。現状では銘文は確認できない。太宰府地域では希少な碑伝形を呈す中世後期(鎌倉時代後期~室町時代)の板碑である。

石塔 (Fig. 38)

境内地の斎館西に五輪塔の空風輪が1点残されている。凝灰岩製とみられる素材で、高さ19cm、幅15.6cmを測るやや高さに対して幅のある形状を呈している。中世後期の所産と見られる。中世から下宮の存在が確実視されるが、このような石像品の残存が、この場所が中世以来の霊地としての信仰の場であったことを示しているのかも知れない。

建造物 (Fig. 39)

今回建て替えの対象となった建物は社務所、その後に建った社務所南側の参籠室、その南側の潔斎室、そこから渡り廊下で下った西にある斎館である。社務所は台湾からのヒノキ材で大正 15 年に建てられたもので、斎館は昭和 18 年に建ったものである。

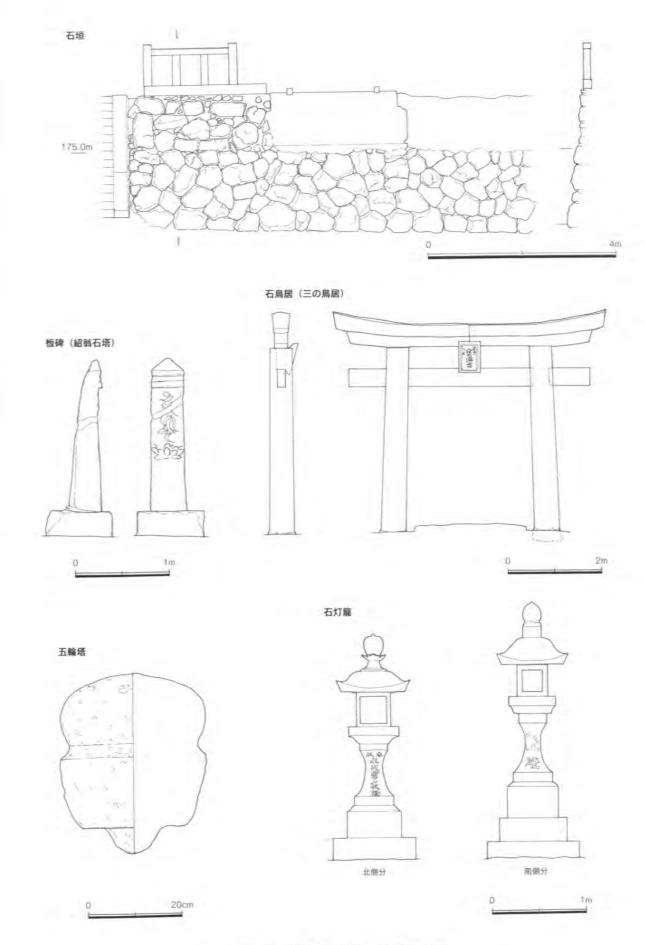


Fig. 38 竈門神社境内石造物実測図

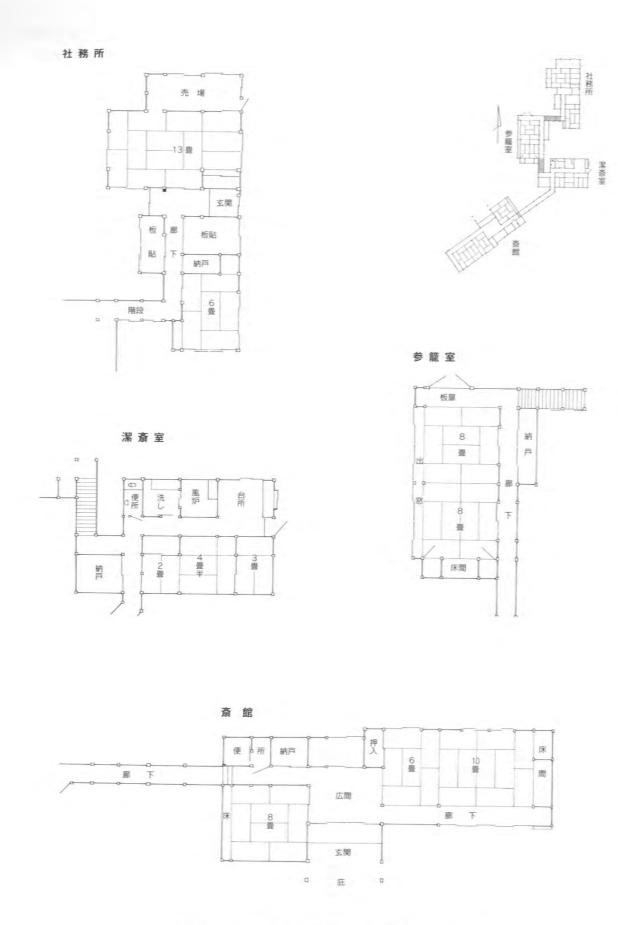


Fig. 39 第 43 次調査 竈門神社境内建造物略測図



Fig. 40 『筑前国続風土記附録』の宝満下宮の境内図 (トレース図)



写真1 大正15年改築以前の竈門神社本殿

表 5 第 43 次調査 出土遺物一覧表

斎館北側表土

須	恵	器	供膳具	
白		磁	III; IX(1)	

立会調查(黄茶色十)

±		師		器	坏a(ヘラ)	坏a?(イト)	小皿a(イト)	
須	恵	質	士	器	甕			
瓦				類	平瓦(瓦質、	無文、中世~)	丸瓦(土師質、無文)	道具瓦(瓦質、中世~

試掘調查

h shills.										
須	恵	器	坏c3			1				
±:	師	器	坏a?	小皿a(イト)	小皿a(ヘラ)	i				

写真図版

写真図版には遺構の主な写真を掲載している。その他の遺構写 真および遺物写真は、付録のCDにカラー情報で収録している。



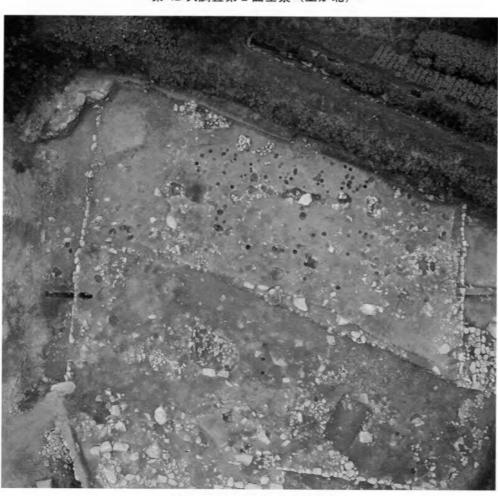
第 42 次調査地全景と宝満山(西から)



第 42 次調査第 1 面全景 (上が北)



第42次調査第2面全景(上が北)



42SB001 建物全景 (上が北)



42SX045 石段全景(南から)



42SX040 基壇東辺全景 (東から)



42SX040 基壇南辺と SX065(手前)検出状況(南から)



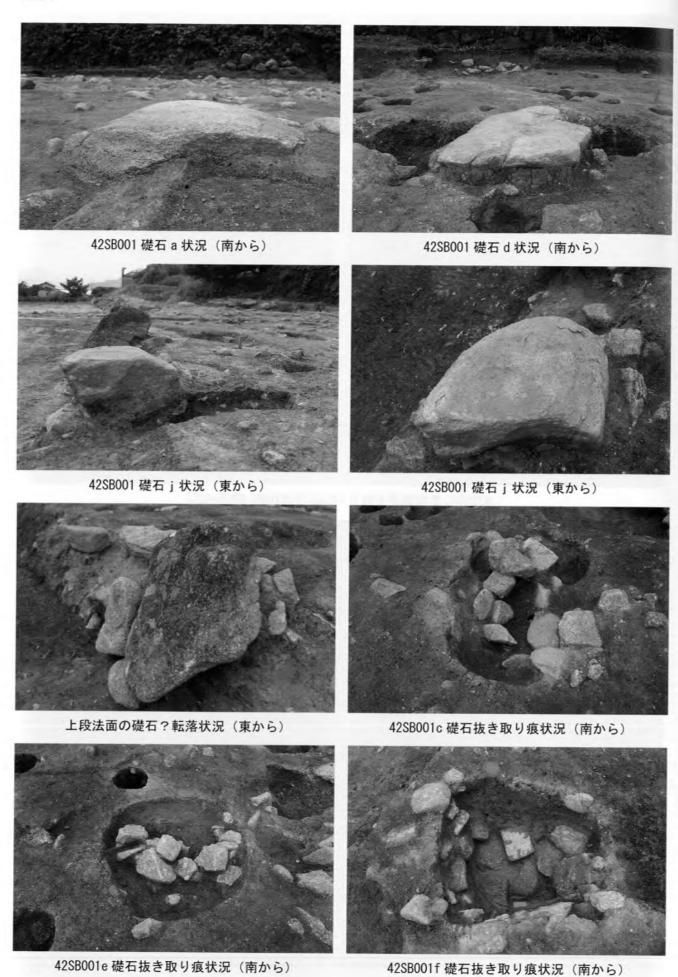
42SX040 西辺検出状況 (西から)



42SX040 基壇西辺石列と SX002 整地状況 (南から)



42SX090 検出状況(南から)





42SX030 検出状況(北から)



42SX030 転落石除去状況 (北から)



42SX030 転落石除去状況 (上が東)



42SX030 石敷状況 (東から)



42SX020 検出状況(南から)



42SX050 検出状況(南西から)



42SX005 検出状況(南から)



42SX015 検出状況(南西から)



42SX025 検出状況(西から)



第 42 次調査地全景と脊振山遠景(東から)



試掘調査全景(2011年3月11日、南西から)



立会調査 (2011年12月20日、南からC壁面を望む)



竈門神社拝殿と本殿(南西から)



竈門神社社務所遠景(北東から)



竈門神社本殿正面石垣(北から)



竈門神社境内中段の鳥居(南西から)



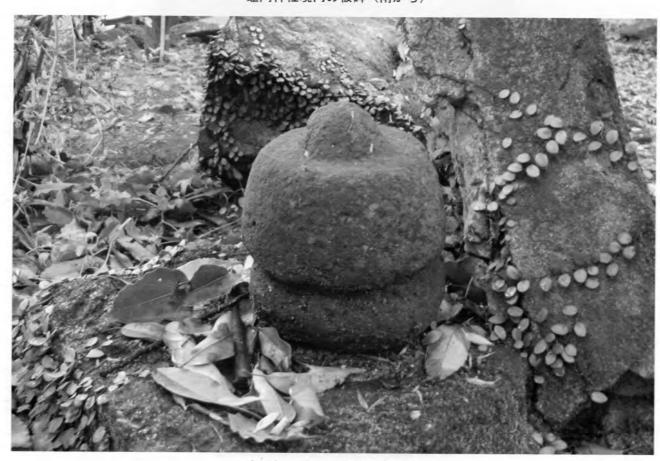
竈門神社境内中段北側石灯籠(南西から)



竈門神社境内中段南側石灯籠(北西から)



竈門神社境内の板碑(南から)



竈門神社境内の五輪塔空風輪



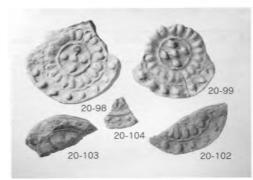


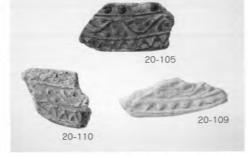


42SX018 出土鬼瓦 (Fig. 14) 42SX030 茶灰色土出土土師器 (Fig. 17) 42SX030 灰色粘土出土土師器 (Fig. 18)



42SX030 灰色粘土出土瓦製品 (Fig. 19-91)



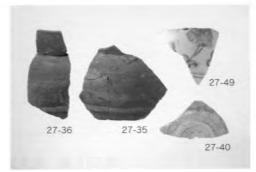


42SX030 灰色粘土出土軒丸瓦 (Fig. 20)

42SX030 灰色粘土出土軒平瓦 (Fig. 20)







42SX035 出土土製品 (Fig. 24-27)

42SX037 出土遺物 (Fig. 27)









42SX033 茶灰色土出土 瓦質土器花立 (Fig. 28-71)

第 43 次立会調査出土鬼瓦 (Fig. 36-7)

報告書抄録

ふりがな	ほうまんざんいせきぐん													
書名	宝満山遺跡群 7 宝満山遺跡群 第42·43 次調査													
副書名														
シリーズ名	太宰府市の文化財													
シリーズ番号	117集													
編著者	宮崎亮一 山村信榮													
編集機関	太宰府市教育委員会 福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号 2012 (平成24) 年12月28日													
所在地														
発行年月日														
ふりがな	条坊	ふりがな	コード		座標		調査	期間	調査面積	調査原因				
所収遺跡名	【鏡山推定案】	所在地	市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了	m²					
ほうまんざんいせきぐん		太宰府市												
宝満山遺跡群 第42次	条坊外	大字内山	402214	210187	58190.0	-41900.0	20100420	20100731	877	造成				
ほうまんざんいせきぐん		太宰府市												
宝満山遺跡群 第43次	条坊外	大字内山	402214	210187	58350. 0	-41385. 0	20081225	20111220	939. 39	社務所建設				
所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構		主要遺物			特記事項						
宝満山遺跡群 第42次	社寺跡 中世、近世		礎石建物、基壇 石垣		瓦、土飾器									
宝満山遺跡群 第43次	社寺跡	中世、近世	整地		鬼瓦、土器			建造物や文書の調査も行う。						

太宰府市の文化財 第117集 宝満山遺跡群 7

-第42·43次調査-平成24(2012)年12月

編集 太宰府市教育委員会

発行 太宰府市観世音寺 1-1-1

印刷 有限会社 システム・レコ 福岡市東区多の津一丁目 14番 1号 FRC ビル

